福井工業高等専門学校

自己点検・評価報告書

平成22年2月

Creativity and Curiosity
福井高専

独立行政法人国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校

ま え が き

本校は、本年で創立４５周年を迎え、この間、本科卒業生約６，２００名、専攻科修了生約２６０名を社会に送り出し、わが国の産業発展に寄与するとともに福井地域に多大の貢献を果たしてきた。国立高等専門学校は、主として国民の税金で運営されており、その運営状況を外部に公開し、内容を国民に積極的に説明するとともに、常に改善に努めることが求められている。本校は平成１６年の法人化から６年経過しようとしており、今年度からは新たに策定された第２期中期計画に基づいて教育研究活動を展開している。本校の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）により認定され、認定校としての社会的評価を得るとともに、本校専攻科修了生は技術士一次試験が免除され、最短２６歳で技術士の資格が取れることとなっている。また、本校は平成１７年に全国高専のトップを切って大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、「本校は高等教育の基準を満たしており、改善を要する点はない」との認定を受けた。特に、平成１７年度から工学基礎コースを設置し、１年全科共通科目としての「ものづくり科学」を新設したことなど、本校の取り組みの幾つかが優れたものとして併せて認定されたことは、教職員が普段から取り組んできた努力の成果だと考えている。

本校では、自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を整備し、普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている。本自己点検・評価報告書は、平成２１年１月にまとめた同報告書に続くもので、本校の教育・研究活動の全貌を記載している。

上記福井高専教育点検システムでは、計画(Plan)、実施および運用(Do)、点検・検証(Check)、見直し・改善（Action）の、いわゆるPDCAサイクルが常時運用されるが、その要が毎年刊行されている本報告書であり、外部に公開して第三者のご批判、評価、ご意見を戴くことをその目的とする。本校では、学外からの意見を仰ぐため、福井工業高等専門学校外部有識者会議を設置し、本校の教育研究目標と計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について助言と勧告を得ることとしており、本書はそのための基礎資料としても利用に供される。

本書が本校内外で活用されて、本校の教育研究の一層の改善・充実につながることを期待している。

平成２２年２月

福井工業高等専門学校
校長　池 田 大 祐

目　　次

ま　え　が　き

Ⅰ．　本校の現状と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅰ-1　現状と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅰ-2　学科構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
Ⅰ-3　学習と教育の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
Ⅰ-4　第Ⅱ期中期計画及び平成21年度アクションプラン ・・・・・・・・・７
Ⅰ-5　研究活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
Ⅰ-6　地域への支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
Ⅰ-7　現代ＧＰなどの採択状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
Ⅰ-8　広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
Ⅰ-9　将来計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
Ⅱ．　各学科・教室の教育理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
Ⅱ-1 一般科目教室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
　1. 教育理念・教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
　2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
　3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
Ⅱ-2 機械工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
　1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
　2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
　3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
　4. 進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
Ⅱ-3 電気電子工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
　1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
　2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
　3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　4. 進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
Ⅱ-4 電子情報工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
　3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
　4. 進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

Ⅱ-5 物質工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
4. 進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
Ⅱ-6 環境都市工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
4. 進学・就職指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２
Ⅲ. 専 攻 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
1. 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
2. 将来計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
3. 重点課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
Ⅳ. 教務関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
2. 教育関連の課題と今年度の対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・４５
3. 校舎改修工事に伴う教務関連の対応・・・・・・・・・・・・・・・４６
4. 入学者確保とその状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
5. 新型インフルエンザに関する教務及び入試関連の対応・・・・・５４
6. 留学生受け入れ状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
7. 在校生の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
Ⅴ. 進路指導関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
2. 本校卒業後・修了後の進路 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
3. 進路決定の流れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
4. 進学・就職先一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
Ⅵ. 学生指導関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
2. 学生の活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
3. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成 21 年度） ・・６６
Ⅶ. 学寮関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
1. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
2. 寮生の受け入れ状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
Ⅷ. 学生相談室関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
1. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９

2. 学生相談室・保健室利用状況と相談分野・・・・・・・・・・・・６９
Ⅸ. 図書館関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
2. 活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
Ⅹ. 創造教育開発センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
1. 創造教育開発センター設立の経緯と業務 ・・・・・・・・・・７３
2. 20 年度の活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
3. 次年度への課題など ・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
ⅩⅠ. 総合情報処理センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
2. 活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
ⅩⅡ. 地域連携テクノセンター ・・・・・・・・・・・・・・・・７９
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
2. 活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８０
ⅩⅢ. 教育研究支援センター ・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
1. 基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
2. 活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
ⅩⅣ. 評価体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
1. 本校の評価体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
2. 外部評価の受審 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
3. 評議員会による外部評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・８２
4. JABEE への取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・８６
ⅩⅤ. 資料一覧
・科学研究費補助金採択一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・８９
・外部資金受入一覧（共同研究・受託研究・奨学寄付金） ・・・・・・９２
・出前授業・公開講座実施一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・１０７
・公開授業実施一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２２
・教員の派遣一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２３
ⅩⅥ. 教育研究スタッフ一覧
・一般科目教室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２５
・機械工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７３
・電気電子工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９３
・電子情報工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１５
・物質工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３５
・環境都市工学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５９

Ⅰ．　本校の現状と特色

Ⅰ-1　現状と特色

本校は，実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和４０年４月に設置された。これまでに６，２４９名の本科卒業生及び２６２名の専攻科修了生を送り出している。現在，「機械工学科」，「電気電子工学科」，「電子情報工学科」，「物質工学科」，「環境都市工学科」の５学科において，実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく，５年一貫教育を行っている。また，平成１０年４月には専攻科を設置し，「生産システム工学専攻」，「環境システム工学専攻」において，さらに進んだ教育を行っている。

教育の特徴としては，豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため，「ものづくり教育」を進め，ＮＨＫアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し，平成５年度，平成９年度の２度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得している。

本校を目指す中学生に対しては，アドミッションポリシーを示すと共に，平成１７年度には，入学時に学科を決められない中学生のために，２年次より転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また，福井高専は地元に立脚した学校及び地元に開かれた学校を目指し，産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では，地元に密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者の組合である，福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置（平成１６年１０月）し，和紙に関する共同研究を行っている。

さらに，福井高専の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地である。福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し，眼鏡枠材料に関する共同研究を「地場産業支援室」の設置（平成１７年４月）により行っている。また，平成１７年５月には，これら地域社会との連携をさらに深めるため，近隣２市１町と本校は包括的な連携である「地域連携協定」を結び，さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組んでいる。

国際連携としては，海外学生派遣制度の他，平成１７年度からオーストラリアの Ballarat 大学と提携し，学生の相互互換留学制度を開始することとし、平成 18 年 5 月に本校学生 17 名が Ballarat 大学へ 1 週間留学し、英会話と現地の文化歴史に関する学習を行った。今後とも同大学と本校は相互互換留学制度を続けることで合意している。

学校運営の評価として，平成１４年度に校外の有識者による外部評価委員会（平成１６年度から「評議員会」，平成２１年度から「外部有識者会議」）を設置し，開催後に結果の開示を行っている。

また，平成１７年５月には日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の認定校となった。平成１８年１１月には中間審査として訪問審査が行われ、前回のW（弱点）の項目がほとんどA（適合）評価となった。

さらに、平成１７年度１１月には大学評価学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審し、平成１８年３月に「改善事項なし」との評価結果が同機構より発表さ

れた。

Ⅰ-2　学科構成

昭和４０年度に本校は「機械工学科，電気工学科，工業化学科」の３つの学科で発足した。これは，工学の基礎となる機械・電気・化学となる学科が構成されたものであるが，工業化学については福井県が繊維及び染色関係の企業が多いことにより設置されたものである。

また，昭和４５年度には「土木工学科」が増設されたが，これは，福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であると共に，当時の土木技術者不足に対応するためである。さらに，昭和６３年度には情報社会の到来を受けて，ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が増設された。

その後，平成５年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として改組した。また，平成７年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し，材料工学コースと生物工学コースの二つのコース制とした。さらに，平成１７年度には，電気工学科を「電気電子工学科」とした。これは電気工学科卒業者にも，近年の進展する電子技術を基礎より教育する必要があるため，学科の改組を行ったものである。

したがって，現在の学科構成は「機械工学科，電気電子工学科，電子情報工学科，物質工学科，環境都市工学科」の５学科による構成となっている。これは，本校の基本理念に掲げる環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行うための学科構成となっている。すなわち，福井県の主幹産業である，繊維工業，化学工業，眼鏡枠工業，電子電気工業，環境土木産業に基づいたものとなっている。福井県の産業には，繊維工業，眼鏡枠工業などデザイン技術が重要なものが多い。

したがって，本校の教育目標では，ものづくり・環境づくり，システムデザイン能力の育成を掲げ，５つの学科で共通にこれらのことを学ぶシステムとなっている。さらに，一般科目では専門の基礎科目，文科系科目を履修し，専門課程での学習に十分に教育効果をあげることができるようになっている。

最近１０年間の各学科の求人倍率は，各学科とも１０．０倍を超えて，各学科は社会から受け入れられていることを示している。

Ｉ-3　学習と教育の目標

本校は昭和４０年４月に創立され，翌，昭和４１年度に教育方針が制定された。当時の制定の説明に「優秀な技術者を養成するため，将来に向かって大きく伸びる力，進歩と創造と開発が可能となる力としての基礎的学力知識を身につけた技術者に成長させることが念願である」とあり、次のような目標が制定された。

教育方針

1　技術者として必要かつ十分な基礎学力と専門技術を身につけさせる
2　個性を尊重し、独創的能力の開発に努力する
3　教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する
4　健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5　規律ある日常生活に徹し、明朗かっ達な資性のかん養を図る

優秀な技術者を養成することを目標とし、将来に向かって大きく伸びる力、進歩と創造と開発が可能となる力としての基礎学力知識を身につけた技術者に成長させることが念願である。

また，平成１５年４月には，ＪＡＢＥＥ受審を目指して，教育方針に地域社会の本校への要請などを考慮に入れた「教育目標」５項目が制定され，翌，平成１６年度に，本校が独立行政法人へ移行したとき，その中期計画の冒頭に「基本理念」，「養成すべき人材像」が本校の使命として制定された。また、各学科・専攻科のそれぞれの目的も定められた。

さらに，平成１６年度には，５項目の「教育目標」をさらに具体的に理解しやすくするために，３５項目の小項目が追加された。そして、平成１９年度にこれら小項目がさらに理解しやすくなるよう整理された。

福井工業高等専門学校の使命

基本理念

・創造性豊かな人材の育成
・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を修得させる
2. 個性を伸長し、独創的能力の開発に努力する
3. 教養の向上につとめ、良識ある国際人としての成長を期する
4. 健康の増進につとめ、肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5. 規律ある日常生活に徹し、明朗、かっ達な資性のかん養を図る

教育目標

Ａ．地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり･環境づくり，システムデザイン能力の育成

Ｂ．幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成

Ｃ．豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題･分野に挑戦する能力の育成

Ｄ．高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成

Ｅ．体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

養成する人材像

地球的視点の倫理観を持ち，「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と，多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた，国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。

（準学士課程・専攻科課程等ごとの独自の目的）

各学科の目的

機械工学科

（１）機械技術者として必要な基礎学力の育成

（２）技術革新，高度情報化社会に対応できる能力の育成

（３）創造性，実践的能力等の育成と，社会の期待に応えるための人間の育成

電気電子工学科

（１）電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成

（２）幅広い専門分野に適応できる応用力の育成

（３）独創力およびコミュニケーション能力の育成

電子情報工学科

（１）基礎的な学力と能力の育成

（２）変化するＩＴ社会に対応できる応用力の育成

（３）実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力の育成

物質工学科

（１）物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成

（２）材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成

（３）実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

環境都市工学科

（１）環境都市工学に必要な基礎的な学力と能力の育成

（２）幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成
（３）実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成

専攻科の目的
生産システム工学専攻
本専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，機械・設計関連，システム制御関連，電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。
環境システム工学専攻
本専攻は，高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に，構造・材料関連，生物・化学関連，環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く教授し，これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者の育成を図ります。

福井高専学習教育目標

A．地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり･環境づくり，システムデザイン能力の育成
① 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと，人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できること．
② 異なる文化圏に属する人々がもつ歴史･伝統などの文化や，それらに根ざした価値観などを，認識・理解する意識を持てること．
③ それぞれの地域の特性に応じて自然環境と人間社会との調和を図る必要性を認識できること．
④ 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで，工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し，説明できること．
⑤ 地球環境の保全と循環型社会とを意識したものづくりに必要な知識と技術とを結びつけることで,生産から消費・廃棄に至るプロセスをひとつのシステムとして認識できること．
⑥ 構造物または製品をデザインする際に，つくる目的を意識し，機能性・安全性および経済性に加えて，環境負荷の低減・快適性などを考慮できること．

B. 幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
① 工学的諸問題に対処する際に必要な，線形代数･解析・確率・統計などの数学に関する知識を理解できること．
② 工学的諸問題に対処する際に必要な，運動力学･電磁気学･熱力学などの物理に関する

知識を理解できること.

③ 工学的諸問題に対処する際に必要な化学，または生物に関する基礎知識を理解できること.

④ 工学的諸問題に対処する際に必要な情報処理に関する基礎知識を理解できること.

⑤ 習得した自然科学･情報処理等の基礎知識と，機械工学･電気電子工学･電子情報工学･物質工学･環境都市工学のうちいずれかの分野における専門基礎知識･技術とに基づいて， その分野に関する その分野に関する工学的現象を正しく理解できること.

C. 豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題･分野に挑戦する能力の育成

① 現代社会において必要とされている工学的技術について，複数の具体例を挙げられること.

② さまざまな知識を適切な情報源から得，既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで，それらを蓄積・整理できること.

③ 新しく出会った課題について，自ら問題点を発見しようとする意識を持てること.

④ 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと，課題について多様な観点から検討･考察し，その結果を具体的に示せること.

⑤ グループでの協議および共同作業を通して，解決方法について複数の候補を見いだし，その中から最も適切なものを選択できること.

⑥ 自ら明確に設定した目標を達成するため，詳細な計画を立て，それに沿って継続して努力できること.

D. 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成

① 日常的な話題についての英語の談話を聞き，その中の情報･考えなどを理解できること.

② 幅広い話題についての英語の文章を読み，その中の情報･考えや書き手の意図などを理解できること.

③ 自らが持つ情報･考えなどを，英語の談話や文章で，場面や目的に応じた表現を用いて述べられること.

④ 英語で書かれた解説や論説･学術論文などを筆者の意図に沿って読解し，その内容を日本語で説明できること.

⑤ 自分の意見･主張などを，日本語の談話や文章で，分かりやすく規範的な表現を用いて述べられること.

⑥ 他者の意見･主張に真摯に耳を傾け，的確に理解したうえで，問題点を指摘できること.

⑦ 原稿などを作成するにあたり，読者や聴衆を意識して内容を整えられること．
⑧ 説明の必要に応じて，正確で分かりやすいグラフや図などを描けること．
⑨ 口頭発表にあたって，聴衆の反応に適切に対応し，質疑に対しても的確に応答できること．

E. 体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成
① 与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し，提示された方法を計画･実行することにより，定められた期限までに妥当な結果を導けること．
② 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し，それらを具体的に示せること．
③ 工学上の考察対象に関する見解を論理的に構築し，それに基づいた問題解決のための仮説を立てられること．
④ 問題解決のプロセスを計画するにあたり，得られる情報を最大限に活用して，適切な実験・解析方法を選択できること．
⑤ 数学や情報処理の知識･技術を用いて，実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理できること．
⑥ 実験または数値シミュレーションの結果を評価し，対象としている工学的現象の成り立ち･仕組み等を理解し，説明できること．

Ⅰ-4　福井工業高等専門学校第 II 期中期計画及び平成 21 年度アクションプラン

福井工業高等専門学校第 II 期中期計画

（序文）

ICT 技術の革新によって，社会はいま情報技術を中心に大きく転換し始めようとしている。また，教育のグローバル化，教育機会均等化が進み，高等教育のこれまでのシステムが大きく変化しようとしている。産業界からもこれまでの画一主義教育より，創造性の高い個性を伸ばす教育が求められている。地域社会からも大きな期待を寄せられている。

福井工業高等専門学校では，これら社会の要請に応え，２１世紀を担う人材を育成するため，新しい教育・研究の理念とそれに伴う整備計画を策定したい。特に，学生の夢が実現する学校、学生・社会から魅力ある学校，環境・社会・人に優しい学校を目指したい。

これらの実現のために，本校の教育理念，教育方針，教育目標，養成すべき人材像による，第 II 期中期計画（平成２１年度～平成２５年度）を次のように策定する。

基本理念

・創造性豊かな人材の育成
・幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う

・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
・環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

教育方針

1．技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を修得させる
2．個性を伸長し，独創的能力の開発に努力する
3．教養の向上につとめ，良識ある国際人としての成長を期する
4．健康の増進につとめ，肉体的精神的に強じんな耐久力を育成する
5．規律ある日常生活に徹し，明朗，かっ達な資性のかん養を図る

教育目標

A．地球的視点の技術者倫理を意識した，ものづくり･環境づくり，システムデザイン能力の育成
B．幅広い工学的素養，得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
C．豊かな創造力とデザインマインドを持ち，常に自己を啓発し，新しい課題･分野に挑戦する能力の育成
D．高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
E．体験に基づいて問題を発見し，解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

養成する人材像

地球的視点の倫理観を持ち，「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と，多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた，国際社会で活躍する実践的技術者を育成する。

１．教育充実の具体的方策

（１） 教育内容・方法などの充実

① 地域の産業界との幅広い連携の促進

・ 地域の産業界と連携し，カリキュラム開発，教材開発，企業への教員派遣，企業からの教員派遣，共同研究を通じた企業への学生派遣を行う。
・ インターンシップの一層の推進を図り，学生が企業の生産・開発現場で，研究課題と課題意識を持ち，学校で学んだ知識を活かして，現場での問題解決と解決できる能力を培う。具体的には，本科４年生のインターンシップの充実と，専攻科１年生のインターンシップのさらなる充実を図る。

さらに，国立高等専門学校機構による海外学生インターンシップに積極的に参加する。

② 一般教育の充実

・　変動する現代社会への対応が求められる技術者に必要な専門的知識の基礎をなす思考力，表現力，洞察力，創造力などを身につけるために基礎教育の充実を図る。

・　国際社会で活躍できる技術者を育成するために，コミュニケーション能力の向上を目指す教育の充実を図る。その対策のひとつとして，各種検定試験などの受験の奨励や支援に務める。

以上のように，一般科目においては，本校の教育理念に相応しい効果的な教育内容・方法となるよう，知育・徳育・体育のバランスを考慮しつつ，より一層の教育の充実を図る。

③ 専門教育の充実

・ 機械工学科

創成科目や実技系科目など学生の創造性を引き出す科目を重視しつつ，ものづくりのセンスと実践力を涵養させる。さらに，機械のエンジニアとしての基礎能力を養うために，これまでの教育内容を継続し，さらなる充実を図る。

・ 電気電子工学科

「通信・エレクトロニクス」，「情報・制御」，「光・電子デバイス」，「エネルギー」分野を学び，今後の社会要請に対応できる基礎力と応用力を持つ電気電子工学分野の人材育成を目指す。また，体験型のものつくり実験・演習への積極的な取り組みを行い，問題解決能力と創造性ある人材育成を目指す。低学年では電気電子工学関連の基礎知識習得と現象理解に重点的に取り組み，高学年では専門知識の深耕を行う。

・ 電子情報工学科

ＩＣＴ分野，電子技術分野に興味を持ち，世の中にＩＣＴに関わる新しいサービスやシステムを創造できる人材の育成を目指す。ＩＣＴ分野のエンジニアとしての基礎能力を養うために，これまでの教育内容を継続しつつ，ソフトウェア系科目並びにネットワーク系科目の充実を図る。

・ 物質工学科

受け入れ側の情勢変化に応じ社会が求める人材を育成するために，必要な施策を講じる。具体的には，基礎学力および応用力を着実なものとし，多様な状況に対応するための意思疎通・表現能力のさらなる涵養と，国際化を視野に入れた英語能力の向上等を目指して，カリキュラムの改善に取り組む。また，情報リテラシーは欠くことの出来ない基礎的素養になりつつあるので，この点でも教育・実習の中での充実を図りたい。

・ 環境都市工学科

学生が自分の将来を見据えて学習できるように，土木・建築系技術者に関するキャリアパスを提示し，専門課程の学習に対して興味を湧くような工夫を図る。

その１つの方法として，積極的に卒業生から意見を聞き，社会あるいは産業界からの要望を授業内容に取り入れていくことを考える。一級建築士試験受験資格を取り込んだカリキュラムとしたことから，卒業生が出るまではカリキュラム自体の変更は難しい。そのため，個々の授業内容を土木・建築に関するコアの部分が抽出・精査された内容や，社会が求めているエンジニアリングデザイン能力が身につくような内容となるように充実させる。

・ 専攻科

本科からの継続した研究指導体制を強化し，専門領域を深化させるのみならず，専攻の枠組みをも越えた融合複合的な工学技術教育の展開を図る．また，各種学会主催の講演会・技術交流会や長期インターンシップへの積極的参加を促すとともに，専攻科生と企業との共同研究を促進し，技術ニーズや求められる技術者像を明確に認識できる機会の増加を図る．さらに既設の海外派遣制度を充実させ，海外企業技術者や大学研究者等との交流・相互理解を通して国際化に対応できる能力を涵養する．

④ 自学自習による教育効果を考慮した教育の充実

平成 17 年の高等専門学校設置基準の改正により，60 単位を上限として大学と同様に４５時間の学修内容をもって１単位とすることができるようになった。今後とも，この制度を活用して，授業形態・指導方法の多様性や優れた技術者を育成する上で有効な自学自習による教育効果を活かした特色ある教育課程の編成を進める。

⑤ 退職技術者を含む企業人材等の活用

技術を持った意欲ある企業人材の活用を積極的に進め，講座講師などとして活用し，ものづくり技術の伝承を進める。

⑥ 他高等専門学校・大学との人材交流

他の高等専門学校教員，技術科学大学教員との人事交流により，教育研究活動の活性化と連携を深めると共に，教育の質の向上に努める。

⑦ キャリア教育の実施

高等専門学校はこれまでも実験・実習など体験重視型教育を行ってきたが，産業界や社会のニーズに応えて，キャリア教育の実施や実践的な人材育成の教育課程の編成を図る。

また，平成１９年度採択の現代ＧＰによって，３年間にわたり，アントレプレナーサポートセンターを用いた，全学的な実践的キャリア教育を進めている。この補助事業を最大限に活用して，本校のキャリア教育を具体的に進める。たとえば，定期的なセミナーの開催，アドバイザーによる学生支援，コーディネーターによるキャリア教育の取組，0JT 教育の導入などを進める。

⑧ e-ラーニング教育，PBL 教育，コーオプ教育の実施

・　インターネットなどを活用したe-ラーニングの取組を充実させる。
・　本校では低学年における早期専門教育としてPBL型授業である「ものづくり科学」を導入しているが，今後も手厚い教員層によるPBL教育を展開する。
・　産業界や他の高等教育機関との有機的な連携による共同教育（コーオプ教育（co-op教育））の実施を検討する。

⑨ 工学基礎コースの改善

工学基礎コースは設置以来数年が経過した。今後，工学基礎コースの長所や問題点を点検しながら，コースの改善を図る。

⑩ スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテスト，プログラミングコンテストなどの全国的なコンテストに積極的に参加する。

（２）教育研究の実施

教職員による教育研究は，地域などへの協力のみならず，教育の質の向上にも重要である。今後とも，企業等産業界や地域社会との連携により，共同研究及び受託研究の進展を図る。また，科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得に努める。教育研究を活性化するため，校長裁量経費の配分，学内競争的資金の実施，予算配分のプライオリティ付け等を行う。

（３）質の高い入学者の確保

①　さらなる教育の充実により社会で活躍できる高度な技術者を育成し，本校の知名度をさらに高めることにより本校の教育に適正な入学志願者数の維持を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。

②　小・中学生やその保護者への広報活動，理科教育支援を行う。高等専門学校教育の質を維持・向上していくため，今後とも，意欲を持った質の高い入学者を確保する。

そのために，小中学校の段階で理科・数学やものづくりの関心を高め，サイエンスに対する好奇心を持たせ，面白さ，楽しさの中に，科学的なものの見方を身につける楽しさがあることを体験させる。そのため，小中学生を対象とした理科実験教室などを出前授業・公開講座などで開催する。

③　オープンキャンパスを実施し，小中学生や，保護者を含めた広報活動に力を入れて取り組んでいく。

④　高等学校卒業生の４年次への編入学をさらに進めていく。高等専門学校は５年間の一貫教育が特徴であるが，質の高い編入学生の確保と高等学校卒業生に多様な進路選択を提供するために制度の充実を図る。

⑤　中学校，高等学校への広報活動を更に充実させるとともに，ホームページを充実させ，学生関係情報（学生生活状況・卒業時の進路等）について，積極的に情報を公開する。

⑥　社会で活躍中の本校卒業生を紹介するパンフレットを作成し，中学生・保護者・中学校関係者に本校への一層の理解を図る。

（４）教育基盤の強化

①　教員の確保

今後とも意欲と教育に対する情熱にあふれた優れた教員の確保を行っていく。さらに，実践的な専門教育を行っていくために企業などでの実務経験のある教員も積極的に採用する。

また，男女共同参画社会の実現と女子学生確保の立場から，女性教員の採用促進が国立高専機構の人事方針として示されている。本校においても女性教員の比率向上を図るため，働きやすい職場環境の整備などに努め，更なる採用に向けて努力する。特に女子学生が多く在学する学科での採用が望まれる。

文部科学省の制度や外部資金を活用して，教員に長期短期の国内外の大学における研修の機会を設けるとともに教員の国際学会への参加を促進する。

②　ファカルティディベロップメント(FD)の実施

教員の能力向上を行うため，ファカルティディベロップメント(FD)の組織的な実施を図る。

③　教員の力量を高めるため，高等専門学校間の教員人事交流制度を活用するほか，高等学校，大学，企業などとの任期を付した人事交流を図る。

（５）産業界や地域社会との連携

①　本校が有する知的資源によって，積極的に社会の発展に貢献する。このため，地域産業界などとの共同研究や，公開講座，出前授業にさらに積極的に取り組む。

②　地域ニーズを十分踏まえた教育研究活動を展開していくため，地域連携の強化を図る。具体的には地域連携テクノセンターの機能を充実させるとともに，同センターに地域連携強化のためのスペースの確保，新たなニーズの調査とその対応などを図る。

③　地域と連携して開催しているマグネットコンテスト，めがねワク waku コンテストなどのさらなる展開を図る。

④　高等専門学校の設備やノウハウを利用して取り組んでいる中小企業庁「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」は平成２０年度が最終年であるが，今後とも自立講座などとして支援を行う。

（６）国際的な展開

産業・経済や技術が国際的な広がりを強め，これに伴い技術者も国境を越えて活躍している現状から，国際的に活躍できる能力を持った人材の養成のための教育が

求められている。このため，本校では平成１８年にオーストラリア，バララット大学と提携して交換留学を始めたが，今後も同大学との連携を深める。また，他の外国大学との提携を図るほか，学生の国際学会などでの発表を支援する。さらに，外国大学などとのインターンシップ，コーオプ教育などの実施を検討する。

また，留学生の積極的な受け入れを図る。そのための宿舎の整備，学習・生活サポートを引き続き行っていく。

（７）学生支援

① 学生に対してきめ細やかな対応をするため担任制度を継続するとともに，学生相談室を充実して，学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。

② 学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図り，メンタルヘルスを含めた寮生の学習・生活の支援にあたる。

③ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため，企業情報，就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。

④ 学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの支援を行い，学生の人間的成長を図る。

⑤ 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し，各学校における各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を提供する。

⑥ 図書館の充実や学寮の改修などの計画的な整備を図る。さらに、学生寮の室数の増加と女子学生寮の整備を図る。

（８）多様な学生への支援

第４学年に編入する学生や，専攻科に入学する社会人入学生，留学生などは高専生活に不慣れである場合が多い。これらの多様な学生については，学力と生活の両面でサポートを行って行く。

（９）学校の高度化再編・整備

地域ニーズに対応した教育研究活動を強化し，教育の質の一層の向上を図っていくには，今後の社会の高等専門学校に対するニーズ，地域における１５歳人口の動向や地域の産業特性などを十分に考慮する必要がある。また，今後 5 年間には，社会経済のあらゆる場面に情報通信技術(ICT)分野を中核とし技術が広がり，理工系分野においては環境・情報・バイオなどを中心とする融合・複合分野が重要となってくると考えられる。これらのことを考慮して，学校内における学科の再編を視野に入れて検討に努める。

平成１８年８月に国立高等専門学校機構より出された「国立高等専門学校の再編整備について」を踏まえて，本校では今後の本科・専攻科の学科再編について協議

した。その結果，平成１９年１０月協議会において，今後の在るべき本校の学科構成として，現在の５つの学科は，現在の専攻科制度や現在の本校の教育理念から，「ものづくり」，「環境づくり」の二つが大きな系にまとめられ，さらに，（１）機能創成，（２）情報，（３）エネルギー，及び，（４）環境（材料，生命），（５）安全工学の５つに細分することを今後検討することとした。今後，これらを踏まえつつ，引き続き検討を図る。

２．事務部門の強化と効率化

学校の運営に当たっては，教員だけでなく，事務部門の強化も必要である。事務部門職員に対するSDなどによる事務職員の育成と技術スタッフの充実を図る。また，独立行政法人国立高等専門学校機構のスケールメリットを活かした事務の効率化をさらに進める。

３．施設・設備の更新及び高度化

（１）実践的・創造的技術者を育成するために，施設・設備の整備を行い，基盤的設備の整備のみならず，先端的な設備の充実を図る。

（２）平成２０年度からの校舎改修により４０年以上経過した施設の改修を行っているが，その他の２５年以上経過した施設の改修・整備を図る。

４．外部評価の受審

有識者などによる外部評価を毎年実施する。さらに，日本技術者教育機構(JABEE)への受審を行い，工学教育に適合した高等教育機関であることを社会に示すと同時に，受審の準備を行うことにより，学校全体の教育研究体制の点検を行い，教育研究の質の維持向上を図る。また，次期における高等専門学校機関別認証評価受審に向けて準備を行う。

平成２１年度アクションプラン

１．教育充実の具体的方策

（１） 教育内容・方法などの充実

① 地域の産業界との幅広い連携の促進

・ 「福井高専アカデミア」を中心として，地域の産業界と連携し，卒業研究の共同実施やカリキュラム開発，教材開発を行う。また，共同研究を通じた企業への学生派遣を卒業研究，特別研究として行う。

・ インターンシップの一層の推進を図る。具体的には，本科４年生のインターンシップの充実と，専攻科１年生のインターンシップのさらなる充実を図る。さらに企業紹介会の開催を検討する。

国立高等専門学校機構による海外学生インターンシップに参加を検討する。

② 一般教育の充実

・ 現代社会の技術者に必要とされる専門的知識の基礎となる思考力，洞察力，創造力，表現力などを習得するために，基礎教育の更なる充実を図る。

・ 国際社会で活躍できる技術者を育成するために，各種検定試験などの受験の奨励や支援に努めつつ，コミュニケーション能力の向上を目指す教育の充実を図る。

③ 専門教育の充実

・ 機械工学科

本学科では，学生にものづくりのセンスと実践力を身に付けさせるため，３年生「創造工学演習」「C 言語応用」，４年生「知能機械演習」，５年生「アイデア設計工学」の創成科目を配置している。本年度は，これらの科目の内容に関して充実を図り，学生の創造性を引き出すことに努める。さらに，機械のエンジニアとしての基礎能力を養うために，「機械設計技術者３級試験」の資格取得を奨励し，受験対策のための補講を行う。

・ 電気電子工学科

1，2 学年に組み込む導入科目を通して，学生に電気・電子関連の入門知識を与え，高学年での基礎学力の効果的獲得，および充実を目指す。また勉学意欲を持続させる手段として，関連資格試験の受験を勧める。

・ 電子情報工学科

ＩＣＴ分野に興味を持ち，ＩＣＴに関わる新しいサービスやシステムを創造できる人材の育成を目指す。ＩＣＴ分野のエンジニアとしての基礎能力を養うために，これまでの教育内容を継続しつつ，ソフトウェア系科目並びにネットワーク系科目の充実を図る。

・ 物質工学科

平成 21 年度は，卒業時における報告書作成技術の向上を目的として，学生実験のレポート作成技術を学年進行により段階的に向上させるような，実験担当者間による学科内連携教育に関する実施計画を策定する。さらに，学生実験の結果解析やレポート作成，印象的なプレゼンテーション等に関するデータ処理や表現技術の能力を向上させるような，情報リテラシー教育に関する実施計画を策定する。策定された計画に基づいて平成 22 年度以降に学生への教育として実施する。

・ 環境都市工学科

学生が自分の将来を見据えて学習できるように，土木・建築系技術者に関するキャリアパスを提示し，専門課程の学習に対して興味を湧くような工夫を図る。また，卒業生から意見を聞き，社会あるいは産業界からの要望を授業内容に取り入れていく。多様な解を持ちうる課題に対し，種々の学問を統合して問題解決に至るエンジニアリングデザイン能力が身につくような授業内容となるよう工夫を図る。

・ 専攻科

技術者として活躍するために必要不可欠な素養の涵養とキャリア教育の一環として，専攻科生全員を対象とした知的財産権教育の導入ならびに技術士の資格を有する技術者との交流を図る。また，各種学協会主催の講演会や技術交流会等への積極的参加を促し，研究内容の質のみならず，プレゼン能力を向上させる機会を積極的に設ける。

④ 自学自習による教育効果を考慮した教育の充実

平成 17 年の高等専門学校設置基準の改正により，60 単位を上限として大学と同様に 45 時間の学修内容をもって 1 単位とすることができるようになった。この制度を活用して，授業形態・指導方法の多様性や優れた技術者を育成する上で有効な自学自習による教育効果を活かした特色ある教育課程の編成を進める。

⑤ 退職技術者を含む企業人材等の活用

技術を持った意欲ある企業人材の活用を積極的に進め，（独）国立高等専門学校機構「企業技術者等活用プログラム」事業などの講師として活用し，ものづくり技術の伝承を進める。

⑥ 他高等専門学校・大学との人事交流

他の高等専門学校教員との人事交流により，教育研究活動の活性化と連携を深めると共に，教育の質の向上に努める。

⑦ キャリア教育の実施

平成１９年度採択の現代ＧＰによって，３年間にわたり，アントレプレナーサポートセンターを用いた，全学的な実践的キャリア教育を進めている。この補助事業の最終年度として本校のキャリア教育を具体的に進める。具体的には，７月のパネルディスカッション，８月の成果発表，１２月のフォーラム，定期的なセミナーの開催，アドバイザーによる学生支援，コーディネーターによるキャリア教育，３月には最終報告書を発刊する。

⑧ e-ラーニング教育，PBL 教育，コーオプ教育の実施

・ 本年度中に完成する e-ラーニング室を活用して，新しい設備によるより進んだ e-ラーニングを開始する。また，文部科学省平成２０年度採択の戦略的大学連携支援プログラムによる，福井県の他大学との連携による e-ラーニングを本格的に行う。

・ 本校では低学年における早期専門教育として PBL 型授業である「ものづくり科学」を導入しているが，今後も手厚い教員層による PBL 教育を展開する。

⑨ 工学基礎コースの改善

工学基礎コースは設置以来数年が経過した。今後，工学基礎コースの長所や問題点を点検しながら，コースの改善を図る。

⑩ スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテスト，プログラミングコンテスト，デザインコンペティションなどの全国的なコンテストに積極的に参加する。

（２）教育研究の実施

企業等産業界や地域社会との連携により，共同研究及び受託研究の進展を図る。また，科学研究費補助金をはじめとする外部資金の積極的な獲得に努める。教育研究を活性化するため，校長裁量経費の配分，学内競争的資金の実施，予算配分のプライオリティ付け等を行う。

（３）質の高い入学者の確保

① さらなる教育の充実により社会で活躍できる高度な技術者を育成し，本校の知名度をさらに高めることにより本校の教育に適正な入学志願者数の維持を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推進する。

② 小・中学生やその保護者への広報活動，理科教育支援を行う。高等専門学校教育の質を維持・向上していくため，今後とも，意欲を持った質の高い入学者を確保する。

そのために，小中学校の段階で理科・数学やものづくりの関心を高め，サイエンスに対する好奇心を持たせ，面白さ，楽しさの中に，科学的なものの見方を身につける楽しさがあることを体験させる。そのため，小中学生を対象とした理科実験教室などを出前授業・公開講座などで開催する。

③ ６月，８月の２度のオープンキャンパスを実施し，小中学生や，保護者を含めた広報活動に力を入れて取り組んでいく。

④ 高等学校卒業生の４年次への編入学をさらに進めていく。高等専門学校は 5 年間の一貫教育が特徴であるが，質の高い編入学生の確保と高等学校卒業生に多様な進路選択を提供するために制度の充実を図る。

⑤ 中学校，高等学校への広報活動を更に充実させるとともに，ホームページを充実させるため，平成２１年度に現在のホームページを更新して，学生関係情報（学生生活状況・卒業時の進路等）について，積極的に情報を公開する。

⑥ 社会で活躍中の本校卒業生を紹介するパンフレットを作成し，中学生・保護者・中学校関係者に本校への一層の理解を図る。

（４）教育基盤の強化

① 教員の確保

今後とも意欲と教育に対する情熱にあふれた優れた教員の確保を行っていく。さらに，実践的な専門教育を行っていくために企業などでの実務経験のある教員も積極的に採用する。

また，男女共同参画社会の実現と女子学生確保の立場から，女性教員の採用促進

が国立高専機構の人事方針として示されている。本校においても女性教員の比率向上を図るため，働きやすい職場環境の整備などに努め，更なる採用に向けて努力する。

文部科学省の制度や外部資金を活用して，教員に長期短期の国内外の大学における研修の機会を設けるとともに教員の国際学会への参加を促進する。

② ファカルティディベロップメント(FD)の実施

教員の能力向上を行うため，ファカルティディベロップメント(FD)の組織的な実施を図る。

③ 教員の力量を高めるため，高等専門学校間の教員人事交流制度を活用するほか，高等学校，大学，企業などとの任期を付した人事交流を図る。

（５）産業界や地域社会との連携

① 本校が有する知的資源によって，積極的に社会の発展に貢献する。このため，地域産業界などとの共同研究や，公開講座，出前授業にさらに積極的に取り組む。

② 地域ニーズを十分踏まえた教育研究活動を展開していくため，地域連携の強化を図る。具体的には地域連携テクノセンターの機能を充実させるとともに，同センターに地域連携強化のためのスペースの確保，新たなニーズの調査とその対応などを図る。

③ 地域と連携して開催しているマグネットコンテスト，めがねワク waku コンテストなどのさらなる展開を図る。

（６）国際的な展開

産業・経済や技術が国際的な広がりを強め，これに伴い技術者も国境を越えて活躍している現状から，国際的に活躍できる能力を持った人材の養成のための教育が求められている。このため，本校では平成１８年にオーストラリア，バララット大学と提携して交換留学を始めたが，平成２１年度にはアジアの大学などとの連携を進める。学生の国際学会などでの発表を支援する。

また，留学生の積極的な受け入れを図る。そのための宿舎の整備，学習・生活サポートを引き続き行っていく。

（７）学生支援

① 学生に対してきめ細やかな対応をするため担任制度を継続するとともに，学生相談室を充実して，学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。

② 学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実を図り，メンタルヘルスを含めた寮生の学習・生活の支援にあたる。

③ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため，企業情報，就職・進学情報

などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。

④　学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの支援を行い，学生の人間的成長を図る。

⑤　独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し，各学校における各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を提供する。

⑥　図書館の充実や学寮の改修などの計画的な整備を図る。さらに，学生寮の室数の増加と女子学生寮の整備を図る。

（８）多様な学生への支援

第４学年に編入する学生や，専攻科に入学する社会人入学生，留学生などは高専生活に不慣れである場合が多い。これらの多様な学生については，学力と生活の両面でサポートを行って行く。

（９）学校の高度化再編・整備

平成１８年８月に国立高等専門学校機構より出された「国立高等専門学校の再編整備について」を踏まえて，本校では今後の本科・専攻科の学科再編について協議した。その結果，平成１９年１０月協議会において，今後の在るべき本校の学科構成として，現在の５つの学科は，現在の専攻科制度や現在の本校の教育理念から，「ものづくり」，「環境づくり」の二つが大きな系にまとめられ，さらに，（１）機能創成，（２）情報，（３）エネルギー，及び，（４）環境（材料，生命），（５）安全工学の５つに細分することを今後検討することとした。平成２１年度においては，このような学科再編計画について引き続き検討を行う。

２．事務部門の強化と効率化

学校の運営に当たっては，教員だけでなく，事務部門の強化も必要である。事務部門職員に対するSDなどによる事務職員の育成と技術スタッフの充実を図る。また，独立行政法人国立高等専門学校機構のスケールメリットを活かした事務の効率化をさらに進める。

３．施設・設備の更新及び高度化

（１）実践的・創造的技術者を育成するために，施設・設備の整備を行い，基盤的設備の整備のみならず，先端的な設備の充実を図る。

（２）平成２０年度からの校舎改修により４０年以上経過した施設の改修を行っているが，その他の２５年以上経過した施設の改修・整備を図る。

４．外部評価の受審

有識者などによる外部評価を毎年実施する。さらに，日本技術者教育機構(JABEE)への受審を行う。また，次期における高等専門学校機関別認証評価受審に向けて準備を行う。

Ⅰ-5　研究活動の状況

本校の教育理念である「創造性豊かな人材の育成」，「幅広い工学的素養，基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育」，「高度に情報化した国際社会に対応する教育」，「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育」，「地域と連携した産官学共同研究の推進を図る」を実現するために，全校的な研究体制，研究支援体制を作り，実施している。このように教育理念を実現するため，また，教育的資質を向上させるため，教員の研究活動は欠かせないと考えられる。さらに，この教育理念の一つである地域に根ざした教育として，地域における産官学共同研究は教育的にも，地域社会にとっても重要である。

このような観点から，本校では平成３年度に校内に自助努力で「先進技術教育研究センター」を設置し，地域との産官学共同研究の窓口として，このセンターに大型設備を集中させ共同研究にあたって来た。平成１７年４月には，このセンターを「地域連携テクノセンター」と改組し，さらに地域と連携を深めた共同研究施設としている。現在，下記のような教育的研究事項に取り組んでいる。

① 地域の産業界からの技術相談と地域産業に密着した研究テーマの設定（伝統産業支援，地場産業支援を引き続き進める。）
② 地域産業界の技術者・研究者の欲している高度技術の習得を目的とした高度技術者研修の開催
③ 地域の産官学共同研究関係者を集めて行う，講演会と情報交換会であるＪＯＩＮＴフォーラムの開催
④ 産業界・教育界の将来を担う若者の「ものづくり」への興味喚起と理科離れ対策として実施している「マグネットコンテスト」，「さばえめがねワク waku コンテスト」の開催
⑤ 本校の有する専門的・総合的な教育機能を利用した技術的な公開講座の開催
⑥ 教員の研究内容を掲載した広報誌（ＪＯＩＮＴ・アニュアルレポート）を年１回発行
⑦ 地元商工会議所等との情報交換・懇談会のより一層の推進による地域産業界からの技術相談
⑧ 共同研究の機会拡大と研究テーマの発掘
⑨ 各学科保有研究設備のリストアップ（担当教員の明示）の公開
⑩ 教員の研究内容，技術シーズの公開
⑪ 高度な分析・観察設備を用いた卒業研究，特別研究支援
⑫ 伝統産業支援室を設置して，和紙工業などへの技術支援
⑬ 地場産業室を設置して，眼鏡枠工業などへの技術支援

⑭　全教員の教育・研究シーズをまとめた研究シーズ集を発刊

Ⅰ-6　地域への支援

本校は基本理念に「環境を意識し，地域社会に根ざしたものづくり教育を行う」を掲げ，次のような地域・国民に対する幅広い活動を行っている。

［１］　出前授業は毎年，５０件以上行っており，福井県内の高等教育機関としては最も多数の出前授業を行っている。

さらに，平成１７年度より，本校が出前授業に派遣する教員・学生を「サイエンスの達人」と名づけ，地域連携協定を結んだ市町の小学校・中学校を中心に派遣している。本校の出前授業の特徴は派遣する教員のほか，ほとんどの場合，学生を帯同する。特に，中学校への出前授業は，出前授業を開催する中学校の出身学生を出前授業に参加させ，後輩に成長した先輩の様子を見てもらうこととしている。学生も後輩に誇らしく実験を行うようである。

また，環境都市工学科では，河川の水質や水生動物と河川の汚染の関係など，住民に身近な話題で環境問題の意識を高めている。また，福井県越前海岸は第三紀層の地質のため，急斜面の崩落・地すべりが多く発生し，２０年前にはマイクロバスが土砂に飲み込まれる事故も発生した。本校は環境都市工学科を中心に，その観測を行い，安全のための説明会も実施している。

［２］　福井県生涯学習大学開放講座協議会に参加し，地域住民対象開放講座である，福井ライフ・アカデミー「人づくり・まちづくり講座」に毎年，哲学，環境関係の講師を派遣して，事後のアンケートで好評を博している。平成２１年度も多くの本校プログラムを県民に提示している。

［３］　福井県は強力磁石の世界的な生産拠点となっている。この本校近隣の越前市の新しい地場産業である，強力磁石を製造する企業とともに，児童・生徒，学生の理科離れを防ぐために，マグネットを用いたアイデアコンテストを平成７年度より実施し，全国の小中学生，高校生，大学生から寄せられるアイデア数は平成２１年度には２，２００件を超えている。これらのアイデアは優秀作を実際に製作し，（独）若狭湾少年自然の家の玄関前に設置され，同自然の家を訪れる小・中学生にアイデアを紹介し，科学に対する興味を喚起している。また，平成１６年度より，福井県の代表な地場産業である眼鏡工業組合と共同で，全国の児童・生徒・学生対象に眼鏡に関するアイデアコンテストを開始した。平成２１年度には１，５００件以上の応募があった。これらは単に理科離れを防ぐのみならず，地元企業の全国への情報発信，本校の知名度向上などともなっている。

［４］　平成１７年５月に提携した，地域連携協定に則り，地域の青年・壮年・高齢者・女性などの団体と連携し，地域の人々に対する学習ニーズに応えるため，公開講座，高度技術者研修などを実施し，リカレント教育を実施している。この地域では高齢化が進み，生涯学習，健康を目指す生涯スポーツなどのニーズがたかまっている。

本校はこのようなニーズに応えると同時に，本校の体育関係の施設の地域への開放を行って行きたい。

Ⅰ-7　現代ＧＰなどの採択状況

（１）平成１９年度文部科学省現代ＧＰ採択事業「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」

最近、本校では卒業生によるベンチャービジネスの立ち上げが相次いでいる。携帯電話向けのインターネット閲覧ソフトでは業界トップシェアとなる企業を起こした卒業生もいる。そこで、平成１９年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）に起業家育成による全校学生へのキャリア教育を申請し、採択となった。 現在、本校内に、起業を支援するためのオフィス（アントレプレナーサポートセンター）を設置し、ここに本校学生あるいは地域の若手技術者が入所し、本校教職員や外部専門家による起業に関するビジネススキルなど総合的なキャリア教育を行っている。詳しくは次のとおりである。

① アントレプレナーサポートセンターの設置

平成１９年４月に本校の地域連携テクノセンターを一部改修して、起業を支援するためのオフィス（アントレプレナーサポートセンター）を設置した。ここでは、１～２年後の起業を志す、あるいは自らのアイデアを事業化したいと考える学生・地域の技術者を対象に、オフィススペースを一定期間（半年契約で最大１年間）提供するとともに、インキュベーション・マネージャーを中心としたソフト支援の充実を図るもので、起業準備終了後には行政機関が準備する支援を受けることができるよう鯖江市との連携も整っています。

本年度、アントレプレナーサポートセンターには本校学生２名と社会人３名が入所し、起業を目指している。

アントレプレナーサポートセンター

（２） 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業「高専ものづくり塾３Ｄデザイン設計講座～就職支援と企業人ブラッシュアップ～」

福井県は眼鏡枠工業、電子部品工業、工作機械製造業などの企業が多い。特に眼鏡枠工業は国内の９５％を生産している。これら県内の企業は中小企業が多く、新規技術の開発のための技術者が不足している。これらの県内企業で、現在、特に３次元CAD技術は開発・製造において最も重要な技術となっている。そのため、技術者達が会社の枠を超えて３次元CADの自主勉強会を開催するなど活動が活発となってきている。また、眼鏡など県内製造企業の経営悪化から離職者も多い。さらに、いわゆるニートの若者や、団塊の世代の熟年の再就職希望者も次第に増加している。

このような社会的ニーズを踏まえて、いわゆるニート、フリーターなど未就職者、離職者や再就職希望者、育児休暇中の主婦・男性を対象に就職の際に有利となる、地元産業界が望む技術である、３次元CAD技術の講習会を行っている。そこで、定評ある、高専の「ものづくり教育」を就職支援に活かすと共に、地域の企業が必要とする人材発掘を行う。また、就業中の技術者にもレベルアップ講座として参加を呼びかけている。平成１９年度より３年間にわたって実施されている。

講習内容は３次元 CAD「Rhinoceros」の基本から実際のモデリングまでを学習する。休職中の人、休業中の人、あるいは企業に勤めながら技術のレベルアップを考えている人を対象に基本的な技術の講習を行っている。実際に参加した人の目的は、求職のため、あるいはレベルアップのため、趣味としてなどいろいろである。

３次元 CAD 講習会の様子

（３）平成２１年度高専機構特別教育研究経費事業「女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略」

我が国では未だ女性の技術分野への進出や、女性科学者の数は外国の先進諸国に比べて低いのが現状である。また、女性は女性特有の豊かな感性で、技術開発の分野で大きな力を発揮することが望まれている。

本校には現在１，０４５人の在学生のうち約２割が女子学生である。女子学生は化学系、環境系、情報系に主に在籍しているが勤勉な学生が多く、成績上位者が多い。また、女子学生のいるクラスは雰囲気が明るく、クラス全体の成績も良いようである。さらに、化学系や情報系では女性特有の感性も求められており、卒業後も男子技術者と同等の活躍をしている者が多い。したがって、これらの学科や現在、女子学生の在籍者が少ない電気、機械系の学科にも今後、数多くの女子学生を入学させたい。

さらに、高等専門学校は設立以来４０年以上が経過しているが、小学校－中学校－高校－大学の教育制度の中で、社会の認識は依然低い。入学者の質の確保や卒業生の進路を広げるために高専の情報を発信し、中学生、保護者、中学校関係者、大学・企業にコミュニケーション活動することが学校ブランド戦略の基本と考えられる。

このような認識のもと、標記の事業を高専機構に申請したところ採択されたので、現在、下記の取組を計画、あるいは実施した。

１．　女子中学生対象に公開講座を開催し、本校各学科の紹介を行うことにより、女子中学生の本校や理科系に対する親近感を育てる。また、女子生徒に理科系科目に対するアンケート調査を行い、女子の理系に対する意識を探り、女子が理系に進む進路を躊躇する理由を考える。

女子中学生対象公開講座の様子（12 月 5 日（土）開催）

２．　主に女子生徒、保護者、対象に有名女性科学者・女性有名人を招聘し、講演会やディスカッションを行う。自分たちが理系に進み、技術者として活躍する姿が想起できるような、先輩の活躍する状況を紹介し、理系に進む場合の不安を払拭する。

板東局長講演会（12 月 13 日（日））

女性技術者セミナー（12 月 10 日（木））

３．　主に女子中学生、保護者、中学校関係者対象に本格的なクラシックコンサートを開催する。文化系行事を開催することにより、高専の理科系のみのイメージを払拭する。

クラシックコンサート（11 月 13 日（金））

４．　テレビＣＭで本校学生の学習状況を放送し、学校情報を発信する。

テレビで放映したＣＭ（平成 21 年 10 月～12 月中旬）

５．　中学生対象の学生募集ポスターやパンフレットの内容に本校で学ぶ女子学生像を紹介したり、女子中学生が興味を引く内容とする。

６．　インターネットでの事業紹介、パンフレットの製作による事業紹介する。

７．　福井県内で活躍する卒業生を紹介することを中心とする「こしの国の技術者（エンジニア）（仮題）」を刊行し、福井高専の社会における貢献と技術者育成を紹介する。

８．　ブランド戦略の一環として、中学生対象に高専生に相応しい制服に関するアンケートを実施し、４０年以上前の設置時から変更していない学生の制服を見直す。

９．　本校のロゴマークを制定し、本校の教育目的などを社会に示すと同時に、校内の学生、教職員に団結心と目的を与える。

Creativity
and
Curiosity
福井高専

制定したロゴマーク

１０．　今回の取組のフォーラムを実施する。基調講演と成果報告会を行う。このことにより、この事業の外部への周知と、結果をその後の取組に活かす。

（４）頑張る ICT 高専学生を応援するプログラム事業

『頑張る ICT 高専学生を応援するプログラム』は、総務省情報通信研究機構事業であり、高専学生の起業マインドの育成、起業を志す高専学生が実際に起業する際必要となる知識等を修得させることを目的とし、各種セミナー・講演会、イベントを平成１９年度から企画・開催している。起業家講演会、経営セミナー、IT ベンチャー企業訪問などを行う。平成２１年度は、本校、函館高専、弓削高専、松江高専、沖縄高専で実施している。本校はこの事業を行っている功績により、平成２１年７月に総務省北陸総合通信局関連の北陸テレコム懇談会より会長賞表彰を受けた。

平成２１年度北陸テレコム懇談会会長賞表彰

Ⅰ-8　広報活動

一般社会や中学生・保護者などに本校の現状を知らせるために、広報委員会を設置し、さまざまな広報活動を行っている。その広報活動の一環として、平成１９年度から、８月に（財）福井県産業会館が企画するイベント「おもしろフェスタ in サンドーム福井」に参加している。また、同じく１９年度より本校の紹介を地元のコミュニティＦＭ放送である「たんなん夢レディオ」で開始した。これらの詳細は次のとおりである。

（１）「おもしろフェスタ in サンドーム福井 2009」

「おもしろフェスタ in サンドーム福井 2009」は、「ふくいのものづくり　楽しいエコ体験！」をテーマに福井県内の科学系学校や企業等が参加し、子どもたちの科学やものづくりに対する関心を深めてもらうと共に、地球環境保護への取り組みも紹介し、エコ意識を高めてもらうことを目的として、８月８日（土）・９日（日）に開催された。

本校は３年前の計画時から中心的に参加し、当日は会場のサンドーム福井の展示総面積約８，０００㎡の中心部で、高専ロボコン全国大会出場ロボットの実演、パスタタワーコンテスト、コンピューターによる様々な展示・実演、ソーラーカー試乗、化学実験などを行った。夏休みの休日を様々な実演・体験・展示イベントで楽しむため、家族連れなど連日１万人近くの人出で大賑わいであり、テレビ・新聞でも大きく報道された。

同行事は３年間の計画で開催されたものであり、次年度以降の開催は未定ではあるが、今後もこのようなイベントには積極的に参加し、本校の紹介を行うと共に、地域の活性化に貢献したい。

おもしろフェスタ in サンドーム福井 2009

（２）　「たんなん夢レディオ」による本校紹介番組

平成１９年４月より、地元コミュニティＦＭラジオ「たんなん夢レディオ」で毎週日曜日に福井高専紹介番組「高専ラジオ」を放送している。４月は入学式、５月は体育祭、６月はオープンキャンパスの紹介、など毎月の行事紹介をしながら本校の様子を紹介している。１０月からは現代 GP に採択されたアントレプレナーサポートセンターのコーナーも開設された。ＦＭ放送で、高専が定期的な番組を持つことは全国的に初めてと思えるが、中学生などの反響が大きいことから、今後も入試情報などを伝えて行きたい。

放送中の様子

Ⅰ-9　将来計画

２１世紀を迎え、すべての分野でグローバル化が進展している。長い経済の調整期が終焉し、格差社会の解消などが新しい問題となり、社会・産業界では新産業の創出及び高付加価値型企業への転換が迫られている。このため、教育界でもグローバルな視野と高度な情報技術と高い倫理性を持った、創造的、開発型の技術者の育成が求められるようになった。また、高等教育機関として、地域への支援も重要となっている。

高等専門学校は発足４５年を迎え、高等教育機関として一般社会・産業界から一定して高い評価を得ている。一方、総務省の発表によれば、平成１７年度の１５歳未満人口は平成１２年と比べると，　107 万人（5.8%）減となっている。また、わが国の財政事情などにより、高等専門学校の再編統合、あるいは一高専内の学科再編は避けられない状況となっている。

平成１８年１１月３０日には機構理事長名により、「魅力ある高専の構築に向けて」と題して、学校自体の再編成、及び、学科減を含む各高専の検討状況を問う文書が機構より提出された。また、これらの再編統合に関する各校の相談の受け付けも示されている。事態は極めて緊急的な課題となってきた。

本校でも平成１８年９月の高専機構による「国立高専の整備について～新しい飛躍をめざして」が発表されてからあるべき学校制度の議論を企画室、企画室ワーキンググループにおいて行ってきた。これらについて以下に詳述する。

1. 学校の再編成

本校としては、第３期中期計画への反映は考えないが、学校再編を長期的な課題として今後必要に応じて検討したい。

2　学科の再編成

平成２１年度４月に機構第２次中期計画が発表され、その中で、「教育課程の編成」として、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行うとなっている。この方針に則り、本校としては、今後、社会の要請を考慮して学科再編を長期的な課題として検討して行きたい。

平成１８年９月から１２月にかけて、企画室、企画室ワーキンググループなどにおいて、学科の再編成につき議論を行った結果、平成１８年１２月、平成１９年１月の協議会（現在の学校運営委員会）に次の報告を行った。

(1)　今後とも、さらに魅力的で個性がある高専を維持するため、学科再編は有効と考えられる。

(2)　中学生、社会にとって魅力的な内容であり、社会のニーズに適合した学科構成・編成を考える。

(3)　３年次は工学発展課程と位置付けられ，専門に特化した必修科目（基幹科目）を中心に学習する．

(4)　４年・５年次は創造工学課程と位置付けられる．３年次までの基礎に立脚し，融合・複合領域の先進的工学に関する問題点を指摘し，解答の無い問題に解決法を提示することが出来る技術者としての素養を身に付けることを目指す．さらに、深い学習を希望する学生は先進工学研究課程と位置付けられる専攻科に進学する．

(5)　その他

・低学年においては専門への橋渡しになる極め細かい工学基礎教育を行う。

・３年次以降も学科横断的科目（発展科目，融合・複合領域科目）を設け，幅広く知識を修得させる。

・融合複合教育の理念に基づいて学科内容、学習内容を考慮する。

・適正な学生定員を考える。

Ⅱ．　各学科・教室の教育理念

Ⅱ-1　一般科目教室

１．　教育理念・教育目標

現在、教育方針として新入生等に公表しているものおよび中期計画での目標は以下の通りである。

(1) 要覧その他での紹介

本校の教育は一般科目教育と専門科目教育とから成り立っているが、技術者が一市民としてよりよく生きるためには、専門的な知識や技能だけでなく広く豊かな教養も必要であり、一般科目教育は、教養を身につけさせることを通じて、立派な技術者の育成を目指している。一般科目教育においては、高等学校の教育課程に加え、大学の教養課程に匹敵するレベルの教育内容となるよう、カリキュラムが組まれている。国語・歴史・地理・倫理社会・物理・化学・生物・数学・保健体育・英語などの科目や情操を育むための美術・音楽、さらに哲学・政治経済学・法学などの多彩な科目を開講している。また、国際化時代に即応するため、外国語教育には特に重点をおいている。英語のほか、ドイツ語・中国語といった科目もあり、設備の整った語学教室で、外国人講師を含めたスタッフが指導している。なお、専門科目の応用数学・工学基礎物理も一般科目教室で担当している。

(2) 中期計画目標

人文・社会系科目（国語・社会・外国語）では、実践的な技術者に必要とされる言語感覚や総合的な国語力を身につけさせるとともに、社会的な知識の習得を始めとする自立した洞察力・判断力を養成する。また、国際文化の理解を深めながら、外国語によるコミュニケーション能力の養成を目指し、各種検定試験の受験も視野に入れた教育を目指す。

理数系科目（理科・数学）では、各教科の特性を踏まえ、自然現象の基本的法則や概念を理解させ、思考力・表現力・創造力の育成を図るとともに、問題解決能力の向上を目指した教育をする。そして、専門教育への展開を考慮した自然科学系の基礎学力の習得を目指す。体育では、調和のとれた全人的発達を遂げた社会人として豊かで活力あふれる生活が営めるよう、身体・健康に関する知識の修得や、身体運動実践能力の獲得を目指した教育をする。

２．　将来計画

一般科目教室としては、新入生の受け入れから専門学科への移行がスムーズに行われるように、低学年教育において、学習面や学校生活上の問題点などを明らかにして学生とともに解決策を探っていく努力をしていきたいと考えており、現在に至るまで、各教科担当者、担任、クラブ活動顧問など様々な立場で、教員研究室・セミナー室等を利用した学習活動の支援や相談活動を行ってきている（これらの活動はオフィスアワーでの活動として報告）が、一昨年、「オフィスアワーを中心とした学生支援体制の構築（仮称）」として、

1）現状の把握（実態調査：支援時間・支援環境・内容）

2）現状の改善策の検討（学生の問題→関係教員[担任・教科担当・部活顧問等]への連絡体制などの組織作り＝学内組織での位置づけ？）、支援環境整備

などを将来計画としてあげたが、現在の状況は以下の通りである。

1）現状の把握

○成績不振者への対応：各教科で必要な対策（小テスト・追試・補習・課題等）を実施。

○学習意欲の高い学生への対応：学外コンテストへの参加促進。

（例、英語スピーチコンテスト、数学選手権）

2）現状改善策の検討

○学生の問題点についての情報交換会「スタッフミーティング（仮称）」の開催を検討中

①学習到達度の低い学生の把握と教科指導の方向付けや②授業への取り組み状況（生活面も含む）の把握と改善策の検討により、学習意欲の低下・留年・進路変更等の問題に対処するとともに、担任や担当教員が指導上の問題を一人で抱え込むことを防止する。

３．　重点課題

中期計画との関連で当面の課題としてあげているものは以下の諸点である。

(1) 新入生に対して数学・英語の一斉学力試験を実施し、その動向を把握するとともに、この結果を以後の教育指導や教育課程の改善に役立てる。また、英語のコミュニケーション能力を図る方策として、本科の４年・５年次において TOEIC 模擬試験を実施するとともに、TOEIC 試験を校内で行う。

(2) 中学・高校よりの教育支援要請（SPP、SSH 講師依頼等）や各教育機関、教育委員会からの教員研修事業での協力要請に応じる。

Ⅱ-2　機械工学科

１．　教育理念・教育目標

機械工学は、「ものづくり」のための工学であり、産業の基盤として不可欠な学問分野である。従って、今後も豊かな社会を作り出すための中心的役割を担うと考えられる。本校機械工学科では、「ものづくり」のための基礎的知識技術を習得させると同時に、機械技術の高度化、多様化にも十分対応できる広い視野と実践的で総合的な設計・開発能力を持った技術者の養成を教育理念とし、次の３つの教育目標を掲げている。

- 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- 創造性・実践的能力および人間形成の育成

また、学科カリキュラムの特徴として、次の３つが挙げられる。

(1) 実験実習等の体験型科目や、一つのものを作り上げる創成科目が充実したカリュラム

教室の椅子に座って教員の話を聞くだけではなく、実際に手を動かして頭で考える実験実習などの体験型授業や、アイデアを出して一つのものを作り上げその性能を競技により評価する創成型授業が充実している。その科目例として、３年生の「創造工学演習」「Ｃ言語応用」、４年生の「知能機械演習」、５年生の「アイデア設計工学」がある。

(2) 機械工学の基礎学力を身に付けるカリキュラム

機械工学の根幹となる材料力学、熱力学、流れ学、振動工学などの科目においては、課題や演習を多く取り入れ、機械工作法、材料学、機械設計法、機構学などの科目においては、機械製図や機械工作実習などで学んだ例を用いるなどして、分かりやすい説明を心がけ、学生の理解を深めている。また、機械工学科の教員全員で資格取得のための

補習なども実施している。その成果の一つとして、日本機械設計工業会機械設計技術者３級資格試験では、極めて高い合格率（H20 本校実績 64%、全国平均 37.5%）を誇っている。

(3) コンピュータや情報制御技術を用いて創造力・総合力を養うカリキュラム

先端ロボットに代表されるように、最近の機械は知能化・自動化の技術が目覚しく進歩しており、コンピュータやＩＴ技術を多く取り入れた授業カリキュラムとなっている。

２．　将来計画

(1)　システムとしてデザインできる技術者の養成

機械工学には、材料力学・材料学・工作法などのメカの機能を生み出す「機能材料」と、熱力学・流体力学など力学やエネルギーに基礎をおいた「機械物理」を生かした技術すなわちハード面のメカと、近年のコンピュータ、センサ・計測工学、制御工学およびエレクトロニクスの発達によって、自動化・知能化など機械を高度に使う技術すなわちソフト面のメカである「ロボティクス」が求められるようになってきている。一方、機械工学に対するニーズも複合・融合化してきており、ものづくりにおいて一つの領域のみで解決できる問題は少なく、材料、環境（エネルギー）、電子工学など複数の領域にまたがった問題が多くなってきている。したがって、個々の技術を「デザイン」して一つのテクノロジーを作り上げ「機能創成」できる技術者、さらにものづくりに関わる企画・設計・生産をトータルで考え、「システム」として実践できる技術者の育成を目指す。また将来は、環境問題や高齢化社会に対応した環境や人と調和したものづくり技術が強く要請されてきており、ハード面のメカ・ソフト面のメカに加えて「ヒューマン面のメカ」（知的センシング）を視野に入れることが必要である。今後カリキュラム等の検討を考えたい。

(2)　創成型授業と製図や工作実習をリンクさせた融合的ものづくり教育の実践

体験・創成型授業の導入による創造性・実践的能力の育成が実施されており、例えば平成１８年度に開講した「アイデア設計工学」では、アイデアを提案させ、それを具現化する立体的な品物を３Ｄ－ＣＡＤを用いて設計製図させ、マシニングセンタを用いて実際に加工された製品について、評価し改善点・問題点を設計にフィードバックさせて、ＰＤＣＡサイクルによるデザイン能力を養成している。このような創成型授業は教員の負担も多く、今後、学科内の体験・創成型授業科目を見直すと同時に、創成型授業と製図や工作実習をリンクさせた融合的ものづくり教育の実践を検討する。

(3)　実習工場の設備更新、先端設備の導入

ものづくりを実践する実習工場の設備については、本校が設立された際に整備されて以降、約４０年にわたって一度も更新されていないものが多く、その老朽化は教育の質の確保において大きな問題になっていた。しかしながら「平成２１年度設備整備費補助金」により、本年度中に基本的な工作機械の入れ替えが実現する予定である。一方、ナノテクに代表されるように近年の加工技術の進歩は目覚しく、高度なものづくり教育を行うには先端加工技術の導入が必要であり、このような先端設備の導入を検討する。

３．　重点課題

(1)　入学志願者の確保

重点課題のひとつめとして「入学志願者の確保に学科独自」でも取り組みたい。平成２１年度入試の機械工学科の入試倍率は１．５倍と、前年度の１．７倍に比べて若干の減少傾向にある。女子生徒の志願者は１名であった。また、福井県の１５歳人口は今後５，６年は8,500 人前後で推移する。これを受けて本学科では中学生および小学生を対象にしたパンフレットの作成、卒業生のパンフレットの作成などを中心に、以下のことを実施している。

①小学生向けの学科パンフレットの作成（出前授業、おもしろフェスタなどで配布）

②入試説明会での発表スライドの充実

③職業に関するパンフレットの作成(卒業生に現在の仕事について話してもらったものをパンフレットとした。入試説明会、出前授業、おもしろフェスタ、公開講座などで配布)

④女子生徒向けのパンフレット作成（女性の卒業生や現役学生の話を掲載した。入試説明会、公開講座などで配布）

⑤オープンキャンパス、出前授業、公開講座、サイエンスフェア、おもしろフェスタ等での積極的活動

(2)　基礎学力の養成

高専卒業生の魅力は、大卒と比べて基礎学力が定着が良いことがひとつの理由である。したがって、基礎学力の養成はいつの時代も本学科の重要課題のひとつである。本学科ではこのことが大きな問題点であると意識しており、学生に基礎学力を養成させることに授業の重心を置いている。

その対策として、数学と関連の深い科目を担当している機械工学科の教員と数学の担当者とが平成２１年２月２５日に「数学と専門科目（機械系）との教員間連絡ネットワーク会議」を開き、授業内容の確認、教材の提供、各クラスについての情報交換などを行った。そこで、３年生のクラスに関しては、放課後に３０分ほどの課題指導を担任を中心に週１回程度の割合で行っている（現在まで２０回を数える)。さらに、機械設計技術者３級資格試験対策の補講を、本科３～５年の学生を対象に１０月から１１月にかけて土曜日（３ｈ×１０回）に実施している。

以上のように、本学科では全教員が基礎学力を向上させるために鋭意努力中である。今後もこの方針を継続させていきたい。

４．　進学･就職指導状況

平成２１年度卒業予定者３２名のうち、就職希望者は１７名（卒業予定者の５３％)、進学希望者は１４名（卒業予定者の４４％)、その他１名（卒業予定者の３％）である。就職希望者は８月の時点で全員就職先が決定しており、県内７名(就職希望者の４１％)、県外１０名（就職希望者の５９％）となった。当学科卒業予定者に対する企業求人数は４６４人にのぼり、求人倍率は２７．３倍であった。機械工学科の就職先の特徴は、機械関連分野はもちろん、電気電子・情報・化学・材料・医療など極めて幅広い産業分野に及んでいることである。一方、進学希望者１４名の内訳は、大学１０名、福井高専専攻科４名である。

Ⅱ-3　電気電子工学科

１．　教育理念・教育目標

電気・電子、情報・通信は、社会の基盤技術であり、今後も拡大、発展が予想される。電気電子工学科は、情報･通信から制御、エレクトロニクス、光・電子デバイス、材料、エネルギーまで幅広い知識を学び、独創力を身につけ、社会に対する責任を自覚し、「地球にやさしく、人にやさしい２１世紀」をつくる技術者の育成を目指す。

(1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成

電気電子技術者のベースとなる電磁気学、電気回路、電子回路、コンピュータ技術の基礎を学んだ後、光・電子デバイス、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション､新エネルギーといった電気電子､情報通信に関連する幅広い分野の専門科目を修得し、新たな夢の実現に向けた新しい技術を開発する際に必要とされる基礎力を育成する。

(2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成

情報家電や光通信用電子機器を作り出すエレクトロニクス技術､電気自動車やロボット、システムをコントロールする電子制御およびプログラミング技術､インターネットやモバイル通信を実現して情報技術革命を先導する情報通信・情報処理技術、環境に優しいクリーンエネルギー技術などを幅広く学ぶことで、新しい技術開発に適応でき、国際的に通用する電気電子技術者を育成する。

(3) 独創力およびコミュニケーション能力の育成

情報技術革命・ナノテクノロジー、新エネルギー技術に象徴される地球規模での科学技術の急速な発展に対応するため、論理的思考能力、表現力、グローバルな視野、さらに諸現象に対する洞察力や知的探求心を培うものづくり教育、実験・実習を中心とした自己獲得型技術教育を通して独創力の育成を図る。さらに、様々な社会体験教育を推進することでコミュニケーション能力を育成する。

(4) 下記に示すアドミッションポリシーを提示し、これに対応する電気電子技術者に必要な基礎力を育成する。

・ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
・情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
・電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

２．　将来計画

電気電子工学科は、社会の中長期的な要請に基づき、教育内容の充実を行っていく。具体的には、

・授業科目の見直しと充実
・電気電子工学実験の見直しと充実
・卒業研究、特別研究の充実
・ものづくり・創造性育成教育のさらなる充実
・工業英語力の向上

３．　重点課題

(1)　入試倍率の増大

小中学校での出前授業・公開講座・地域連携事業参画・地域企業との共同研究などの活動を通じて地道に小中学生と父兄への電気電子工学科への認識作りを行い、入試倍率の増大へつなげる。また、現在の電気電子工学科において女子学生が少ないことを考え、女子学生を増やす施策を進める。

(2)　専門科目の充実

電気電子工学を学習するには、じっくりと時間をかけて電気電子に関する抽象的な概念を理解する必要がある。また、専門科目の特質から数学的素養を強く求められる。従来、それらの習得のために１学年に電気基礎工学や電気数学などの専門導入科目を４単位分、割り当ててきたが、数年前のカリキュラム改定で、それができなくなった。この状況に対応するため専門科目の内容、カリキュラムの見直しを進める。

(3)　地域連携、地域貢献の充実

電気電子工学科では、従前より地域イベントへの参画、出前授業、公開講座などを実施してきている。それらの実績を踏まえ、これまでの実施内容について精査し改善を図るとともに、電気電子工学分野における学科としての地域連携、地域貢献のあり方についても継続的に検討し、より効果的な施策を推進していく。

４．　進学・就職指導状況

平成２１年度卒業予定者３７名のうち、就職希望者は２１名、進学希望者は１６名となった。就職希望者は全員就職先が内定しており、県内７名、県外１４名となった。当学科卒業予定者に対する企業求人数は４５６にのぼった。電気電子工学科の就職先の特徴は高い求人数に加えて、電気・情報・化学・材料、機械、エネルギーなど幅広い産業分野に及んでいることである。

進学希望者１６名の内訳については、大学９名、福井高専専攻科７名となった。

Ⅱ-4　電子情報工学科

１．　教育理念・教育目標

「情報」とは人間の知的活動を支える根源でありあらゆる問題解決に必須のものである。電子情報工学科では、インターネットやＩＴ機器の基盤技術であるコンピュータ技術、情報通信技術、及びロボットに代表される制御技術の各分野で、コンピュータを自由に駆使して種々の問題を解決するエンジニアの養成を教育目標にしている。

電子情報工学科のアドミッションポリシーは、以下のとおりである。

・コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
・ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
・未来の IT 機器の開発をやってみたい人

２．　将来計画

平成１６年度に策定した電子情報工学科中期５ヶ年計画に従い、電子系科目を統合し、ソフトウェア系科目の新設や充実を行なってきた。平成２０年度当初には、情報システム

関連のものづくり、制御技術及びメディア情報処理の実験演習を充実させること及びＰＢＬ型授業に供するために創成教育ラボ、メディア情報演習室、情報システム実験室を設けた。平成２１年度から５年生の必修科目と選択科目の１科目ずつを入れ替え、情報系科目の充実を図っている。

平成１９年１０月にものづくり教育の経験を持つ教員を採用でき、他の若手教員とともにＰＢＬ型授業やメディア関連の実験演習で活躍している。その一環として、平成２０年度の校長裁量経費で購入した自走型ロボットLEGO Mindstorm NXTを用いて１年生のものづくり科学では独創的なアイデアを喚起し、問題解決を体験する演習を実施している。同じく、校長裁量経費で購入したメディア情報実験設備を使い２年生の後期にデジタル画像を扱う実験演習を始めた。このように、新しい観点からＰＢＬ型授業やメディア情報処理についての実験などが展開できている。社会系情報科目は平成２１年度より専攻科に「経営工学」として取り入れられた。

学科創設時より学科定員の２０％～３５％の技術者を目指す女子中学生を受入れ、社会に送り出してきた。しかし、平成１７年度以降においては、女子学生数の比率が半減してきている。高専を目指す女子中学生に対して魅力ある学科カリキュラムを用意し、優秀な女性技術者として育っていく人材を育てていくためにも、一層、情報系科目の充実と増加を図るカリキュラム改訂を検討し、実現を目指す。また、今後の教員採用に向けては、女子学生の立場に立って率先して教育、研究、学生指導が期待できる女性教員の公募も視野に入れていく。

３．　重点課題

例年同様、４年生のＰＢＬ型授業である「創造工学演習」の実践を通して全国高専プログラミングコンテストに競技部門に１チームが参加できた。組込み型ソフトウェアデザイン能力を競うETロボコンの関西地区大会に5年生1チームが初参加し、競技部門において44チーム中7位の高成績を修めた。このようにＰＢＬ型授業の成果を踏まえて、学生が各種コンテストへ参加でき、学校外から評価を得ている。

若手教員が顧問である「ＩＴ研究会(同好会)」はプログラミング及びメディアコンテンツ制作の鍛錬の場として活性化しており、平成２０年度に続き２１年度も同研究会メンバー１名がプロコン全国大会競技部門に出場し、平成２１年１２月に東京で開催された「高度ＩＴ人材育成事業『第２回　ＩＴリーダー育成キャンプ』には２名が参加した。昨年度に続き毎週日曜日１１時から１時間、地域ＦＭ局「たんなん夢レディオ」で福井高専のＰＲ番組を放送し、本高専の広報と地域との連携に貢献できている。

犬型ロボットAiboと自走型ロボットLEGO Mindstorm NXTを使った出前授業を行なって地域に貢献している。また、プログラミングに興味をもつ小中学生を対象にプログラミング講座を開催した。

入試倍率の回復と女子中学生の受検者数の回復を目指す学科独自の行動プランが求められている。平成２１年度のオープンキャンパスにおいて、学科パンフレットに加えて４，５年生の先輩からの学科ＰＲなどのメッセージパンフレットを作成した。加えて、卒業生の現在を伝えるＷｅｂページを福井高専と学科のホームページの両方で平成２１年度中に公開予定である。

その他、平成２１年度も福井県歯科医師会の要請を受けて「歯みがきロボコン」を共催し、小学生を対象とした「リモコンロボット部門」の参加者のために歯みがきロボット製作教室を開催し、さらに、福井県機械工業共同組合との間で行われた平成２１年度福井高専連携推進支援事業「自律ロボット制御講座」では３名の教員が講師を担当することで、地域貢献に寄与できている。

４．　進学・就職指導状況

昨年度に続き本年度も、リクルートのために来校した本学科卒業生諸氏と学生との意見交換会を頻繁に開催できた。平成２１年度の卒業予定者３１名のうち就職希望者、進学希望者はそれぞれ１２名、１９名である。進学希望者のうち本校専攻科に３名、国立大学に１５名が内定している。電子情報工学科の平成２１年度の求人数は、リーマンショック後の雇用情勢悪化の影響を受け、前年度比で６５％と低調ではあったが、学校推薦を受けた学生全員が内定を受けた。就職内定先は、県内就職・県外就職が共に６名ずつである。県外の就職内定先は、３名が東京都、２名が京都府、１名が愛知県であった。

本年度は、就職希望者数こそ少なかったが、県内及び県外の主要地域に適切に内定を受けている。また、製造業・IT 関連以外の分野からの求人もあり、それに応えられた。

Ⅱ-5　物質工学科

１．　教育理念・教育目標

教育理念は以下の３項目である。

１）産業基盤である素材を化学の視点で学ぶ技術者を養成する。

２）科学技術の発展（社会のニーズ）に適応したバイオ・材料技術に関する基礎能力（工学的素養）と、問題点を提起し解決できる能力（創造的デザイン力・総合力）を有する技術者を養成する。

３）持続可能な永続型社会を築くために、材料および生物資源を有効にかつ環境と調和をはかりながら活用することができる技術者を育成する。

また、具体的な教育目標としては、以下の３項目である

１）物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成

応用数学・工学基礎物理・情報処理・基礎工学概論などの基礎科学を学び、さらに、物質工学の基礎となる無機化学･有機化学･分析化学・生物化学・物理化学･化学工学などを体系的に修得することで、物質の本質を理解し、応用化学及び生物化学的手法により新物質を開発する際に必要とされる幅広い基礎能力を育成します。

２）材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成

材料工学コースでは、無機・有機材料の合成法や物性を修得することで、生物工学コースでは化学を基礎とした微生物学や遺伝子工学を修得することで、化学品･医薬品･食品等の得意とする専門分野で活躍できる技術者を育成します。

３）実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

校外研修、工場見学旅行、夏季校外実習などの体験型学習により、実社会における実践力や問題解決能力、プレゼンテーション能力の必要性を認識させながら、学んだ知識を真に身につけさせるために５年間を通した工学実験により実践力、理論的思考能力を育

成し、卒業研究により問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成します。
さらに、情報化社会に対応できるように、情報処理に関するカリキュラムを整備している。

２．　将来計画

上記のような教育理念・教育目標を中期計画の中で立て、実現すべく実行している。
本学科の特徴である、２つのコース(材料工学、生物工学)はこれからも堅持し、両分野での基礎となる教科の充実を図る。
化学技術者といえどもコンピュータに精通していることが求められており、各学年においてコンピュータ関連科目を配置し、情報教育を実施する。これまで、本学科では公害防止管理者や危険物取扱等の化学系の国家資格を取得するように推進してきたが、これに加えて、情報処理技術関連の国家資格の取得指導も行う。

３．　重点課題

公開講座や出前講座の回数を増やすだけでなく内容を充実させる。これらを通して、地域社会に対して貢献するとともに、中学生が本学科に対して入学希望を抱かせるために、本学科の良さを伝える。学科独自の広報委員を定め、学科パンフレットの刷新、ホームページの充実を行う。
本学科の全教職員が、１年生の段階から直接に教育（「ものづくり科学」）を行い、その少人数教育の中で、物質工学の面白さを伝えるだけでなく、学生の人間形成に関与し、休学・退学する学生をできるだけ少なくする努力を行う。
進学（大学編入学および専攻科進学）する学生に対して、勉学の手助けを行う。
就職先の拡充を図るため、インターンシップ先や共同研究先を利用する。

４．　進学・就職指導状況

平成２１年度卒業予定者３５名のうち、就職内定者は１２名、進学予定者は２０名（本校専攻科：７名、大学編入学：１３名)、その他３名（専門学校：２名、その他：１名）であった。景気悪化のために卒業予定者にしめる就職内定者の割合が約３５％となり、進学・その他が約６５％となっているが、社会での卒業生の活躍や企業の本校学生に対する高い評価により、就職希望者全員が就職先を決めることができた。進学は大学へは推薦で８名、学力で４名、専攻科へは推薦で５名、学力で２名となっており、推薦での進学者が多い結果となっている。

Ⅱ-6　環境都市工学科

１．　教育理念・教育目標

平成１７（２００５）年、全国総合開発計画が国土形成計画に変換され、同年発足した独立行政法人国立高等専門学校機構は、全国土木工学系２１学科の代表として環境都市工学科を、次のように定義づけた。
世界的な都市化に対応し、ヒトに優しく自然と調和した街を創造すると共に、生活がより安全、快適、便利に営まれるような社会基盤の整備などの環境保全型の技術者の育成を

目標としている。そのため豊かな教養を身につけて、確かな基礎学力に裏づけされた感性を持ち、国際化、高度情報化社会に対応できる技術者の養成を目指している。

これを受けて、本校の環境都市工学科は、次のことを教育理念として掲げている。

共に、持続可能な地域や環境都市、人間像を追求し、そのことを社会資本として具現化する構想へと導いて、適格な地域、環境都市、多様な社会基盤施設の計画・設計・整備・維持・更新の在り方も、方法論や手続きなどを学び、研究し、実践する研究実践型技術者の創発に寄与し、地域との連携に努める。

この前提となるアドミッションポリシー（入学者受入方針）は次の通りである。

(1) 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人

(2) 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人

(3) 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

また、本学科の教育の目的としては次の３つを掲げている。

(1) 環境都市工学の技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成

“地球環境に配慮した持続可能な環境都市”を構想し、多様な“社会資本”、“建築”や“人工の環境”、などを創造できる建設技術者を養成する。そのため、環境都市工学科では構造力学･水理学･地盤工学などの力学系基礎科目を体系的に教育することに加え、環境都市計画論・計画数理学・建築計画などの計画系科目、環境衛生工学・建築環境などの環境系科目を重視して、理論に関する学習と演習をとおして理解を深め、応用力を養うことに努めている。さらに、情報化社会に積極的に対応するための情報処理能力の修得にも力を入れている。

(2) 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成

専門基礎科目を応用し、さらに一歩深く踏み込んで、環境都市工学に必要な幅広い専門分野についても学習し、将来“環境都市”の構築に関するいかなる分野に進んでも、十分に活躍できる技術者の養成を目指している。さらに選択科目（専門科目）を幅広く開講し、学生が将来の進路に応じて選択・修得でき、学習意欲が高まるように配慮している。

(3) 実験実習や卒業研究を通した実践力と創造力の育成

各専門科目の学習速度にあわせ実験実習と設計製図を実施して、身をもって体験しながら理論を理解させ、あわせて実践能力・洞察力の育成にも努めている。さらに、第５学年の卒業研究では学生自身にテーマを選択させ、自発的な調査・研究を促し援助することにより、研究に対する工学的なアプローチ手法を修得させると共に、成果発表の機会を設けることにより、構成・編集・発表（プレゼンテーション）などの能力の養成に努めている。

２．　将来計画

平成２１年度入学生から改正建築士法に対応したカリキュラムとした。それによって平成２１年度入学生から、指定された選択科目の単位を修得して卒業すると、卒業後４年の実務で一級建築士試験の受験資格が与えられることになる。

本学科は、昭和４５年に土木工学科として福井高専に開設された。平成５年に環境問題にも対応できる学科を目指して環境都市工学科に改組した。開設以来、福井県内をはじめ

とした日本全国の建設系の企業や、国土交通省・福井県・福井市・越前市・鯖江市などの官公庁に多くの卒業生を輩出している。従来は土木系技術者の育成に重点をおいてきた。しかし、近年、入学生の要望や建設業界の動向を踏まえて建築系科目も充実した科目構成とした。なお、現在の２、３年生（平成１９年度、２０年度入学生）は改正前の建築士法に対応している。

卒業後の一級建築士試験受験資格取得を目指したカリキュラム改正の成果が問われるのは、来年度入学生が卒業し一級建築士試験を受験する平成３０年である。改正前の一級建築士試験受験資格のある現２年生を対象とすれば平成２８年である。しかし、対象学生が卒業するのは２年後、４年後である。したがって今後２～４年で次のことをする必要がある。

（１）キャリアパス教育の充実

本学科は前述のようにこれまで土木系技術者を世の中に輩出してきた。しかしながら、現２年生からは建築系技術者として社会に出て行く卒業生が出てくる。また、来年度入学生からは５学年の選択科目の履修内容によって卒業後の建築士試験受験資格が異なってくる。したがって、在学中に卒業後のキャリアパスを示す必要がある。さらにはキャリアパスを提示することによって、学生の学習意欲の向上を図らなければならない。

（２）キャリアパスに見合った教育内容の精査

卒業後のキャリアパスを示すと同時に、そのキャリアパスに見合った教育内容を提示し、実践していかなければならない。土木系技術者教育にはこれまでに培ってきた教育内容や教授方法があるが、建築系技術者教育にはそれがない。建築系カリキュラムをすでに実践している大学、高専との連携を密にしていく必要がある。土木系技術者教育、建築系技術者教育あるいは場合によっては土木建築複合型技術者教育のどれをとってもその分野のエンジニアリングデザイン能力の育成に関する教育が重要となる。平成２２年度には高専間人事交流制度により建築系教員が１年間本学科に在籍する。建築系授業内容の精査を行ってもらうことになっている。

（３）卒業生のキャリアを把握するシステムの構築

環境都市工学科卒業後に卒業生がどのような進路をたどりどのような職に就いているかを知り、卒業生が求めているものを、学科の教育内容および教授方法に反映させることが、キャリアパスに見合った教育の一番の近道である。社会のニーズはカリキュラムを経験している卒業生から得ることを第一とする。本学科には同窓会組織として「翔士会」がある。翔士会との連携を深めて、卒業生の意見の集約に努めていく。

３．　重点課題

（１）環境都市工学科からの情報発信

環境都市工学科で行っていることを広く社会に発信していく。具体的には、①ＨＰの充実、②学科紹介ビデオの作成、③出前授業の充実、④オープンカレッジ、サイエンスフェアの充実などがあげられる。社会への情報発信をすることによって環境都市工学科への入学志願者の増加も見込まれる。また、学科に在籍する学生への情報発信も重要である。具体的には、①キャリアパス、②科目の流れおよび科目内容、③取得資格の案内などである。学生への情報発信を充実させることにより、学生の学習への目的意識が高まり、学習意欲

の向上に結びつけられる。基礎学力、専門学力の必要性を説明し、それら学力の向上を目指す。

（２）同窓会組織「翔士会」との連携強化

卒業後３年から１０年の卒業生の意見を聞くことが重要である。本学科で学習した知識と能力が卒業生の進むキャリアにとっての outcomes となっているかを把握しながら、授業内容を変更していかなければならない。そのためにも卒業生との定期的かつ密な連携をさらに強化する必要がある。

４．　進学・就職指導状況

進路指導は、3 年次より個人面談や進路に関するアンケートを実施し、進路に対する意識を早い段階から持たせるようにした。また、4 年次（10 月）の三者面談において進路の方向性を決定し、進学・就職に対する準備を始めるように指導した。さらに、進路指導委員会が主催した進路指導セミナー、SPI 模擬試験などを通じて就業への意識啓発をはかり、学科として先輩講座、インターンシップ（報告会を含む）などを実施して公務員、ゼネコン、コンサルタントなどの職種について説明を行った。

これらの進路指導の結果、本年度卒業予定の環境都市工学科１３期生３４名の進路の内訳は、進学が１６名（本校専攻科６名、長岡技術科学大学２名、豊橋技術科学大学２名、福井大学２名、金沢大学１名、岐阜大学１名、信州大学１名、滋賀県立大学１名）であった。就職が１８名で、就職先は、公務員では鯖江市、坂井市、京都市に各１名、民間企業では水資源機構、中部電力、森本組、桑原、東海旅客鉄道、富士通、NTT インフラネットなどの県外企業へ７名、関組、西田建設、福岡、坂川建設、キミコン、辻広組、ホクコンマテリアル、構造設計研究所などの県内企業へ８名であった。現場志望の学生が多く、ゼネコンに就職した学生が比較的多かったこと、京都市や NTT インフラネットなどに就職開拓ができたことが本年度の特徴である。

Ⅲ. 専　攻　科

１．　教育理念・教育目標

(1)　概要

専攻科は、高等専門学校５年間の教育課程の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する人材を育成するために設けられた２年制の教育課程の組織である。本校の専攻科は、生産システム工学専攻（１学年定員：１２人）および環境システム工学専攻（１学年定員：８人）の２専攻から構成されている。専攻科では、本科の全学科の４、５年次と専攻科の教育課程を融合して１つにした教育プログラム（日本技術者教育認定機構：JABEE の認定プログラム）を実施している。

(2)　教育目標

専攻科の教育目標は、下記の５つの大項目とそれらを細分化した３２項目から構成される。

- 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
- 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
- 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
- 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
- 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

ものをつくり出すことあるいはつくり出す過程が自然や社会などの地球環境に与える影響を常に考えられる能力（環境を意識したものづくり）だけにとどまらず、「人間が住みよい環境とは何か」、「人間だけが住みよくてよいのか」をも考慮できる能力（環境づくりができる）の育成を目指して、学習・教育目標に「ものづくり」に加え、「環境づくり」も掲げている。さらに、「もの」「人」「環境」の連携を図り、それらを有機的に結びつけるシステムのデザイン能力を育成している。

(3)　目指すエンジニア像

地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり・環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身に付けた、国際社会で活躍する実践的技術者の育成を目指している。

(4)　カリキュラムの特色

本科５学科各々の専門知識の基礎を習得した後、専攻科では得意とする専門知識を深化させるとともに幅広い工学的素養を学ぶようになっている。また、他学科出身の学生と共同して、新しい課題・分野に挑戦する能力育成のための講義として「先端材料工学」および「ものづくり情報工学」、体験型学習として「創造デザイン演習」が用意されており、融合・複合した科目の充実を図っている。また、夏季休業期間を利用しコーオプ教育の一環として学生には約一ヶ月間のインターンシップを体験させている。さらに、アメリカのＦＥ(Fundamental Engineering) 試験には経営工学の試験科目もあるように、会社を経営する際は ONLY ONE の技術とともに経営工学の知識が必要不可欠であるので、教育課程表を改定して「経営工学」の科目を今年度の２年生から開講した。

２．　将来計画

(1)　専攻科の拡充

将来、少子化による本科の学生定員の削減が予想されるため、専攻科所属の教員を配し、専攻科学生の定員増を図る。現在専攻科では、複合・融合領域で JABEE に認定された環境生産システム工学プログラムを実施しているので、専攻科の２専攻（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）のあり方などを検討し、コース制の導入も視野に入れ、学生定員増を図る予定である。例えば、福井県は全国有数のエネルギー供給県であることを考慮してエネルギーコース等を設けることなどが考えられる。

(2)　学位授与権への対応

専攻科生の学士号取得は、２年生の１０月上旬に大学評価・学位授与機構に学修成果報告書を提出後、１２月中旬に行われる報告書に対する小論文試験を大阪で受験し、翌年２月中旬にその結果が郵送され、合格の場合は所定の手続きを行うことにより３月中旬に学位記が送付されてくる。学修成果報告書は、８月ぐらいから書き始め、下書き・修正を重ね９月末に完成させなければならず、このため特別研究の進展に支障をきたしているのが現状である。また、学修成果報告書に基づいた小論文試験が１２月に大阪で実施されることに伴い、専攻科生は前泊しなければならない場合もあり、経済的負担増となっている。そのためにも、学位授与権の取得、防衛大学校のような包括認定方式および学位審査権の一部割譲等を高等専門学校機構本部および全国の高専と協力して要望する。

３．　重点課題

(1)　技術者教育の充実

専攻科では、１１の開講科目において実務経験豊かな技術士、弁理士、NPO 法人の理事長および起業家等の方々を非常勤講師として採用している。また、夏期休暇を利用して約１ヶ月のインターンシップ、北陸技術交流テクノフェアでの研究発表など技術者教育に力を傾注している。また、エンジニアリングデザイン能力（コミュニケーション能力、チームワーク力、構想力、問題設定能力）の向上を図るため、講義のみならず出前授業、オープンキャンパス、サイエンスフェア等において活躍の場を専攻科生に提供している。

(2)　英語能力の向上・国際活動

専攻科修了要件の一つに TOEIC で４００点以上の取得を義務づけている。英語能力の向上を図るために授業では現代英語（１００分×３０回）および専門英語を工学演習（１００分×２２回）で教授している。また、TOEIC-IP 試験を本校で年５回実施し、高得点者は修了時に表彰することを通して、英語に対するモチベーションを高めるようにしている。さらに、専攻科生の海外での学術活動およびボランティア活動を支援するため、海外活動支援制度を設けて経済的支援をしている。

(3)　本科との連携

専攻科生を対象に実施している総合試験（基礎学力確認試験：数学、情報）や TOEIC-IP 試験を本科生にも開放している。その受験者は年々増えており、これらの試験を就職試験、専攻科入学試験・大学編入学試験のための模擬試験や英語に対するモチベーションを高めるための機会というような積極的な位置付けを行うとともに、より一層の本科との連携の強化を図っている。

Ⅳ.　教務関係

１.　基本方針

教務活動は、本校の教育理念と、養成すべき人材像に沿った教育を行うための業務運営が主たる活動である。このため、教育目標を達成するための、最も効果的なカリキュラム編成、授業方法、評価方法の研究と実施が重要な職務と考えられる。また、これらの目標を達成するための人材の確保手段としての入試に対する取り組みも重要な業務に上げられる。現在、これらの業務を達成すべく目標に向かって努力を続けている。ここでは現在の本校の教務活動に関し、教務関連の課題と今年度の対応を概説し、校舎改修や新型インフルエンザに関する対応および特に問題となっている入学者確保に関する対策を詳細に記載する。

２.　教務関連の課題と今年度の対応

本校の教育理念である、「創造性豊かな人材の育成、幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育、高度に情報化した国際社会に対応する教育、環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」を行うため、各学科が教育目標を掲げ、そのためのカリキュラムを編成している。以前の機関別認証評価において最も重要視された事項が「教育理念があり、それに沿ったカリキュラムが編成されているか」であり、今後とも、このことに留意したカリキュラム編成研究が重要であると思われる。

平成１８年度に高等専門学校設置基準が改訂され、高等専門学校にこれまでの履修単位ばかりでなく、学修単位が６０単位まで導入することが認められた。これによって、さまざまな授業形態が考えられるようになったが、同時に各学校独自の個性ある教育方法が問われることとなった。本校では各学科の高学年に講義演習タイプの約２０単位の学修単位を導入したが、実質的に講義の時間数は変化していない。一方、４、５年に専攻科と同様な単位換算の講義タイプの学習単位を導入する高専が出始めている。本校では、他高専の導入状況と問題点を検討しながら、慎重に導入時期を決定したい。

本校では平成１７年度より、中学生・保護者の要望と低学年の創造教育進展のために、低学年のクラス編成と入試制度、カリキュラムを改訂した。具体的には、学力入試で各科８名の工学基礎コースを設け、２年進級時に本人の志望と成績により転科が可能になる制度である。これは高専への入学の意思はあるものの、希望学科が特定できないという生徒・保護者や中学校教諭からの意見により本校が独自に始めた制度であり、現在学力受検者の約７割が希望し人気が高い。実際の転科の状況としては、平成１７年度には１４名、１８年度には５名、１９年度には１１名、２０年度には６名が転科している。また、この制度を設けるに当たり、１年の１クラスを工学基礎コース、他のクラスを混合学級とした。さらに、ものづくり科学という創成型の授業を開始するなどのカリキュラムの改訂を行った。この制度の入学者が現在５年生にまでなっており、昨年度に引き続き現状の検証を行っている。京都の堀川高校など創成型授業が普通高校でも注目を集めているが、本校では基礎学力の向上を重視し、工学基礎コースの精神を生かしながらさらに魅力ある高専教育を実現するために、制度の改正を行いたい。

３年前より導入した１コマ１００分の授業の問題点を改善するため、昨年度より一部試行していた５０分授業の割合を増やし、できるだけ３．５コマ（５０分授業では７限）で終了できるように時間割を改正した。現状では４コマ（８限）終了の日が週１回火曜日に特定の学年で

生じるが、将来は全ての曜日が３．５コマ（７限）で午後４時頃に終了できるようにカリキュラムの改訂を継続して検討したい。

校舎改修工事の関係もあり、昨年度と今年度は８、９月を夏休みとする学事日程を採用した。そのため９月中の学生指導の一環として、９月末に学力強化週間を設け、成績不振の学生を対象に基礎学力の強化を図る行事を新たに開始した。今年度初めての試みにもかかわらず、学科・教室で取り組み、夏休み課題の確認・指導、授業の復習・補講、仮進級解除、再試験実施、資格試験の指導など多岐にわたる内容で実施することができた。学力強化週間は、夏休み終盤の９月末に主として成績不振の学生を指導することで、該当学生が後期のスタートをしやすくなるなどの効果も期待できる。数学・物理や専門基礎科目の復習など、独自のカリキュラムを組んで行った学科もある。基礎学力向上は本校で最も取り組むべき課題の一つであり、今後も今年度の実施結果を参考に内容の改善を検討していきたい。

発達障害・学習障害の学生に対する支援については、一部の高専で特別支援室を開設するなど具体的な活動を開始している。本校でも人数的には少ないが対象となる学生が出てきており、該当学生の教務に関する支援を行うため、今年度新たに特別支援ワーキンググループ（WG）を設置した。教務主事（WG 長）、学生相談室長（副 WG 長、議長）、看護師、カウンセラーが構成メンバーであり、支援が必要な学生毎に支援チームを設けて対応を開始している。また、学生相談室長が福井県の特別支援教育コーディネーター研修に参加し、本校でコーディネーターとして活動できる体制作りを行った。発達障害に関するメンタルヘルス講演会を実施して、教職員に対する啓蒙活動等も行った。

３．　校舎改修工事に伴う教務関連の対応

高専機構に要望していた校舎の改修が認められ、平成２０年度にそのⅠ期工事として、本館（主に２～４年の教室がある南北向きの校舎）の改修が７月から１２月までの日程で開始された。さらにⅢ期工事として予定されていた機械工学科棟の改修工事が引き続き１～３月に前倒しで実施され、行事予定や代替教室等教務関連の対応を行った。Ⅰ期工事では８～９月の２ヶ月間を連続した工事期間として確保する必要があるため、行事予定を通常と異なる形式（７月下旬に期末試験、８～９月が夏季休業、４～７月は月１回土曜日または祭日が登校日）で実施することとした。また、実験室や会議室等を教室用に改修し、代替教室を全部で１３教室学内に設けて対応した。

今年度はⅡ期工事として電気電子工学科棟と物質工学科棟の改修工事を６～１２月に実施することになり、代替教室を昨年度より多い１７教室を学内に設けて対応した。なお、１２月末に新教室に移動することができ代替教室は解消されたが、管理棟の工事が引き続き１月より開始された。管理棟内の事務部が図書館１階や福利施設１階の仮部屋へ移動することとなり、不便な状況は今年度末まで続くことになったが、学生に少しでも良い教育環境が提供できるよう継続して努力している。

４．　入学者確保とその状況

本校の教育理念に沿った教育を行うため、また、本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。過去３年間の入試倍率の推移を以下の表に示すが、過去５年間で見ると１７年度の１．８倍から１．７倍、１．５倍へと少しずつ低下し、低下傾向に歯止めがかからない状況かと心配された。ただし、

２０年度に今までの結果を検証し、①入試に関する１年生へのアンケート調査、②推薦基準の改正、③入試会場の増設、④全中学生配布用入試リーフレットの作成、⑤入試関連行事の見直しと改善などを行い、１．７倍に倍率が回復した。昨年度は２０年度の方針を継続し、さらに福井市に入試会場を増設するなどの対策を行った。入試の平均点や最低点等から判断すると、まずまずの成績の生徒が入学しているが、倍率としては１．５倍に戻っている。今年度は２０年度の倍率に戻るよう努力しており、以下にその内容を記す。

＜過去３年間の入試倍率の推移＞　　（　）内は女子で内数。

年度	学　科 ［募集人員］	機　械 ［４０］	電気電子 ［４０］	電子情報 ［４０］	物　質 ［４０］	環境都市 ［４０］	計 ［２００］
H21	志願者数	60(1)	75(3)	47(8)	57(17)	57(13)	306(42)
	合格者数	40	40(3)	40(4)	40(14)	40(10)	200(31)
	倍　率	1.5	1.9	1.2	1.4	1.4	1.5
H20	志願者数	67(3)	59(3)	86(11)	80(25)	50(8)	342(50)
	合格者数	40(1)	41(2)	41(6)	40(14)	41(10)	203(33)
	倍　率	1.7	1.5	2.2	2.0	1.3	1.7
H19	志願者数	55	55(3)	59(6)	68(23)	63(12)	300(44)
	合格者数	41	40(3)	40(5)	41(17)	40(8)	202(33)
	倍　率	1.4	1.4	1.5	1.7	1.6	1.5

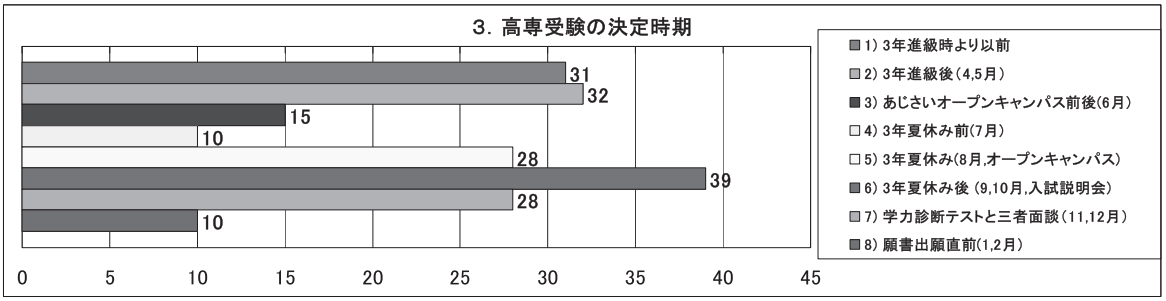
(注)平成２１年度の入学者選抜試験中学校別合格者数をこの項目最後に添付する。

(1)　入試に関する１年生へのアンケート調査

４月に新１年生に対し、入試に関するアンケート調査を実施し、今年度の入試に関する方針を決定するための基礎資料とした。以下に例として、高専受験の決定時期、本校を志望した理由とアドミッションポリシーに関するデータを示す。

①　高専受験の決定時期

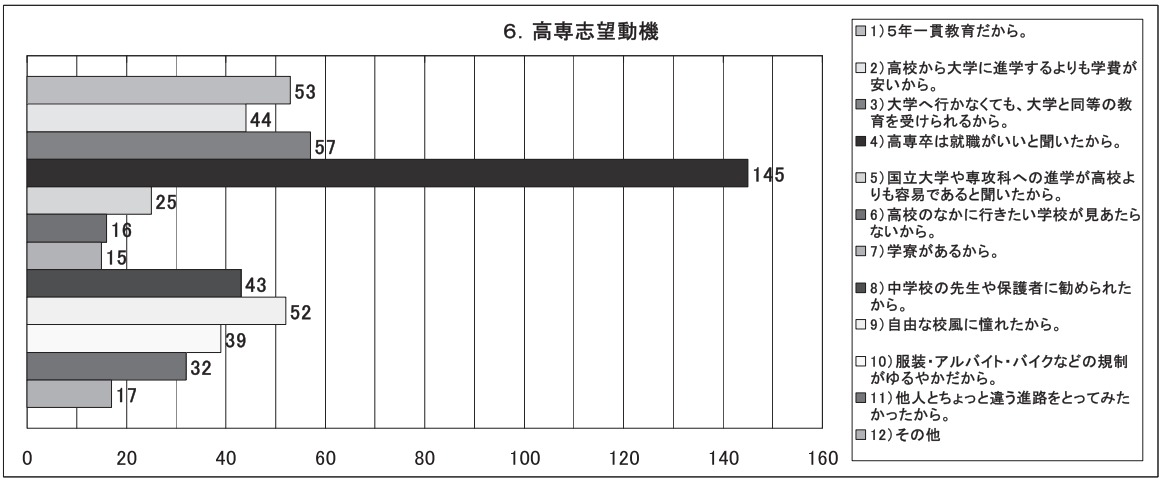
高専受験の決定時期としては、３年の夏休み後の９～１０月頃が最も多いが、３年進級前後や３年の夏休み、１１～１２月の３者面談の頃も多い。願書出願直前にも１０名ほどの生徒がおり、３年進級前も含め、継続して高専の広報活動を行う必要性がある。



＜高専受験の決定時期（複数回答可）＞

② 本校を志望した理由

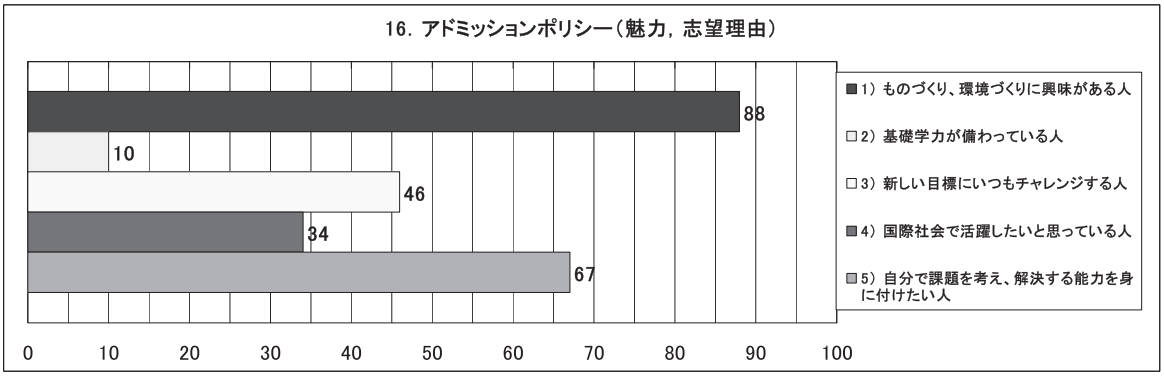
本校を志望した理由を複数回答可で集計したところ、以下のグラフのように、「高専卒は就職がいいと聞いたから」が一番多くなり、２番目が「大学へ行かなくても、大学と同等の教育を受けられるから」で、３番目が「５年一貫教育だから」と「自由な校風に憧れたから」がほぼ同数であった。この傾向は昨年度と大体同じであるが、就職が良いという割合が昨年より増加していた。最近の経済状況を表していると考えられ、就職という観点が昨年度以上に中学校の生徒へは非常に重要であることが分かった。また、「国立大学や専攻科への進学が高校よりも容易であると聞いたから」という将来の進学を挙げた学生は予想ほどはおらず、昨年度よりさらに減少していた。ただし、ある程度の割合はあり、保護者や中学教員へのアピールとしては重要な項目と考えられる。



＜福井高専を志望した理由（複数回答可）＞

③ アドミッションポリシー

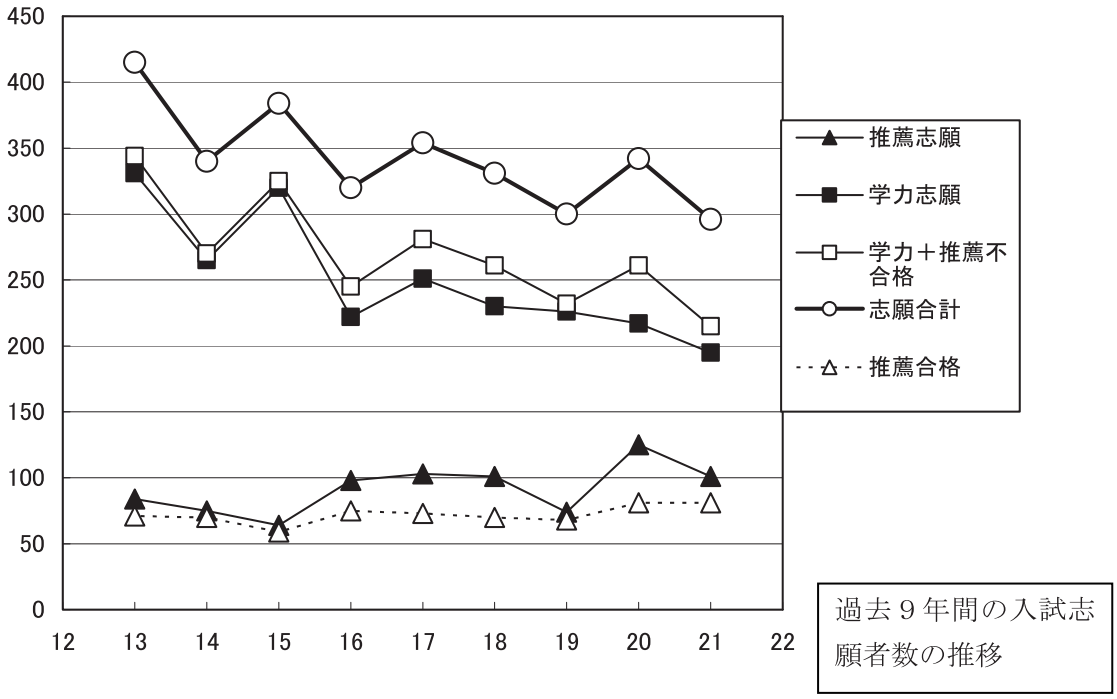
福井高専のアドミッションポリシーの中で、魅力を感じ、福井高専志望の理由となったものは何かを複数回答可で質問したところ、以下のように「ものづくり、環境づくりに興味がある人」が昨年度と同様に一番多くなった。本校で一番重視している項目であり、現状のアドミッションポリシーに沿った学生が入学しており、適切な状況と考えられる。なお、３と５の項目が昨年度より向上しており、良い傾向と思われる。



＜アドミッションポリシーの中で福井高専志望の理由となったもの（複数回答可）＞

(2)　推薦基準の検討

本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。中学生の生徒数の減少と共に、本校の入試倍率は平成１７年度１．８倍、１８年度１．７倍、１９年度１．５倍と低下傾向が続いていたが、２０年度に推薦基準の改訂（緩和）を行い、１．７倍にまで増加した。昨年度は入学者の質はまずまずであったが、倍率は１．５倍に戻っている。下図に過去９年間の入試の志願者数の推移を示す。



過去９年間の入試志願者数の推移

２０年度に改訂した内容は以下の通りである。

(a) 推薦要件の緩和（対象学年を２、３年とし基準点数を６８点以上に低減）

(b) 募集人員を３０％程度から３５％程度に５％（各科２名）増加

この改定案は、過去の入試データおよび入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出した内容である。昨年度入学した１年生の入学後の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績は問題がなく、推薦要件については今年度の入試にも継続して採用することにした。ただ、募集人員は他の高専が推薦の割合を増やしていることから、本校も３５％程度から１５名程度と実質各科１名増加することにした。

また、「科学の分野」で優れた成果を収めた者を対象に実施している推薦のイ要件に、最近中学ロボコンで優秀な成績を収めた中学生が応募してくることから、「科学の分野」を「科学や技術の分野」に改正した。

(3)　入試会場の５会場体制の継続と整備

福井高専会場と滋賀県彦根市会場以外に、１９年度に嶺北北部のあわら市、２０年度に嶺南の敦賀市、そして２１年度は人口の多い福井市に学力検査会場を新設し、昨年より学力検査は５会場体制になった。２１年度の福井市会場は、ＪＲ福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ７階の放送大学福井学習センターで実施した。今年度は福井市会場の収容人員を増やすため、

同じアオッサの６階フロアを全て貸切で実施することにした。昨年度のアオッサ会場は、収容人員の関係から福井市南部の中学など一部地域制限を行ったが、今年度の広い会場では、地域制限を撤廃し、受験生がより利用しやすいように改善された。

(4)　全中学生配布用入試リーフレットの作成、学校紹介ＣＤの改訂

入試関連の中学生に対する本校紹介用資料としては、冊子体のカレッジガイドを用いており、中学校訪問時や郵送で県内全中学校および滋賀県・石川県の中学校に指定部数を配布し、オープンキャンパスや入試説明会等の参加者に渡している。一方、県立高校では各高校を紹介する資料を中学生全員に配布しており、その中に本校の情報が含まれていないことが指摘されていた。この問題を入試委員会で検討し、一昨年度新たに「福井高専Ｑ＆Ａ」というＡ４版のリーフレットを作成し福井県内の中学生全員に配布することにした。今年は６～７月の福井県および滋賀県の中学訪問時に持参し３年生全員への配布をお願いした。また、２年時に将来の進路指導を考えさせている中学校が多いことから、県内の中学校２年生全員に配布して頂くようお願いし、滋賀、石川県内中学校の２年生対象には指定部数を９月に郵送した。

また、本校紹介用のＣＤ（ビデオ映像）を新たに作成し、名称を「Challenge 福井高専は今」と改め、オープンキャンパス等で配布したり、中学校訪問時に持参した。

(5)　入試関連行事の見直しと改善

①　校長・副校長による県内の中学訪問と挨拶（４、５月）

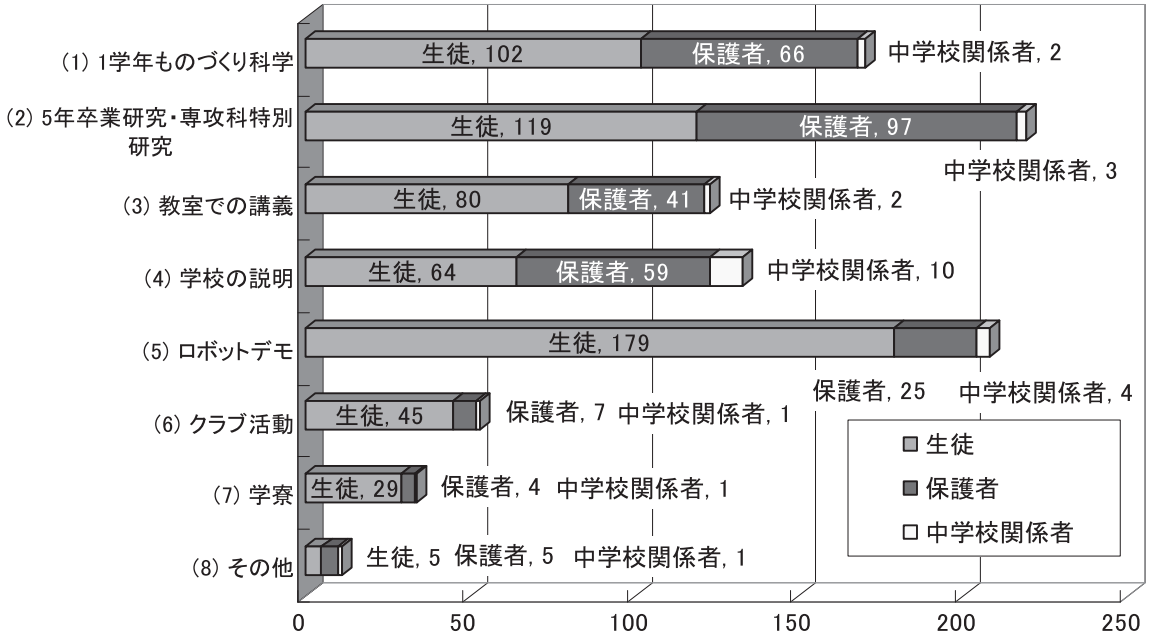
年度の当初に校長・副校長が丹南および福井市南部地区の主要中学校を訪問し、各中学校校長に対して前年度の志願者派遣に対する謝礼を述べている。また、副校長が残りの県内のほぼ全中学校を訪問し、前年度の御礼と今年度の入試関連行事の予定、特にあじさいオープンキャンパスへの参加をお願いした。１年のアンケート結果で就職が良いことが志望動機で最も高いことから、就職（不況時の高い求人倍率）と進学状況、および校舎改修を分かりやすく説明した印刷物を作成し、訪問時に配布した。

②　あじさいオープンキャンパス（６月）

福井県内の高校が５、６月にオープンスクールを実施するようになったことに対処するため、本校でも平成１８年度より６月にアーリーサマーオープンカレッジを開催することとした。昨年度から季節感が出て中学生が覚えやすくなるように、あじさいオープンキャンパスという名称に変更した。夏の従来のオープンキャンパスと区別するため、このオープンキャンパスでは文字通りに実際の授業を中学生・保護者・中学関係者に参観してもらうこととしている。また、一昨年度より保護者が参加しやすいように開催日を土曜日としている。公開授業としては、「ものづくり教育」関連授業として１年のものづくり科学や５年の卒業研究・実験を行ったが、Ｅ科とＣ科が改修工事で実験室が少ししか使えないため、一般科目教室に協力をお願いし、英語などの普通の授業を増加した。また、学校説明会やロボコンの実演も行った。なお、パンフレットをカラー化し分かりやすい内容にした。

６月２０日（土）に、校舎改修のため１７室もの代替教室体制の中で開催したが、生徒が３４１名、保護者が２１６名、教諭が２４名で過去最高の合計５８１名もの参加者でにぎわった。昨年度より全体で１１２名、生徒では７８名増加し、一昨年度より全体で８４名、生徒では４０名の増加であり、十分な宣伝効果があったと考えられる。

オープンキャンパスで興味を持ったのは何かという質問をしたところ、次の図のように一番多かったのは、生徒の数ではロボットのデモ（ロボコン参加ロボット等の実演）であった。（ロボットデモは今年度の参加者が多く、会場の関係で生徒のみの参加としたため保護者の数は少なくなっている。）その次は５年の卒研、１年のものづくり科学、学校の説明と続く。この結果は昨年度の結果とほぼ同じであり、ロボットのデモやものづくり関連の体験型授業に興味が多くなっており、今後もこの方針は継続すべきと判断される。



＜あじさいオープンキャンパスで興味を持った内容（複数回答可）＞

③　中学校訪問（６月中旬～７月上旬）

６月中旬から７月上旬にかけて、県内のほぼ全中学校と滋賀県の中学校を副校長、学科長・一般科目主任、教務委員が分担して訪問した。昨年度から、教員ができるだけ２人体制で訪問することとし、詳細な訪問マニュアルも作成した。さらに今年の入試の変更点の印刷物を作成し、中学校に早めに案内することにした。応募者が減少傾向の滋賀県は教務主事団が２人体制で訪問した。また、一昨年度入試会場として敦賀会場を新設したため、若狭地区の中学校もほぼ全校を訪問した。さらに石川県の中学校の中で、昨年応募者のあった福井県側の加賀市、小松市の中学校を訪問した。

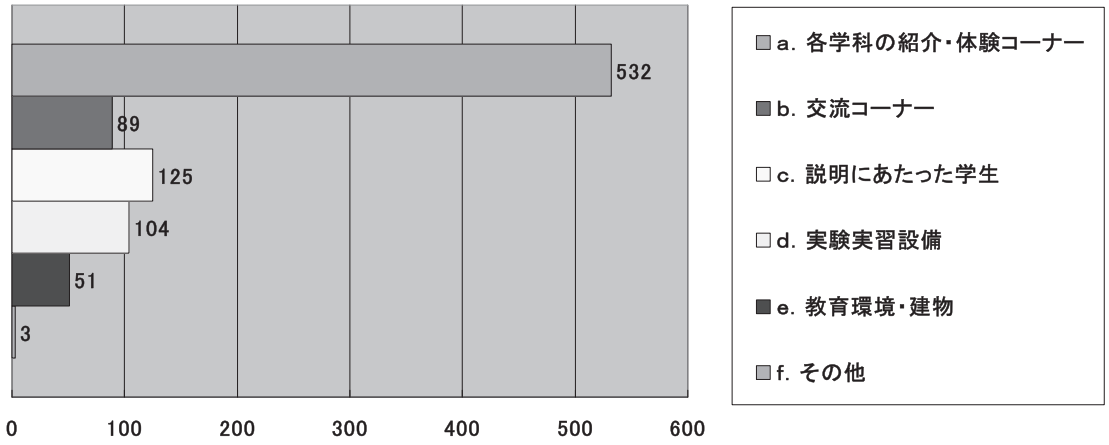
④　オープンキャンパス（８月初旬）

毎年夏に、本校の各学科の内容を中学３年生・保護者・中学校関係者に紹介するために開催している。以前は体験入学と呼ばれていたが、各学科の５年生が準備して実際にデモ実験等を体験できるために中学生に人気がある。例年多くの参加者があるがここ数年減少傾向で、特に１８年度は６月にアーリーサマーオープンカレッジを事前に開催したため、参加者は約２００名弱減少した。１９年度は６月との違いを説明して中学校を訪問したところ、１２０名増加した。昨年度名称をオープンキャンパスと改め、今年度からは保護者が参加しやすくなるよう、８月８日の土曜日に開催することにした。最終的な参加者は、生徒４１３名、保護者１８３名、

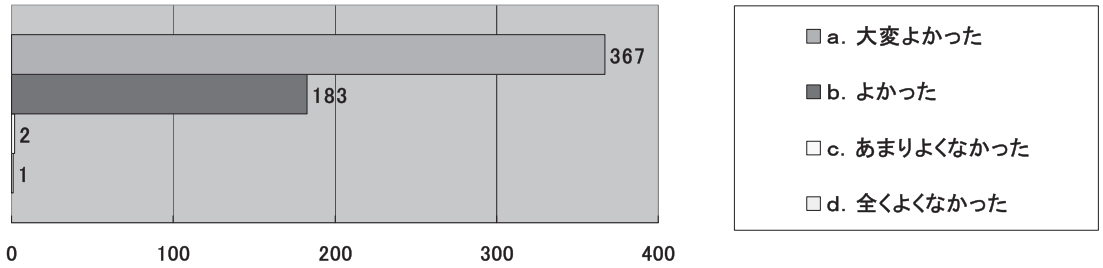
教員２５名（総数６２１名）となった。参加総数は昨年より５２名の増加となり、土曜日開催としたため保護者の参加者が４４名増加している。非常にありがたいことであるが、オープンキャンパスを両方ともに参加した生徒は２０７名もいた。なお、今年度はパンフレットをカラー化し、オープンキャンパス用のホームページも作成した。会場では、暑さ対策としてうちわを配布した。

実施後のアンケート結果は次のようである。昨年度と同様であるが、各学科が工夫を凝らし体験コーナーが充実していたため、学科のコーナーの評価が高かった。また、全体の満足度も非常に高くなった。なお、開催日に関してもアンケートを採ったが、現在の日程（８月初めの土曜日）が最も賛同者が多く、来年度も今年のような日程で良いと判断される。

（ａ）一番印象に残ったこと（一つ回答）



（ｂ）満足度



最後にオープンキャンパスの参加者を過去５年間で比較した（下表）。この表からも分かるように、今年度の参加者は６月と８月の合計で１，２０２名あり、昨年より１８７名増加し、過去最高の参加者であった。生徒数も７５４名で過去最高で、参加中学校も延べ１４１校で過去最高の数字である。

＜過去５年間のオープンキャンパス参加者・参加校数の推移＞

区　　分		参加校	参　加　者			
			生徒	保護者	教諭	計
21 年度	6 月	59	341	216	24	558
	8 月	82	413	183	25	621
	計	141	754	399	49	1202

20 年度	6 月	56	263	153	30	446
	8 月	80	395	139	35	569
	計	136	658	292	65	1015
19 年度	6 月	49	301	170	26	497
	8 月	78	435	116	30	581
	計	127	736	286	56	1078
18 年度	6 月	38	235	84	15	334
	8 月	76	317	117	29	463
	計	114	552	201	44	797
17 年度		82	474	148	37	659
16 年度		83	489	138	39	666

⑤　入試相談コーナー（８月、１０月）

８月８日（土）、９日（日）に開催された「誘・遊・愉おもしろフェスタ in サンドーム福井」の高専コーナーおよび１０月１７日（土）、１８日（日）開催の高専祭のサイエンスフェア（学科催し）において、入試相談コーナーを設け本校の紹介と入試の案内を行った。その結果、おもしろフェスタはオープンキャンパスと重なったため昨年度より減少したが、中学３年生が３名、２年生が１名、１年生が１名参加し、保護者も相談に訪れた。高専祭の方は、中学３年生よりも中学１、２年や小学生が保護者と訪れることが多く、長い目で見た入試対策として今後も継続すべきと考えている。

⑥　中学校訪問（９月）

丹南地区の中学校（１１校）を９月末に訪問し、募集要項を持参し今年度入試の変更点や入試説明会の参加依頼、中学校主催の高校説明会への積極的参加などを説明した。

⑦　入試説明会（１０～１１月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科主任・教務委員によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県１０会場（１１回）、滋賀県６会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（２回）と高専会場（２回）以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去３年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で１７名、合計で６５名増加していた。今年度は新型インフルエンザの流行時期と重なりその影響で少し欠席者が増えており、実際はもう少し多いと考えられる。福井新聞に９月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して２９名増加している。今年は嶺南地区や嶺北北部で中学３年生の人口が増加しており、その地区の参加者が増加していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年と同数の１１校から参加依頼があり、副校長が６回、教務主事補が５回出席し入試に関す

る話を行った。なお、ブース形式で複数回少人数に話をする形式が昨年より増加した。

＜過去５年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（９月集計）の推移＞

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
21 年度	285	256	80	621	283
20 年度	268	223	65	556	254
19 年度	329	297	78	704	278
18 年度	257	237	69	563	226
17 年度	279	246	83	608	280

５．　新型インフルエンザに関する教務及び入試関連の対応

今年度は新型インフルエンザが流行し、特に秋から福井県内で患者が増加し、１１～１２月に本校でも感染者が急増した。教務に関する学校行事としては、特に１１月に実施予定の工場見学旅行を３月上旬に延期して実施することにした。１２月上旬の後期中間試験に関しては、学級閉鎖の学生に試験範囲や課題等を郵送し、クラスによっては新たな試験時間割を組んだり、追試験が行えるよう特別短縮授業の期間を設けるなどの対応を行った。

本科の入試に関しては、インフルエンザ用疾患の生徒に対し、推薦は別室受験で、学力は追試験で対応することとし、推薦入試および学力検査に対する詳細な対策を検討している。

６．　留学生受け入れ状況

本校では、諸外国との相互理解と友好の増進に寄与するため、外国人留学生を受け入れている。今後も国際協力のため積極的に受け入れを続けたい。また、他の学生にとっても学校・クラス内に留学生と日常的に接することができるのは、国際社会の一員であることを理解するためにも有益と考えられる。平成２１年度の留学生の在籍状況は下表のとおりである。

学年・学科＼国名		ﾏﾚｰｼｱ	ﾗｵｽ	ﾓﾝｺﾞﾙ	ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｨｯｼｭ	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	合計
３年	機械工学科	1						1
	電子情報工学科			1				1
	小計	1		1				2
４年	機械工学科	1						1
	電気電子工学科						1	1
	電子情報工学科				1			1
	小計	1			1		1	3
５年	機械工学科	1						1
	電気電子工学科	1	1					2
	電子情報工学科					1		1
	小計	2	1			1		4
合　　計		4	1	1	1	1	1	9

７．　在校生の状況

平成２１年度の在籍状況は以下のとおりである。（平成２１年１０月１日現在）

＜本科＞

学　　科	定　員		現　　員					
	学級	学科	1年	2年	3年	4年	5年	合 計
機械工学科	40	200	40 (0)	42 (1)	39 (0)	47 (0)	32 (3)	200 (4)
電気電子工学科	40	200	40 (3)	45 (2)	42 (3)	42 (4)	37 (3)	206 (15)
電子情報工学科	40	200	40 (4)	44 (5)	42 (4)	42 (6)	31 (6)	199 (25)
物質工学科	40	200	40 (14)	39 (14)	42 (17)	36 (19)	35 (12)	192 (76)
環境都市工学科	40	200	40 (10)	40 (10)	32 (7)	37 (9)	34 (8)	183 (44)
合　　計	200	1000	200(31)	210(32)	197(31)	204(38)	169(32)	980(164)

（　）内は女子で内数

＜専攻科＞

専　　攻	1　年	2　年	総　計
生産システム工学専攻	14 (1)	16 (1)	30 (2)
環境システム工学専攻	16 (3)	16 (1)	32 (4)
計	30 (4)	32 (2)	62 (6)

（　）内は女子で内数

平成21年度入学者選抜中学校別合格者数等一覧

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
東和中学校				1		1	1				1	2	1			1	1	3
石川県小計	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	3
福井大学教育地域科学部附属中学校										1		1				1		1
明倫中学校		1				1			2		1	3		1	2		1	4
明道中学校				1		1	1		1		1	3	1		1	1	1	4
進明中学校			1		1	2	2		1	1	1	5	2		2	1	2	7
成和中学校							1				1	2	1				1	2
大安寺中学校									1			1			1			1
至民中学校							1					1	1					1
大東中学校	1				1	2	1					1	2				1	3
足羽中学校								2			2	4		2			2	4
川西中学校	1					1				1		1	1			1		2
森田中学校	1	2				3		2		1		3	1	4		1		6
社中学校			1			1					1	1			1		1	2
足羽第一中学校					1	1		1	1			2		1	1		1	3
越廼中学校										1		1				1		1
清水中学校			1			1				1		1			1	1		2
松岡中学校									1	1		2			1	1		2
上志比中学校			1			1		1				1		1	1			2
開成中学校		1	1		2	4		2		1		3		3	1	1	2	7
陽明中学校			1	1		2			1			1			2	1		3
上庄中学校				1		1										1		1
尚徳中学校	1					1							1					1
勝山南部中学校					1	1											1	1
勝山中部中学校			1			1									1			1
芦原中学校	2					2					1	1	2				1	3
金津中学校			1		1	2				1	1	2			1	1	2	4
三国中学校	1	1		1	1	4					1	1	1	1		1	2	5
丸岡中学校	1				1	2					1	1	1				2	3
丸岡南中学校				1		1			2			2			2	1		3
春江中学校		1				1	1		1	3	3	8	1	1	1	3	3	9
鯖江中学校	3				1	4		2	1	1		4	3	2	1	1	1	8
中央中学校							3		2	1	1	7	3		2	1	1	7
東陽中学校	1					1	1	1	1			3	2	1	1			4
武生第一中学校		1		1		2	1	3	2	4	1	11	1	4	2	5	1	13
武生第二中学校		1				1	1	1		2		4	1	2		2		5
武生第三中学校		1	1	1		3		2			1	3		3	1	1	1	6
武生第六中学校				1		1	1					1	1			1		2
万葉中学校	1				2	3	2	2	1			5	3	2	1		2	8
武生第五中学校	1					1					1	1	1				1	2
南越中学校		2	2	2		6		2	4	1	1	8		4	6	3	1	14
池田中学校				1		1					2	2				1	2	3
南条中学校			1	1		2	2					2	2		1	1		4
今庄中学校			1		1	2			1			1			2		1	3
河野中学校							1					1	1					1
朝日中学校			1			1									1			1
糸生中学校				1		1										1		1
宮崎中学校				1		1		2				2		2		1		3
織田中学校	1					1							1					1

平成21年度入学者選抜中学校別合格者数等一覧

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
気比中学校		1				1				1		1		1		1		2
松陵中学校										1	1	2				1	1	2
美浜中学校		1			1	2								1			1	2
三方中学校		1				1								1				1
福井県小計	15	14	14	14	14	71	19	23	23	23	22	110	34	37	37	37	36	181
北大路中学校		1				1								1				1
彦根東中学校							1				1	2	1				1	2
彦根南中学校					1	1											1	1
虎姫中学校			1			1									1			1
八幡中学校										1		1				1		1
朝桜中学校			1			1									1			1
中主中学校		1				1								1				1
甲西北中学校		1				1	1					1	1	1				2
双葉中学校											1	1					1	1
西浅井中学校	1					1							1					1
高島中学校	1					1							1					1
湖西中学校			1			1									1			1
比叡山中学校							1					1	1					1
滋賀県小計	2	3	3	0	1	9	3	0	0	1	2	6	5	3	3	1	3	15
クアラルンプール日本人学校										1		1				1		1
その他小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
合　　計	17	17	17	15	15	81	23	23	23	25	25	119	40	40	40	40	40	200
男	17	15	15	5	8	60	23	22	21	21	22	109	40	37	36	26	30	169
女	0	2	2	10	7	21	0	1	2	4	3	10	0	3	4	14	10	31

Ⅴ．　進路指導関係

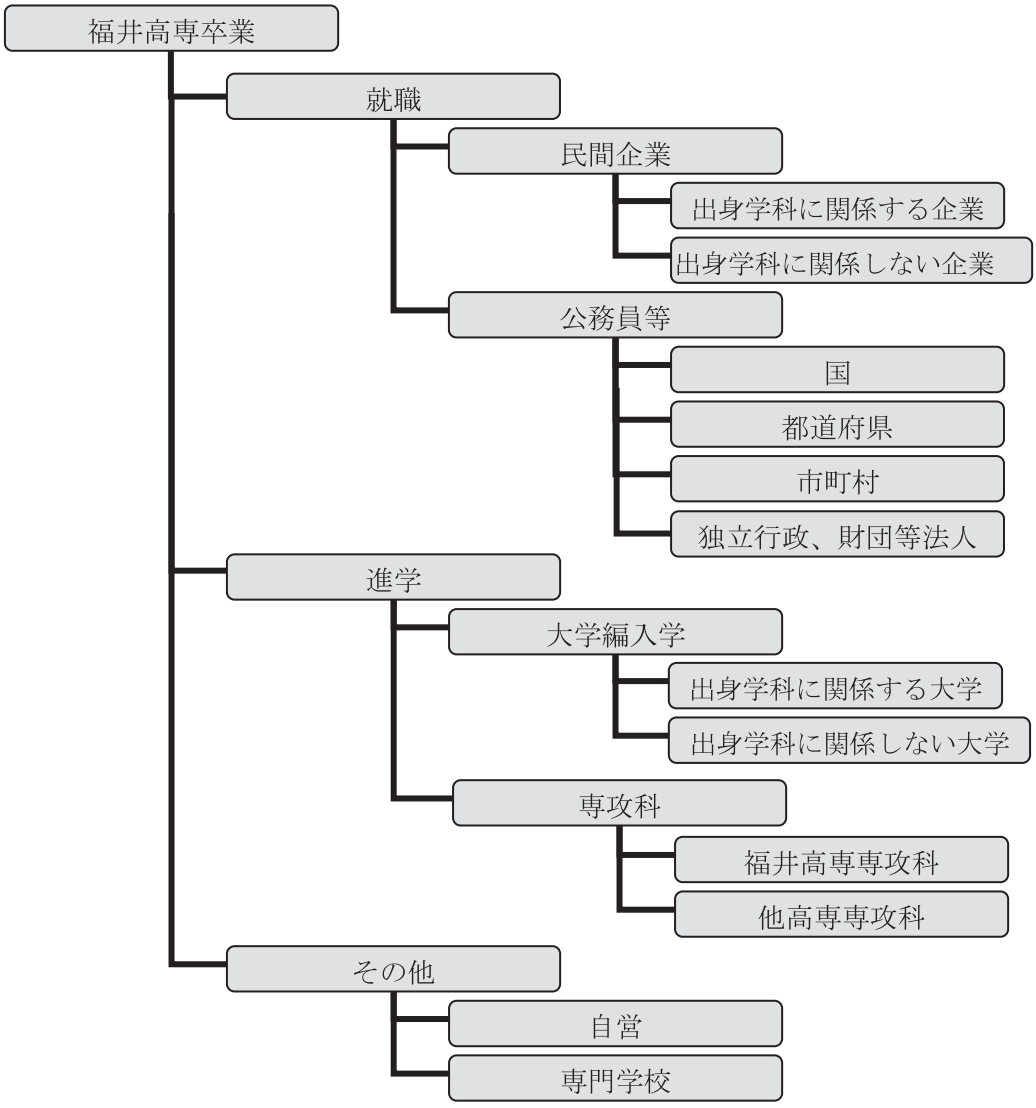
１．　基本方針

高等専門学校は設置以来、卒業生の産業界での活躍もあり、求人倍率が高倍率を続けてきた。また、高学歴社会を望む社会の風潮から大学編入を求める時期もあったが、近年は価値観の多様化によって学生は就職、大学編入、専門学校などへと幅広い選択をするようになって来た。本校では、将来技術者として活躍を期待される学生の重要な決定事項である進路について、進路指導委員会と各学科が綿密な連絡をとりながら学生の指導に当たっている。

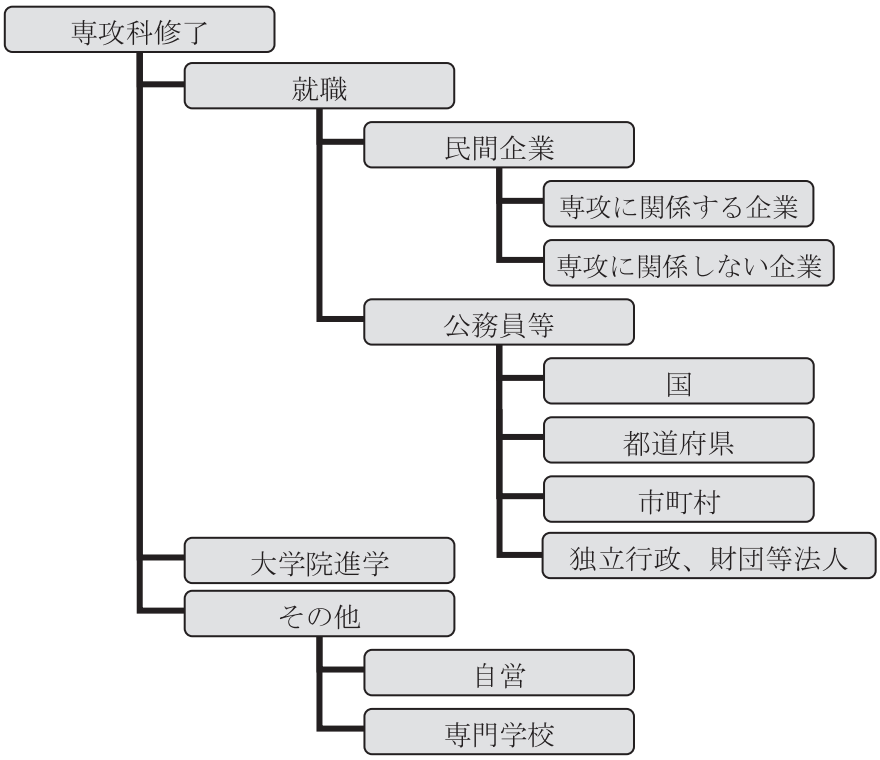
２．　本校卒業後・修了後の進路

本科生および専攻科生の進路を下図に示す。

（本科生の場合）



（専攻科生の場合）



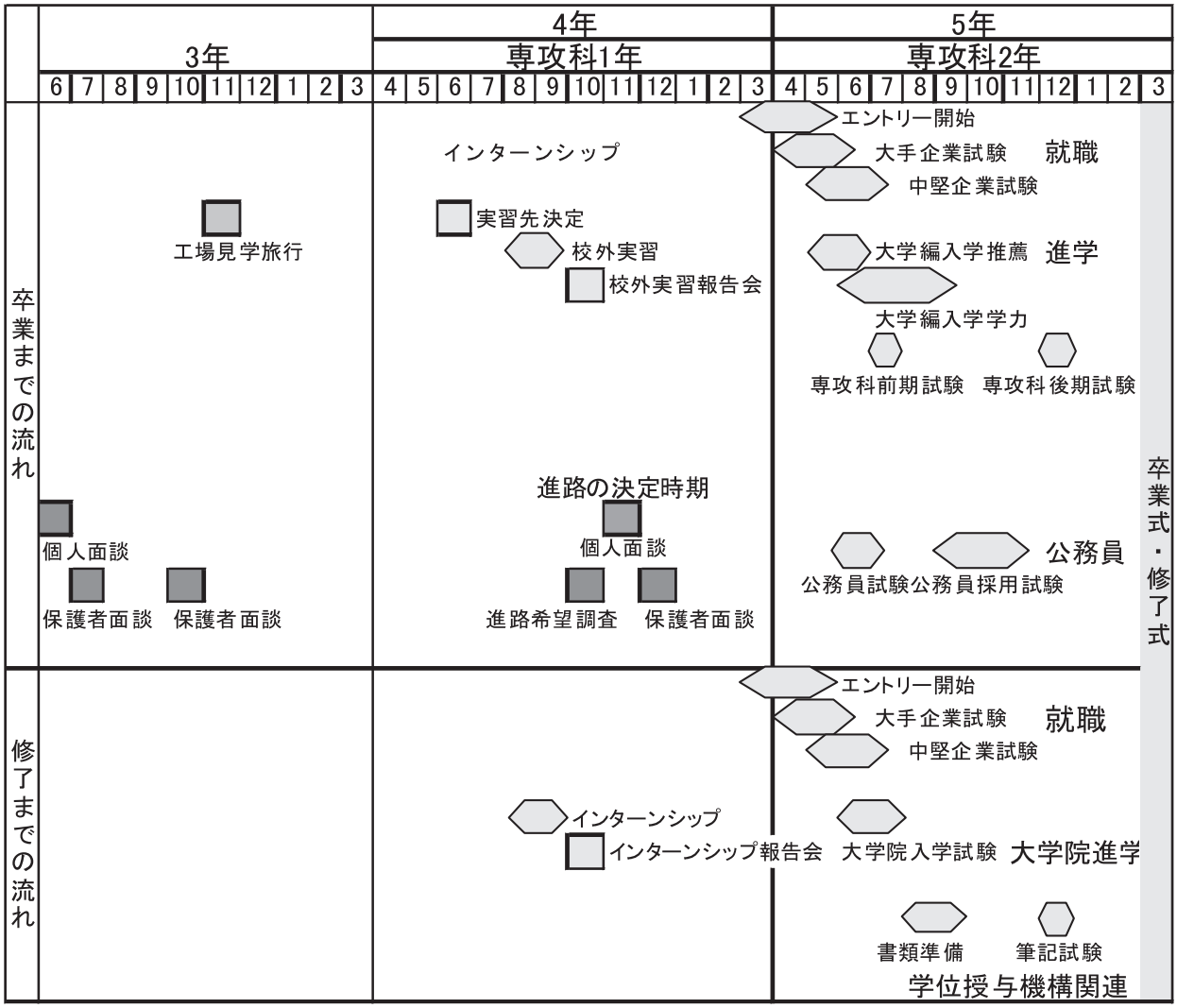
最近は専攻科の設置や大学の編入生受け入れ数の増加などによって、進学を希望する学生数が増える傾向にある。平成２１年度卒業予定の本科生の場合、就職者と進学者の比率はおよそ５０：５０である。また、雇用情勢の悪化にも係わらず、就職を希望する学生に対する求人倍率は本科については約２２倍、専攻科については約２９倍を確保しており、平成２１年１２月末現在、進学予定者を含めた進路内定率は約９７％となっている。なお価値観の多様化によって、出身学科にそれほど関係しない企業や大学へ進むことを希望する学生もいる。

３．　進路決定の流れ

就職に関しては、本科４年、専攻科１年の３月には全国規模の大手企業の就職活動が始まる。環境系では、公務員試験を受ける学生も多いが、専攻科２年で受検できる公務員試験は、国家Ⅰ種、国家Ⅱ種、福井県Ⅰ種、市町村などである。本科５年で受検できるものは、国家Ⅱ種、国家Ⅲ種、福井県Ⅱ種、市町村などである。また消防官、警察官や防衛省、気象庁、海上保安庁などの職員採用試験がある他、独立行政法人や財団法人と呼ばれる公務員に準じた進路もある。

進学に関しては、本科では５月下旬頃から推薦選抜による編入学試験が、また６月からは学力選抜による編入学試験が始まる。専攻科生に対する大学院の入試は、６月頃から始まる。

以上のような就職・進学について、学生に対してタイムテーブルで示したものが下表である。



４．　進学・就職先一覧

（平成２０年度）

機械工学科		電気工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		専攻科	生産システム	環境システム
進　学（17名）		進　学（13名）		進　学（16名）		進　学（15名）		進　学（14名）		進　学（8名）	(5)	(3)
福井工業高等専門学校専攻科	4	福井工業高等専門学校専攻科	6	福井工業高等専門学校専攻科	4	福井工業高等専門学校専攻科	6	福井工業高等専門学校専攻科	10	東京大学大学院		1
東京工業高等専門学校専攻科	1	長岡技術科学大学	1	筑波大学	1	東京工業大学	1	金沢大学	1	金沢大学大学院	3	
秋田大学	1	金沢大学	2	金沢大学	2	長岡技術科学大学	4	岐阜大学	2	北陸先端科学技術大学院大学		1
長岡技術科学大学	1	福井大学	1	福井大学	2	福井大学	2	広島大学	1	名古屋大学大学院	1	
金沢大学	2	豊橋技術科学大学	2	名古屋大学	1	豊橋技術科学大学	2			奈良先端科学技術大学院大学	1	1
福井大学	2	大阪工業大学	1	豊橋技術科学大学	2							
岐阜大学	1			京都大学	1							
豊橋技術科学大学	4			京都工芸繊維大学	1							
立命館大学	1			日本大学	1							
				神戸芸術工科大学	1							
就　職（17名）		就　職（23名）		就　職（15名）		就　職（21名）		就　職（25名）		就　職（19名）	(11)	(8)
●県　内＜9名＞		●県　内＜4名＞		●県　内＜4名＞		●県　内＜10名＞		●県　内＜12名＞		●県　内＜12名＞		
㈱エイチアンドエフ	1	㈱福井村田製作所	1	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱鯖江製品ディビジョン	2	大野市消防本部	1	㈱クォード・コーポレーション	1	㈱田中化学研究所	1	
鯖江精機㈱	1	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱福井製品ディビジョン		㈱福穂栄商事	1	㈱金津村田製作所	1	㈱構造設計研究所	1	㈲テクノフクイ	1	
㈱鯖江村田製作所	1	㈱リコー　福井事業所	1	㈱リコー福井事業所	1	共同コンピュータ㈱福井営業所	1	酒井設備㈱	1	日華化学㈱		1
セーレン㈱	1	自営	1			清川メッキ工業㈱	2	㈱サンワコン	1	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱鯖江製品ディビジョン	1	1
東工シャッター㈱	1					信越化学工業㈱武生工場	1	㈱青武コンサルタント	1	福井市役所		2
㈱福井村田製作所	1					新道繊維工業㈱	1	紫光産業㈱	1	フクビ化学工業㈱		1
パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱鯖江製品ディビジョン	2					KBセーレン㈱	1	中央測量設計㈱	1	㈱ミツヤ	1	
盟友技研㈱	1					㈱鯖江村田製作所	1	福井市農業協同組合	1	㈱ミルコン		1
						パナソニック エレクトロニックデバイス ジャパン㈱鯖鯖ディビジョン	1	福井市役所	1	㈱メディカルジャパン	1	
								福井県庁	1	自営		1
								福井県警察	1			
								ポリマー化成㈱	1			
●県　外＜8名＞		●県　外＜19名＞		●県　外＜11名＞		●県　外＜11名＞		●県　外＜13名＞		●県　外＜7名＞		
小島プレス工業㈱	1	関西電力㈱	1	エーアイテクノロジー㈱	1	花王㈱	1	㈱エステック	1	㈱オプティム	1	
京セラ㈱滋賀蒲生工場	1	ｷｬﾉﾝｼｽﾃﾑﾏﾝﾄﾞｻﾎﾟｰﾄ㈱	1	ＮＥＣネッツエスアイエンジニアリング㈱	1	京セラ㈱滋賀蒲生工場	1	社団法人システム科学研究所	1	㈱管理工学研究所	1	
㈱JAL航空機整備成田	1	京セラ㈱滋賀蒲生工場	1	㈱ＮＴＴネオメイト	1	京セラSLCテクノロジー㈱	1	㈱CTIウイング	1	㈱建設技術研究所		1
日本ビソー㈱	1	独立行政法人　国立印刷局	1	大阪ガス㈱	1	中外製薬工業㈱	1	大鉄工業㈱	1	サイバーステップ㈱	1	
本田技研工業㈱	1	ソニーイーエムシーエス㈱美濃加茂テック	1	大阪シーリング印刷㈱	1	日東電工㈱滋賀事業所	1	中部電力㈱	1	㈱高木製作所	1	
三菱重工業㈱名古屋航空宇宙システム製作所	1	住友電設㈱	1	京セラ㈱滋賀蒲生工場	1	日東電工㈱豊橋事業所	1	㈱テクモ	1	ソニーイーエムシーエス㈱　湖西テック	1	
三菱レイヨン㈱	1	中部電力㈱	2	向洋電機㈱	1	(財)　日本繊維製品品質技術センター	2	東海旅客鉄道㈱	1	北陸電気工事㈱	1	
㈱吉野工業所	1	㈱豊田中央研究所	1	ソニーエンジニアリング㈱	1	日本ユニカー㈱	1	西日本旅客鉄道㈱	1			
		㈱日新システムズ	1	㈱日新システムズ	1	三菱化学㈱四日市事業所	1	㈱日水コン	1			
		日新電機㈱	1	フジテック㈱	1	ユニチカ㈱	1	㈱NIPPOコーポレーション	1	その他（１名）		
		西日本旅客鉄道㈱	1	三菱電機インフォメーションテクノロジー㈱	1			富士通㈱	1	LEC東京リーガルマインド京都駅前本校		1
		日本原子力発電㈱	1					フジテック㈱	1			
		財団法人北陸電気保安協会	1	その他（1名）				三菱地所藤和コミュニティ㈱	1			
		北陸電力㈱	2	大阪コミュニケーションアート専門学校	1							
		三菱電機㈱神戸製作所	1					その他（2名）				
		三菱電機ビルテクノサービス㈱	1					福井工業高等専門学校研究生（予定）	2			
		㈱村田製作所野洲事業所	1									

（平成２１年度）

平成２１年１２月末日現在

機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		専攻科	生産システム	環境システム
進　学（13名）		進　学（16名）		進　学（18名）		進　学（20名）		進　学（16名）		進　学（13名）	(8)	(5)
福井工業高等専門学校専攻科	4	福井工業高等専門学校専攻科	7	福井工業高等専門学校専攻科	3	福井工業高等専門学校専攻科	7	福井工業高等専門学校専攻科	6	金沢大学大学院	3	2
東京大学	1	長岡技術科学大学	6	筑波大学	2	筑波大学	2	長岡技術科学大学	2	北陸先端科学技術大学院大学	1	2
筑波大学	1	富山大学	1	お茶の水女子女子大学	1	長岡技術科学大学	3	信州大学	1	福井大学大学院	1	
金沢大学	1	豊橋技術科学大学	1	茨城大学	1	福井大学	1	金沢大学	1	豊橋技術科学大学大学院	1	1
福井大学	2	静岡大学	1	金沢大学	3	豊橋技術科学大学	3	福井大学	5	奈良先端科学技術大学院大学	2	
豊橋技術科学大学	4			福井大学	1	広島大学	1	豊橋技術科学大学	2			
				豊橋技術科学大学	2	徳島文理大学	1	岐阜大学	1			
				岐阜大学	1			滋賀県立大学	1			
				神戸大学	1							
				和歌山大学	2							
				九州大学	1							
就　職（17名）		就　職（20名）		就　職（12名）		就　職（12名）		就　職（18名）		就　職（17名）	(8)	(9)
●県　内＜7名＞		●県　内＜7名＞		●県　内＜6名＞		●県　内＜6名＞		●県　内＜10名＞		●県　内＜7名＞	(3)	(4)
㈱アタゴ	1	㈱サカイエルコム	1	㈱サイエンスクラフト	1	ウラセ㈱	1	㈱キミコン	1	オリオン電機㈱	2	
㈱コパード	1	酒井化学工業㈱	1	㈱サカイエルコム	1	㈱カズマ	1	㈱構造設計研究所	1	小林化工㈱		1
㈱三和商会	1	タイヨー電子㈱	1	㈱サンワコン	1	酒井化学工業㈱	1	坂井市役所	1	セキサンピーシー㈱		1
社会福祉法人光道園	1	高嶋技研㈱	1	パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱鯖鯖ディビジョン	1	東京セロレペール㈱	1	坂川建設㈱	1	㈱田中化学研究所		1
信越化学工業㈱	1	パナソニック エレクトロニックデバイス ジャパン㈱鯖鯖ディビジョン	1	㈱メディカルジャパン	2	パナソニック エレクトロニックデバイス ジャパン㈱鯖鯖ディビジョン	1	鯖江市役所	1	㈱ナチュラルスタイル	1	
東工シャッター㈱	1	福井三菱電機機器販売㈱	1			森永北陸乳業㈱	1	㈱関組	1	㈱辻広組		1
㈱ミテック	1	森永北陸乳業㈱	1					㈱辻広組	1			
								㈱福岡	1			
								ホクコンマテリアル㈱	1			
								西田建設㈱	1			
●県　外＜10名＞		●県　外＜13名＞		●県　外＜6名＞		●県　外＜6名＞		●県　外＜8名＞		●県　外＜10名＞	(5)	(5)
小島プレス工業㈱	1	㈱アトックス	1	アドソル日進㈱	1	旭化成㈱	1	NTTインフラネット㈱	1	オムロン㈱	1	
㈱カワムラサイクル	1	㈱柿本商会	1	㈱NHKメディアテクノロジー	1	川研ファインケミカル㈱	1	京都市役所	1	㈱柿本商会		1
京セラ㈱滋賀蒲生工場	1	関西電力㈱	1	京セラコミュニケーションシステム㈱	1	関西電力㈱	1	㈱桑原	1	㈱極東技工コンサルタント		1
大同工業㈱	1	㈱きんでん	1	日新電機㈱	1	東洋製罐㈱	1	中部電力㈱	1	㈱原子力エンジニアリング	1	
東日本旅客鉄道㈱	1	㈱ダイヘン	1	日本車輌製造㈱	1	㈱日本触媒	1	東海旅客鉄道㈱	1	塩野フィネス㈱		1
㈱フォーラムエンジニアリング	1	中部電力㈱	1	㈱プログラミングファスト	1	日本ユニカー㈱	1	富士通㈱	1	スガイ化学工業㈱		1
兵神装備㈱	1	㈱豊田自動織機	1					独立行政法人水資源機構	1	大鉄工業㈱		1
三菱重工業㈱長崎造船所	1	日本原子力発電㈱	1					㈱森本組	1	東京電力㈱	1	
㈱森精機製作所	1	日本車輌製造㈱	1							北陸通信工業㈱	1	
㈱吉野工業所	1	㈱フジクラ	1							㈱リクルートスタッフィング	1	
		北陸電力㈱	1									
		㈱リコー	1									
		リコーテクノシステムズ㈱	1			その他（１名）						
						大阪ｽｸｰﾙｵﾌﾞﾐｭｰｼﾞｯｸ専門学校	1					

Ⅵ.　学生指導関係

１．　基本方針

学生指導に関した高専の教育システムで最も重要なのは、信頼関係の中で学生の個性を尊重しつつ実社会に適した知育および徳育を教授することであり、その重要な柱として担任制度が設けられている。本科の５年間は高校１年から大学２年までの幅広い年齢に相当するが、高い目標を持った、一貫した教育・指導という観点で、入学時から学生と呼び、早期から自立した責任ある行動をとるよう指導している。そのため入学当初の学齢では通常の高校と比較するとやや緩やかな学則ではあるが、同時に２０才の卒業時点まで担任制度によるきめ細やかなサポートを行い、社会的責任を自覚した卒業生を育てる努力をしている。この高専独自の５年一貫の担任制度による指導体制は、高専卒業生が社会から高い評価を受けている大きな理由の一つであり、今後も継続して実施していくことが重要であると考える。

担任の業務は多岐にわたっており、例えば、学生生活全般の指導（友人関係、生活行動の把握（欠課，欠席の点検）、各種届け出指導等）、学業成績・悩み等についての個別相談･指導、さらに学年に応じた学校行事の指導・企画・引率等あげられる。行事としての具体例は、遠足・体育祭・高専祭・弁論大会（１～５年）、特別活動（１～３年）、オリエンテーション（１年）、校外研修（２年）、工場見学旅行（３年）、インターンシップ（４年）、卒業研究発表会（５年）などが挙げられる。

また、全学年で保護者懇談会を実施して過程との意思疎通をはかり、特に高学年では進路（就職と進学）指導を進路指導室と連携しながら丁寧に行っている。

クラス担任は、本校では、１、２年を一般科目教室教員、３～５年を各専門学科の教員が担当し、担任補佐（３年のみ一般科目教室教員）が支援する形式をとっている。しかし、従前はシステム上学科単位で運営されることが多く、各学年の横の連携が弱いことが指摘されていた。そこで平成１６年度に、進路指導を強化する目的で高学年に、続く平成１７年度に１年で開始された混合学級への対応として全学年に学年主任制度導入を検討している。

次に、多感な青年期にあたる学生の人格形成に大きな影響を与えるのが課外活動である。本校の教育方針の中に、「健康の増進につとめ、肉体的・精神的に強じんな耐久力を育成する」とうたっており、技術者として健康的に活動し、また、協調性やコミュニケーション能力を育成するためにも課外活動は重要な位置を占めるものと考えられ、その活性化策を検討していく必要がある。そもそも高専制度には、高校から大学への受験戦争がなく、５年間のびのびと課外活動に打ち込めるという利点があり、これを生かした体験型の学習体制づくりが肝要であるが、本校では体育系・文化系において多数のクラブが活発に活動している。本年度においては、テニス、サッカークラブが全国高専大会でそれぞれ優勝、準優勝を獲得し、英語のスピーチコンテストでも１年生が準優勝の栄誉をいただいた。

また、本校には学生全員によって構成される学生会があり、学生会役員が中心となり、体育祭、高専祭、弁論大会、壮行会、クラブ紹介等の学校行事やクリーン大作戦、献血等のボランティア活動などを自主的に企画・運営している。ここでは学生会役員会およびクラブ予算の決定を行う学生総会等が運営機関として設けられ、広報活動としての学生会誌の発行も行っている。学生会の活動に参加することにより、協調性、自主性、リーダーシップや企画力などが育成されることから、クラブ活動と同様に学生会活動も継続して支援していく必要がある。

さらに，本校では、実際に体を動かして経験の中から生きた知識を習得する「体験型ものづくり教育」を推進し、これらに関連するコンテストへの参加を積極的に奨励している。全高専が参加し、全国大会が催されるロボットコンテスト（ロボコン）、プログラミングコンテスト（プロコン）、デザインコンペティション（デザコン）の他に、 Robo-ONE、パソコン甲子園、ふくいソフトコンペ等の大会に参加している。特に、ロボコンは過去２回ロボコン大賞を受賞、本年も地区大会で活躍し、１０年連続で全国大会に出場するなど成果を上げている。これを支援するために、平成１８年４月に夢づくり工房（ドリームラボ）という名称のものづくり多目的スペースを実習工場内に新設し、ロボット製作に適した作業環境を整備している。

また、平成１６年度から独立行政法人化されたことにより開始された中期計画において、以下の項目にも力点を置いた取り組みを開始している。

(1)　課外活動の安全管理の強化
- クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの作成
- 危険箇所調査と安全面を重視した施設環境の整備
- クラブ活動の安全管理に関する講習会実施

(2)　メンタルヘルス関連への対応強化
- 全学生対象のメンタルヘルス関連アンケートの実施
- 全教職員対象のメンタルヘルス・関連ＦＤの実施および報告書作成

(3)　ボランティア活動の奨励
- 学生会が主体となったクリーン大作戦の実施
- 福井県ボランティア体験事業への参加（サイエンス夢ボランティア）
- 福井豪雨ボランティア等安全が確保されている緊急支援
- 出前講座などへの講師としての積極参加

加えて、平成１９年度から本校地域連携テクノセンター内に設置されたアントレプレナーサポートセンターを活用し、本校で習得した知識や技術、アイディアを経済社会の中で生かすための教育（起業家育成教育）を始めた。この取り組みは、平成１９年度の文部科学省現代ＧＰにも選ばれ注目されているところであるが、これからの学生にとって、前述の「ものづくり教育」と一体となり貴重な経験をすることが出来るように努力を行っている。

学生達の健康を護り、学習機会を保証するために、平成 20 年度より 22 年度いっぱい、麻疹の対策を徹底して実施している。その結果、現在組織としての麻疹耐性率(十分量の抗体を持つか，あるいはワクチンを接種したもの)が学生・教職員を含めた学校組織として９５％を越え、疫学的に麻疹の連鎖感染リスクを払拭できたことは大きいと考えられる。加えて本年度は新型インフルエンザに苦しめられたが、発生初期より対策本部を立ち上げ、健康観察の為のショートホームルーム制定、インフルエンザへの理解を深めるための講演会実施（全学年）、各教室に体温計と消毒薬を配布、並びに啓蒙のためのポスター設置、などの対策を講じて蔓延防止の為に積極的な対策を行った。

以上のように、担任制度の充実を図り、クラブ活動・学生会活動・ものづくり関連コンテスト等の課外活動を奨励し、健康管理・安全管理およびメンタルヘルス関連の強化やボランティア活動への新たな取り組みを開始することにより、５年一貫教育の利点を生かした人格形成の人間教育を実践している。

２．　学生の活動状況

(1)　新入生オリエンテーション合宿
　平成２１年４月１５日（水）・１６日（木）　　奥越高原青少年自然の家で実施

(2)　新入生歓迎会・クラブ紹介
　平成２１年４月１７日（金）

(3)　第４５回体育祭
　平成２１年４月３０日（木）

(4)　学生総会
　平成２１年５月１３日（水）

(5)　舞鶴高専交歓試合
　平成２１年５月１６日（土）　福井高専・舞鶴高専で開催

(6)　平成２１年度福井県高等学校春季総合体育大会
　平成２１年５月３０日（土）～６月２１日（日）県内各地で開催
　陸上、水泳、バスケットボール、バレーボール、卓球、ハンドボール、サッカー、バドミントン、柔道、剣道、テニス、軟式野球が参加

(7)　壮行会
　平成２１年６月２４日（水）

(8)　第４４回北陸地区高等専門学校体育大会　　富山高専が担当で開催
　平成２１年６月２７日（土）ラグビー　　平成２１年７月４日（土）野球
　平成２１年７月１１日（土）・７月１２日（日）　本大会
　成績　本校総合第４位
　団体　男子テニス、男女卓球が優勝
　　女子バレーボール、女子ソフトテニス、野球が準優勝
　個人　陸上（男子走高跳）、テニス（男子個人シングルス、男子個人ダブルス）、水泳（男子２００ｍ自由形、男子２００ｍバタフライ）が優勝

(9)　第４２回全国高等専門学校サッカー選手権北信越大会
　平成２１年７月１８日（土）・１９日（日）　　長野高専が担当で開催
　成績　優　勝

(10)　救急救命法の講習会
　平成２１年８月　７日（金）日赤病院の看護師３名による講演及び実習
　体育系クラブ学生２６名、教職員２０名参加

(11)　第４４回全国高等専門学校体育大会
　陸上競技　平成２１年８月１８日（火）～１９日(水)　　都城高専が担当で開催
　　成績　走高跳　３位
　サッカー　平成２１年８月２２日（土）～２５日（火）　　八代高専が担当で開催
　　成績　準優勝
　テニス　　平成２１年８月２６日（水）～２８日（金）　　有明高専が担当で開催
　　成績　男子団体　優勝　　男子シングルス　準優勝　男子ダブルス　３位
　卓　　球　平成２１年８月２３日（日）～２４日（月）　　大分高専が担当で開催

水　　泳　平成２１年８月２３日（日）　　都城高専が担当で開催

(12)　第１６回全国高等専門学校将棋大会
　平成２１年８月２４日（月）～２６日（水）　　豊田高専が担当で開催
(13)　アイデア対決ロボットコンテスト　２００９東海・北陸地区大会
　平成２１年１０月１１日（日）　　石川高専が担当で開催
　競技課題は「ダンシングカップル」
　本校Ａチーム「ヤチマタ」　優勝（全国大会出場決定）
　本校Ｂチーム「フクリュウ親子」
(14)　第６回クリーン大作戦
　平成２１年１０月１４日（水）　　ＪＲ鯖江駅～高専までの通学路の清掃奉仕活動
(15)　第２０回プログラミングコンテスト全国大会
　平成２１年１０月１７日（土）・１８日（日）　　木更津高専が担当で開催
(16)　第４５回高専祭開催
　平成２１年１０月１６日（金）～１８日（日）
　テーマ「常笑祭（じょうしょうさい）」
　サイエンスフェア、球技大会、ライブ、吹奏楽部演奏会、少林寺拳法演武会、
　合気道演武会、クラス対抗企画、カラオケ大会、水かけ祭、アマバンライブ、
　ビンゴ大会、献血　他
(17)　平成２１年度　弁論大会
　平成２１年１０月２９日（木）　５テーマで実施
(18)　全国高等専門学校デザインコンペティション２００９
　平成２１年１１月１３日（金）～１５日（日）　　豊田高専が担当で開催
(19)　アイデア対決ロボットコンテスト　２００９全国大会
　平成２１年１１月２２日（日）　　両国国技館で開催
(20)　全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト　　国立ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ記念青少年総
　平成２２年１月１６日（土）・１７日（日）　　合ｾﾝﾀｰで開催
　成績　「スピーチ部門」　２位入賞
(21)　学生総会
　平成２２年１月２７日（水）開催
(22)　学生会誌「青塔」発行
　平成２２年３月

３．　奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成２１年度）

日本学生支援機構奨学生　　（平成 21 年 5 月 1 日現在）

区　　分		貸与月額	本　　科					専攻科		合　計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
第一種奨学生		21,000 円	3	9	4					16
（本科）1･2･3年	自宅通学									
	自宅外通学	22,500 円	3	4	5					12
4年	自宅通学	45,000 円				2				2
	自宅外通学	51,000 円				3				3
5年	自宅通学	44,000 円					4			4
	自宅外通学	50,000 円					4			4
（専攻科）1年･2年	自宅通学	45,000 円							5	5
	自宅外通学	51,000 円							2	2
合　　計			6	13	9	5	8	0	7	48

その他奨学生　　（平成 21 年 5 月 1 日現在）

種　類		貸与月額	本　　科					専攻科		合　計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
福井県奨学生	自宅通学	18,000 円			2	3	1			6
	自宅外通学	23,000 円		1		1	1			3
鯖江市奨学生	自宅通学	17,000 円		1						1
	自宅外通学	20,000 円								
あしなが育英奨学金	自宅通学	25,000 円				1				1
	自宅外通学									
合　　計				2	2	5	2	0	0	11

入学料免除実施状況

区　分	免除対象額	申請者数
免除対象者	84,600 円	0

入学料徴収猶予実施状況

区　分	猶予対象額	可否(人)
徴収猶予対象者	84,600 円	5
失格者	0	1

授業料免除実施状況

区　分	免除対象額	前期(人)	後期(人)
全額免除対象者	117,300 円	55	45
半額免除対象者	58,650 円	0	19
失格者		50	28

Ⅶ.　学寮関係

１．　基本方針

学寮は遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目標で設置されている。そのために、施設、設備の充実には特に力を入れており、生活指導の面では全教員が交替で寮監として泊まり、寮生と直に触れ合うことにより教育目標を果たすよう努めている。

２．　寮生の受け入れ状況

学寮は「青武寮」と称し、収容定員は２４０名である。南寮・北寮・東寮の３棟に分かれており、東寮には女子寮が併設されている。

平成２１年度在籍寮生数

平成 21 年 12 月 1 日現在

学年／学科	１年	２年	３年	４年	５年	合　計
機 械 工 学 科	11	16	16	8	8	59
電気電子工学科	10 (2)	9	12 (3)	11 (2)	10 (1)	52 (8)
電子情報工学科	10 (1)	4 (1)	9 (2)	10	7 (1)	40 (5)
物質工学科	11 (6)	9 (2)	10 (4)	8 (5)	7 (4)	45 (21)
環境都市工学科	13 (2)	9 (2)	4 (1)	8 (3)	5 (2)	39 (10)
合計	55 (11)	47 (5)	51 (10)	45 (10)	37 (8)	235 (44)

(　)は女子で内数

Ⅷ.　学生相談室関係

１．　基本方針

学生相談は一部の特別な学生に対するものでなく、すべての学生を対象として、学生のいろいろな悩みに応えることにより、その人間的な成長を図ることを目的とし、学校教育の一環として位置づける重要なものである。

２．　学生相談室・保健室利用状況と相談分野

学生相談室は、７名の教員と非常勤のカウンセラーの８人体制で運営されている。今年度の各相談員の担当を表１に示す（実際は、指定日だけに限定はしていない）。学生相談室員は各学科よりの構成で、学習面での相談、障害学生の支援まで含めて対応できるように工夫した。また、カウンセラーによる相談員の研修会を行い、スキルアップに努めた。教職員向けには、メンタルヘルス講演会（「発達障害の理解と対応」）を開催し、理解の向上に努めた。特別支援に関して、ＷＧとしての構成員として、支援を行った。学生相談室長が、福井県特別支援教育センターの行っている、特別支援コーディネーターベーシック研修（高等学校）に参加、２月で修了する。

表１　平成 21 年度相談員の担当日時（上段前期、下段後期）

曜日	月	火	水	木	金
昼休み 12:40～13:20	岡本拓夫 岡本拓夫	前島正彦 前島正彦	吉崎保夫 新谷邦弘	教員室	新谷邦弘 吉崎保夫
放課後 16:15～17:00	小寺光雄 小寺光雄	平井恵子 平井恵子	14:00-18:00 清水　照代 カウンセラー	14:00-18:00 清水　照代 カウンセラー	青山義弘 青山義弘

表 2、表 3 に平成 20 年度の月別および学年別相談室利用者の利用者数と相談分野別の件数を示す。６月より増加傾向が、認められる。

表2　平成20年度学生相談室、学年別と月別利用者数

学年/月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	20年度
１年	1		4	7			3	3					18
２年	3	3	5				3	5	2		3	3	27
３年		2	16	15			11	6	6	4	3	1	64
４年				4			5				1		10
５年			1								1		2
専攻科１年													0
専攻科２年													0
保護者	1		2	6						2	3		14
その他(教員など)	1	2	3	2			1			2	4	4	19
合計	6	7	31	34	0	0	23	14	8	8	15	8	154

表3　平成20年度学生相談室、月別相談内容と相談件数

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	20年度
意欲	3	3	4	9			4	1	2	3	3	1	33
友人		1	1	5			2	4	3	1	5		22
家庭		2	1	2				1		3			9
生活			8	4			4	8	1			4	29
学習			4	2					1		1		8
将来							7		1				8
その他(学生等)	2	1	5	4			1				6	3	22
合計	5	7	23	26	0	0	18	14	8	7	15	8	131

次に、保健室の平成 20 年度利用状況について表 4、5 に示す。看護師（1 名）にはフィジカルな対応以外にメンタル面における対応もお願いしている（インテーカーとしての対応も含む)。表 4 は保健室の学年別、5 は相談分野別の利用者数である。

表 4

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	20 年度
１年	19	29	44	17	1	6	42	21	10	11	8	5	213
２年	22	23	25	37	2	5	24	24	20	17	13	5	217
３年	27	36	35	27	2	13	36	22	21	46	23	6	294
４年	25	30	42	38	1	8	28	24	16	18	24	9	263
５年	11	11	5	8	3	2	15	15	8	14	2	3	97
専攻科１年	1	5	3	0	0	0	3	4	2	0	1	0	19
専攻科２年	0	2	5	1	0	0	5	1	2	0	0	0	16
保護者	0	1	1	0	2	0	0	1	0	1	0	2	8
その他	19	19	13	13	14	13	22	22	34	17	37	38	261
	124	156	173	141	25	47	175	134	113	124	108	68	1,388
													1,388

その他・・・オープンカレッジ・職員・卒業生・退学者の利用等

表 5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	20 年度
いじめ													0
不登校	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
人間関係	10	4	10	2	0	4	7	4	3	1	2	0	47
学習	6	1	3	1	0	4	1	4	2	0	0	0	22
進路	1	1	1	0	0	0	1	7	3	0	0	3	17
暴力	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フィジカル	81	117	131	116	19	26	133	83	77	79	60	27	949
メンタル	22	33	27	22	6	13	33	36	28	44	46	38	348
合計	124	156	173	141	25	47	175	134	113	124	108	68	1388

Ⅸ.　図書館関係

１．　基本方針

本校の図書館は、低学年の学生の教育を始めとして、高学年の学生や専攻科生及び教職員の研究補助、更には、地域住民への貢献等を目的として運営されている。図書館は閲覧室と事務室及び１、２階の書庫とから成り、約４００m^{2}の閲覧室には、１００席の閲覧室と約３万冊収容の開架書架が設置されている。閲覧室と同フロアーの２階書庫は常時開扉されていて、開架書架同様の利用が可能になっている。インターネットを利用した学外からの蔵書検索も可能で、学外者の借り出しもできるようになっている。

２．　活動状況

(1) 教育支援

学生の教育面では、専門分野の蔵書の充実を図るとともに、図鑑や美術文庫、或いは高校校長会の推薦図書等といった、一般的な教養書の購入にも努めている。また、「教科書コーナー」や、もの作りや実験のノウハウを簡単に解説した「もの作りコーナー」、「定期試験の過去問題コーナー」、「資格試験コーナー」等を設けて、学生の学習の便宜に資している。或いはまた、簡単な英語で書かれた科学技術の入門書を備えて、英語に対する学生の関心を高めるとともに、英語力の向上を目指している。

購入する図書に関しては、各学科の教員の推薦によって決めるとともに、学生図書委員による年何回かのブックハンティングによって５００冊前後の本を購入する等、学生の意見や嗜好を取り込む工夫をしている。また、国語科の協力を得て、学生と教職員からなる「校友会誌編集部会」による校友会誌「青樹」を毎年発行しており、現在までに４１号を発行している。

(2) 研究支援

研究面では、長岡技術科学大学と高専によるコンソーシアムに参加することで、SD、ACS、AIP/APSの約２，０００タイトルの電子ジャーナル及びMathSciNet、JDreamⅡの文献データベースを利用できるようにして研究者への研究支援体制を整えている。

(3) 地域貢献

地域貢献については、平日は午前８時３０分から午後８時まで、土曜日は午前９時から４時３０分まで開館して、地域住民の利用に資するとともに、必要文献の貸出しにも応じている。

平成２０年度より福井県内図書館横断検索システムに参入して、県内主要図書館の蔵書の一括検索と物流システムの活用による蔵書の貸借が可能になり、また、福井県地域共同リポジトリに参加して、本校研究者の学術成果をインターネットを介して公開することで、地域に対する説明責任を果たしている。

以下、平成２０年度末の蔵書構成を表１に、利用状況を表２に示す。

表１　平成２０年度末の蔵書構成

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	6,835	2,802	5,075	5,289	15,883	18,406	805	3,128	3,692	10,214	72,129
洋書	469	357	201	242	3,867	1,549	11	55	1,315	919	8,985
合計	7,304	3,159	5,276	5,531	19,750	19,955	816	3,183	5,007	11,133	81,114
比率(%)	9.0	3.9	6.5	6.8	24.3	24.6	1.0	3.9	6.2	13.7	100.0

この他に、教育後援会文庫が 10,089 冊あるので、蔵書の総計は 91,203 冊になる。

.

表２　平成２０年度の月別利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数/日	貸出冊数/日	貸出者数/日
4	23	4,346	953	516	189.0	41.4	22.4
5	24	5,708	711	344	237.8	29.6	14.3
6	25	4,925	838	407	197.0	33.5	16.3
7	26	6,758	884	415	259.9	34.0	16.0
8	12	709	198	85	59.1	16.5	7.1
9	20	1,075	236	103	53.8	11.8	5.2
10	24	4,180	883	398	174.2	36.8	16.6
11	23	4,650	619	322	202.2	26.9	14.0
12	21	4,286	757	385	204.1	36.0	18.3
1	22	3,710	700	343	168.6	31.8	15.6
2	22	5,005	532	268	227.5	24.2	12.2
3	19	1,910	223	107	100.5	11.7	5.6
計	261	47,262	7,534	3,693	181.1	28.9	14.1

この他に、DVD などの視聴覚資料の利用者が年間 281 人

Ｘ．創造教育開発センター

１．　創造教育開発センター設立の経緯と業務

本センターは、FD 委員会、教育改善委員会等の役割を統合し新たな位置づけを持って 2007 年度（H19 年度）に発足したセンターである。本センターの主な業務内容としては、(1) 教育改善のための FD 活動 の推進、(2) e-Learning などのメディア活用教育の調査と研究、(3) カリキュラムの調査と情報集積を挙げている。設立後毎年センターの報告書を刊行している。

２．　20 年度の活動

高専設置基準の改正により組織的な FD 活動の義務化がなされたのが今年度であり、センター発足 2 年目として年間計画をたてて対応をしてきた。主な活動としては、公開授業や授業アンケートを昨年度に引き続き実施し、秋には田中毎実氏を招いて講演会を開催することができた。以下センターの主要な取り組みについて概観しておく。（詳細は報告書参照してください。）

(1) 授業アンケート

授業アンケートに関して今年度いくつか新たな取り組みと扱いの変更を行なった。1 つは、前年度（平成 19 年度）の授業アンケートはあまりにも膨大であったので、印刷製本の形をとらずに、各クラス部のみをプリントアウトして簡易ファイルにしたものをクラスに 1 冊ずつ配布した。アンケート全体は数センチの厚さとなるが保存資料用として 1 部のみ作成した。今後は今回のような形での資料の配布とネット上での学内向けの公開という形が合理的であろう。2 つめは、教員への FD アンケートとしてこの「学生による授業アンケート」について訊ねた。本校の FD 活動の歴史と内包する諸問題について重要な指摘があった。授業アンケートについての見方考え方取り方について整理していくことが今後求められている。3 つめは、授業アンケートの活用として「授業アンケートワークショップ」を開催したことである。他高専の実施状況調査結果の報告と「私の授業」というテーマでの授業実践報告とを行い意見交換を実施した。

(2) 卒業生等、就職先等へのアンケート

今年度「卒業生・修了生アンケート」「就職先企業・進学先大学等へのアンケート」を行なった。これらのアンケートは数年に 1 回実施するもので、今回は卒業生・修了生へのアンケート用紙の郵送には進和会の協力を得た。また、郵送とともにネットでのアンケートも実施した。結果と総評は報告書にまとめたが、3 年前に実施した状況と同様の傾向で好意的で良い評価を得ている。

(3) 大学連携事業

今年度後半の大きな活動として、8 月に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」に関わる諸取り組みがある。この連携事業には、福井県立大学、福井工業大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井高専の 5 大学・短大・高専が参加をしている。平成 21 年度からは仁愛大学も加わり 6 高等教育機関となる。この連携事業では FD 活動の協同推進が事業の 4 つの柱（連携基盤、学生の学習コミュニティ形成、地域と連携した学習コミュニティの形成、相互研修型 FD 活動の推進）の 1 つとなっている。秋以降のセンター活動のかなりの部分がこの連携事業の推

進に宛てられている。各部門で本センターの委員が参加し積極的に貢献している。連携事業の効果として福井県内の他教育機関での FD 活動の経験や課題が本校の場合と比較でき、よく似た困難さを抱えていることがよくわかり互いに協力できることも明らかになってきた。

(4) e-Learning の推進

今年度は、実際に利用し始めているセンター員を講師として 「moodle 講習会」を自前で開催することができた。また、連携事業の補助も受けて、新たな moodle サーバーを設置することができた。このサーバーでは事前に全学生・専攻科生を各学科・クラス毎にユーザーとして登録し、クラス単位の授業を簡単に利用できるようになった。

(5) 公開授業

前期中間考査終了後に公開授業週間を設定した。参加者は昨年度と比較して減少した。参観後感想をメール等で授業担当者とセンターに送る形式で実施している。参観者の感想はどれも良好であった。また、従来実施してきた各学科毎年 2 名ずつの公開授業については人数を毎年 1 名に変更した。これを公開授業期間に実施する場合もあった。公開授業あるいは公開授業週間の実施により、多くの教員が参観したり参観されたりする形が普通になってきた。

(6) その他

前年度までのセンターの課題とされていたものについて、いくつか整理し不要なものについては活動からはずした。

３． 次年度への課題など

今年度の活動の中では、カリキュラムの例の収集等具体化できていない。連携事業の推進の中でカリキュラム問題も課題として上がってきている中で次年度以降の課題ともなっている。

FD 活動の実質化について設置基準改正による義務化によりいろいろな議論が全国でなされている。対外的に説明を求められることが増えた現在では FD 活動を評価し資料化する必要がある。しかし、エビデンスとしての形式的 FD 活動の推進だけでは教職員の中に疲労感をもたらし多くの弊害が生じうる。本センターや福井県内の大学間連携では「相互研修型」の FD を標榜している。これはすでに行なわれている様々な教育改善の取り組みを評価し相互に参考としようというものである。学生の生活・学習状況についての情報収集や意見交換、実情に応じた教育の工夫を FD 活動としてとらえ直したい。そのことを通じて目を学生とその教育に向けていくことが最大の FD 活動と言える。

ＸＩ．　総合情報処理センター

１．　基本方針

総合情報処理センターは、１年生の情報処理教育から高学年の実験・演習及び卒業研究、教員の研究まで情報処理教育並びに研究活動の支援を行っている。

プログラミングの演習のみならず情報リテラシー教育などにも幅広く利用されており、多様な利用形態に対応したハードウェア、ソフトウェア環境が充実している。

一方、高等教育機関としての高度情報化社会にふさわしい情報通信のインフラである校内LANの運用、維持・管理を担っている。このネットワーク環境の整備により教職員、学生のインターネットを使った教育・研究や学習、情報の伝達・収集・発信などが可能となっている。

２．　活動状況

総合情報処理センターの４つの演習室（第１演習室パソコン４６台、第２演習室パソコン７台、第３演習室パソコン５０台、第４演習室パソコン４６台）での授業時間割（平成２１年度前期・後期）を表１（前期)、表２（後期）に示す。また、平成２１年４月から１２月の平日１７時以降（休日を含む）の時間外利用の状況を延べ利用者数および延べ利用時間で表３に示す。

表１　　総合情報処理センター時間割（平成２１年度前期）

曜日		第１演習室	第２演習室	第３演習室		第４演習室 ものづくりアトリエ
月	1	2C プログラミング基礎		2EI プログラミング基礎	3EI プログラミング応用	5B 都市工学設計製図Ⅱ
	2		3M 創造工学演習			
	3	1F3 コンピュータ科学入門		4EI　制御工学Ⅰ		5B　環境衛生工学
	4			4EI 電子情報工学実験Ⅲ		
	5	1F4 コンピュータ科学入門	1PS 生産システム 工学実験Ⅰ			3EI 数値計算
	6					
	7					5B 都市工学演習
	8					
火	1	4M 知能機械演習	2AD 画像情報処理	4EI 創造工学演習		3B 応用測量学
	2					
	3					4B コンクリート構造学Ⅰ
	4					
	5	1F2 コンピュータ科学入門		3EI 電子情報工学実験Ⅱ		
	6					
	7	1F5 コンピュータ科学入門				5M アイデア設計工学
	8					
水	1	4M 機械計算力学		3C 情報処理演習		5B 環境保全工学
	2					
	3	3M C言語応用		2E 情報処理Ⅰ		4B 都市工学設計製図Ⅰ
	4					
	5	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり 科学	1ALL ものづくり科学		1ALL ものづくり科学
	6					
	7					
	8					
木	1	4C 情報化学		2EI 電子情報工学実験Ⅰ		
	2					2M　C言語基礎
	3	3E 情報処理Ⅱ				5B 都市工学設計製図Ⅲ
	4					
	5		1PS 生産システム 工学実験Ⅰ			4B 都市工学実験実習Ⅳ
	6			4EI 情報構造論		
	7					
	8					
金	1	5EI 電子情報工学実験Ⅳ	2M 機械工作実習	5E 現代制御工学		5B 数値解析
	2					
	3			5E 制御工学		1F1 コンピュータ科学入門
	4					
	5					3B 都市工学実験実習Ⅱ
	6					
	7					
	8					

表２　　総合情報処理センター時間割（平成２１年度後期）

曜日		第１演習室	第２演習室	第３演習室	第４演習室 ものづくりアトリエ
月	1	3E 情報処理Ⅱ	2M 機械工作実習	5B 空間情報工学	4B 都市工学設計製図Ⅰ
	2				
	3	5E 電気電子設計		5EI 計算機 シミュレーション	5B 数値解析
	4				
	5	4C 物質工学実験Ⅲ	2C 物質工学実験Ⅰ	5C 品質管理	1ES／2ES 専攻科実験実習
	6				
	7				
	8				
火	1	4EI 電子情報工学実験Ⅲ		3EI プログラミング応用	5C 設計製図
	2				
	3			1F2 コンピュータ科学入門	5B 河川環境工学
	4				
	5	1F3 コンピュータ科学入門			
	6				
	7	4C 情報化学		2E 情報処理Ⅰ	
	8				
水	1	2C プログラミング基礎		5E 制御工学	5B 都市工学設計製図Ⅱ
	2				
	3	4EI 情報構造論		2EI プログラミング基礎	2B ＣＡＤ
	4				
	5	4C 物質工学実験Ⅲ	2C 物質工学実験Ⅰ	1F4 コンピュータ科学入門	4B 都市工学実験実習Ⅳ
	6				
	7				
	8				
木	1	3M 機械設計製図Ⅰ	3EI 電子情報工学 実験Ⅱ	4EI ソフトウェア工学	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				
	3			2EI 情報基礎演習	5B 都市工学設計製図Ⅲ
	4				
	5	4E　制御工学Ⅰ		2M　Ｃ言語基礎	
	6	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学
	7				
	8				
金	1	2EI 電子情報工学実験Ⅰ		1F1 コンピュータ科学入門	
	2		5M 機械工学実験		3B 都市工学実験実習
	3			1F5 コンピュータ科学入門	
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				

表３

時間外利用状況（平成２１年４月～１２月）

月	人数（人）	利用時間（各演習室の合計）
４	５４	２８時間０３分
５	２４７	８３時間００分
６	２５３	７５時間１０分
７	２８９	７６時間００分
８	９７	３０時間００分
９	１９	６時間００分
１０	３２８	８８時間００分
１１	２７７	７８時間３０分
１２	２１１	６２時間００分
合　計	１７７５	５２６時間４３分

月平均（小数点以下、四捨五入）

１９７（人）	５８時間３１分

６／２１　CAD 利用技術者試験
９／１５　Ｍｏｏｄｌｅ講習会
１０／１５ インターンシップ報告会
１１／１５ CAD 利用技術者試験

ＸⅡ．　地域連携テクノセンター

１．基本方針

本校の位置する丹南地域は眼鏡枠製造をはじめ，繊維・染色産業や電子・機械・化学工業が盛んであり，加えて，越前和紙，越前打刃物，越前漆器や越前焼の伝統産業を有することから，依然として福井県の経済を支える重要な拠点となっている．

地域連携テクノセンターは，本校の使命である『教育・研究・地域貢献』の対外的な窓口であり，丹南地域のみならず県内全域にわたってより良いサービスを提供するために，以下の事業を展開している．

(1) 共同研究，受託研究の受け入れ

地域連携テクノセンターは「地域・文化」，「環境・生態」，「エネルギー」，「安全・防災」，「情報・通信」，「素材・加工」および「計測・制御」の7つの研究部門から構成されている．

平成20年度には県内企業を中心に15件の共同研究の申込みと6件の受託研究の申込みがあり，基礎調査・試験から製品開発にいたる広い範囲で地元産業界と歩みをともにしている．また，各研究部門では共同研究，受託研究の前段階にも当たる技術相談に随時応じており，平成20年度は390件の依頼の大部分について難題の本質を見極め，解決の糸口を助言した．

研究の円滑な遂行を助成するために，地域連携テクノセンター内の8つの実験室には誘導結合形高周波プラズマ発光分光分析装置，X線光電子分光装置，薄膜X線解析装置，超高分解能電子顕微鏡システム，走査型プローブ顕微鏡，エネルギー分散型X線分析装置付属FE形走査電子顕微鏡，MIT耐折度試験機，小型卓上材料試験機などを設置している．これらの装置，試験機は企業単独の基礎研究，応用研究や品質管理にも活用されている．

さらに，地域社会との密接な関係を保持し，実益を共有または還元する目的で，2階には「伝統産業支援室」と「地場産業支援室」とを配している．

(2) シーズの公開，各種コンテストの主催・共催

教員および技術職員のシーズをまとめた冊子を作製，広く外部に配布して本校の有する人的財産，資源の情報を発信している．この“シーズ集”は毎年更新して，ニーズとの整合性を図るべく鋭意努力している．また，専攻科委員会との協同のもと北陸技術交流テクノフェアでは専攻科2学年によるシーズ発表を行っている．

地域連携テクノセンターが主催する「マグネットコンテスト」，「さばえめがねワクwakuコンテスト」には毎回多数の作品が寄せられ，児童，生徒や学生の理科離れ対策の一つとして，独創的な思考力の涵養の一環として役立っているものといえよう．平成21年度からは新たに「ふくい防災マップコンテスト」を共催し，さらに，22年度以降は「歯みがきロボットコンテスト」をも共催する予定にある．

上記のほかにも産学官連携推進会議，全国高専テクノフォーラムや丹南産業フェアに出展して，地域連携テクノセンターの活動内容およびその成果を公表している．

(3) 起業家の育成と事業創出の支援

福井県内での起業意欲を高揚し，伝統産業や地場産業の活性化に寄与する目的で，地域連携テクノセンターの3階には「アントレプレナーサポートセンター」を置いている．ここは，地域の産業活性化プランと連携しながら起業のための基礎知識や活動方針を研鑽する施設であり，修了後は地元の行政機関が準備する支援施策に則って事業に着手することになる．

対象者は数年後に起業を志す，もしくは，自らのアイデアを事業に結び付けたいと考える地

域の技術者および本校の学生であり，オフィススペースを半年契約で最長1年間提供している．

これら(1),(2),(3)に加えて，地域連携テクノセンターでは「JOINTフォーラム」の開催や「丹南地区における緊急連絡システム」の運用などを通して，最近の研究事例・技術開発への取り組みを紹介するとともに地域社会の安寧に貢献するべく尽力している．

２．活動状況（平成21年度）

	事　　業
6 月	地域連携テクノセンター活動紹介誌『JOINT 2009』の発行 福井高専地域連携アカデミア総会の開催 第8回産学官連携推進会議に参加，出展 高専ものづくり設計塾・社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ　21年度第1回開催
7 月	第6回さばえめがねワクwakuコンテスト（主催）作品募集〔～10月2日〕 第15回マグネットコンテスト（主催）作品募集〔～10月2日〕 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（歯みがきロボットの製作－第1回）
8 月	第7回全国高専テクノフォーラムに参加，出展 ふくい防災マップコンテスト（共催）最終審査会および表彰式に参加 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（歯みがきロボットの製作－第2回）
9 月	丹南産業フェア2009に参加，出展 高専ものづくり設計塾・社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ　21年度第2回開催 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（歯みがきロボットの製作－第3回）
10 月	北陸技術交流テクノフェア2009に参加（専攻科2学年によるシーズ発表） JOINTフォーラム2009の開催 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（歯みがきロボットの製作－第4回）
11 月	第6回さばえめがねワクwakuコンテスト（主催）最終審査会の開催 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（歯みがきロボットコンテスト出場）
12 月	『福井工業高等専門学校シーズ集2009』の発行 平成21年度東海・北陸地区国立高等専門学校テクノセンター長等会議の開催 第15回マグネットコンテスト（主催）最終審査会の開催 高専ものづくり設計塾・社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ　21年度第3回開催 福井県機械工業青年会との交流プロジェクト（活動報告会）
1 月	第6回さばえめがねワクwakuコンテスト（主催）表彰式の開催
2 月	第15回マグネットコンテスト（主催）表彰式の開催
3 月	高専ものづくり設計塾・社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ　3D･CADフォーラムの開催

ＸⅢ．　教育研究支援センター

１．　基本方針

本センターは、本校において教育研究支援に携わる技術職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を確保し、その職務の遂行に必要な能力および資質の向上を図り、本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目標として運営されている。

２．　活動状況

(1) 教育支援

各学科の実験・演習・卒業研究および物理・化学・工学基礎物理の実験に対する支援を行なった。

(2) 研究への支援

本校の共同研究・科研費研究に参画し、研究活動の活性化のために寄与している。

科学研究費補助金(奨励研究)を受けての研究に取り組み、平成２０年度は２名が応募し、１件採択された。平成２１年度は４名のセンター職員が応募した。

(3) 地域貢献への支援

各学科等の依頼を受けて公開講座、出前授業に対して支援を行なった。(資料中の出前授業一覧、公開講座実施一覧参照)

丹南地域の活性化のために行なわれる「おもしろフェスタ in サンドーム福井２００９」の準備及び当日の支援に参加した。

地域連携テクノセンターの事業に協力し、「JOINT フォーラム２００９」での講演、本校シーズ集へ投稿、今立和紙共同組合の依頼を受けての水質測定を行った。

(4) 本校運営への支援

第一班は、全国高専ロボットコンテスト参加チームへの支援を行ない、全国大会１０年連続出場に貢献した。

第二班は、総合情報処理センター業務に対する支援に当たった。

第三班は、職場の安全衛生確保のため作業環境測定士資格に基づく実験室等の作業環境測定を行ったほか、全国高専デザインコンテストへの支援を行った。

６月と８月に行なわれたオープンキャンパスに対する支援を行った。

(5) 見えるセンター活動

２１年度も活動報告書の発行、発表会の開催、ホームページでの情報発信を行い、センター活動の状況が見えるように努めている。

(6) ポテンシャルアップ

各種研修事業への参加促進、本校運営に必要な資格取得の奨励、技術発表会の開催、科学研究費補助金申請のためのセミナーの開催を通じてセンター職員のポテンシャルアップを図っている。

ＸⅣ.　評価体制

１．本校の評価体制

本校では学校内部の自己点検・評価委員会規則に則り、教育活動の評価及び評価結果を改善策に結びつけるシステムがある。教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために、本校では２つの体制を軸に整備している。一つは学生による教育（授業）評価、もう一つは教員本人による教育（授業）自己評価である。前者は教育活動、特に授業の改善は早くから個々の教員レベルで実施されてきたが、平成１４年度から全ての授業を対象に校内に設置した「創造教育開発センター」がアンケートを実施し、その結果を各教員に提示し、コメントを求め、今後の課題を記述した報告書を作成し、公表している。後者は各教員に他教員の教育、研究などの状況を記入、提示させ、得点化、校内ランキングを作成して公表し、フィードバックしている。

授業評価アンケートの結果の冊子及び教員の教育活動自己評価の結果をもとに、経年的な推移から教育レベルの向上を図っている。主な企画として、公開授業を実施し、同僚教員を中心とした専門家による評価を受け、質の向上を図っている。システムに参加する教員は、専門及び教科教育法の立場から多面的な評価ができるよう配置され、教員のＦＤ活動としても重要である。半期に７名の教員が公開授業を実施し、それぞれ５名の教員が評価及び討論をしている。その結果は報告書の形で評価教員及び委員会へ提出し、最終的に次時期授業アンケートの結果を受け改善の程度を検討している。このシステムにおいて１年間にほぼ全ての教員が参加する。以上の創造的教育研究センターを中心としたシステムの在り方、さらに全校的な観点から教育システム評価委員会においても検討される。これらの結果は、各教員のその後の教育に確実に反映することが必要であり、それ以後の評価で再び結果が問われることとなる。これらのことにより、本校の授業は格段に学生にとって理解されやすいものとなった。

２．外部評価の受審

平成１６年度（2004 年度）に、本校本科４、５年と専攻科の教育プログラム（環境生産システム工学）が日本工学者教育機構(JABEE)により認定された。認定の有効期間が原則６年であることから、本年度（平成２１年度）に継続審査を受審したところである。また、大学評価・学位授与機構による度高等専門学校機関別認証評価を平成１７年度に受審し、改善事項がない認定を受けた。この認証評価は、７年以内ごとに受審することが義務づけられており、次回は平成２４年度までに受審することとなる。

３．評議員会による外部評価

本校の外部評価は評議員会、JABEE の受審、機関別認証評価の受審などがあるが、評議員会（本年度から「外部有識者会議」と名称変更）には福井県内、技術科学大学の大学関係者、地元の中学校関係者、福井県、地元の産業界、報道関係、商工会議所関係者を招聘し、毎年１回の外部評価を行っている。第１回は平成１６年度に外部評価委員会として始まったが、昨年度の評議員会における総評を記す。

（平成２０年度実施、第５回評議員会総評　平成２１年２月１２日開催）

①　長岡技術科学大学　　西 口 郁 三　副学長

全体的には、よくやっておられると思います。ただ少しお願いしたいのは、一つは国立高専機構ができたのですが、高専がそれぞれ地域性というのですか、高専の特色を失わないでほしい。福井高専さんは地元とかデザインとか、いろいろ優れておられるので、それを伸ばしながら、かつ、他のところも伸ばしていただきたいと思います。機能性分化というのが、大学だけではなしに、これから高専にも要求されるのではないかと思います。

それから、ぜひ学生さん、先生方はインセンティブを上手にお付けになってやっていただいて、これからの競争社会というところを小さい頃から経験されたら良いと思いますので、難しいと思いますが、上手に良い意味の競争意識を持っていただいて頑張ってやっていただいたら非常に素晴らしいのではないかな、と思います。

②　鯖江市小中学校校長会　　小 澤 正 信　会長

教育とか研究分野、特に地域と連携されながらということを強く感じましたが、評議員となってみてですね、大変素晴らしい教育をされたと感じました。私達の立場から言うと生徒を送り出す側ですので、今日の説明の中で新しく入学した学生さんに宿泊オリエンテーションを実施するとか、担任副担任制をずっと５年生までやられるという、そのあたりは私どもにとってとてもありがたい制度だと思いますし、是非、このようなきめ細かな指導を続けていただきたいと思います。

昨年度は話題が出たということでございますが、学生のメンタルヘルスという面ですが、小中学生も最近はいろいろな考え方といいますか、いろんな生徒もいまして、時々不適応を起こすとか、そういう生徒もいるわけですが、そういった学生についてもかなり力を入れていただいていますので、これは是非一層の充実をしていただくと、生徒学生にとっても良いのではないかと思います。１人１人の学生が工学の勉学に励んで、立派な社会人として巣立って行く、あるいは進学するわけですが、今まではあまり重要視をしていなくても済んだ面かと思うのですが、最近は中学校でも随分力を入れておりますので、是非、お力添えを引き続きお願いしたいと思います。

それから、これは私どものこれからの思いですが、今日のいろいろなご説明の実績を拝見させていただいて、我々も高専さんへ生徒を送るときに、今まで以上に目的意識をしっかり持った生徒を送らねばいかんなと思いますし、もう一点は、今回随分たくさんいろんな資料を見せていただいて、改めてもう一度生徒たちに福井高専はこういう良さがあるのですよと、ぜひ話をしていきたいと思っている次第であります。大変取り組み全体として素晴らしい事を実践されていると感じました。

③　福井県工業技術センター　　笠 嶋 文 夫　所長

福井高専さんには長年産学連携で一緒に取り組ませていただいて、大変感謝しています。今日はいろいろお聞きして、先生方の頑張りに驚き、敬意を表したいと思っています。この少子化の時代に、受験者集めから就職先、進学先の指導・世話まで大変だなと思いました。その先生方の頑張り・姿勢が学生に移っている、伝染しているのではないかなと、良い影響を与えているのではないかと私は思います。

私はこの間産業フェアに参加して、福井高専の学生さんは非常にイキイキしていると感じました。それは先生方の頑張り、担任制度もあって、どうも先生に似るなと。私は、それがあるんじゃないかと思っております。この間、読売新聞の記事で大変私は嬉しかったのですが、こういう事が福井県の高専として出るという事が、地域に密着した高専というところの、県民地域社会に根差したものづくり教育を行う地域と連携した産学官共同推進を図る、こういうところは非常に大事で、55 の高専がありますが、その地域の特色を活かした県民連合性高専になるべきではないかと。もちろん地域の特色を活かした中で、そして日本に通用する、世界に通用する面もなければなりませんが、地域の特色を活かした高専というのを前面に押し出していただければなと思っています。これからも今の経営方針で頑張っていただきたい、継続していただきたいと思っています。

④　鯖江商工会議所　　野 村 一 榮　会頭

先程いろいろな意見が出ておりましたが、私はこの福井高専が、他の高専は分かりませんが、これほど地域に密着したと申しますか、地域との連携を挙げておられる高専は非常に地元にとってはありがたいと思います。常日頃から感謝をしています。そこで、先程申しましたように、鯖江、それから越前を含めてこの辺はものづくりの町でありますので、是非、地場産業を理解していただくという意味では先生方に地場産業の良さというものを是非理解してほしいなと。そして１人でも多くの生徒に地場の産業に興味を持っていただく。これは少し大袈裟かもしれませんが、鯖江は微細加工技術が日本一だと思っています。長岡にもいっぱいありますが、鯖江も長岡にまけない微細技術を持っていると思います。その意味では今後の高専の生徒が特許を取った、あるいは企業と共同で新しい物に挑戦するというそういった意味での起業家をめざすことも、我々地元としては非常に期待をしています。だから大企業に入るのも一つの方法かもしれませんが、地場の、ゼロからのスタートと言うと大袈裟かもしれませんが、そういう事も一つの今後の将来としては我々は期待しているところです。日本全国的にもこれからはどんどん起業家を育てるというのが経済的な流れがあると思っていますので、どうかひとつよろしくお願い申し上げたいと思います。以上です。

⑤　信越化学工業㈱磁性材料研究所　　本 島 正 勝　所長

皆さんがおっしゃっているように、非常に一生懸命やっていただいているということで、素晴らしいと思います。今からお話をするのは別に今の批判ではなくて、実は日頃私どもの研究所にも毎年２，３名の大学、大学院、高専を含めて入っていますが、一番の問題点というのは、案外、注意されるとか意見を言われるのを嫌うんですね。相手からも、相手に言うのも嫌う。要するに自分で自分の事をやっているのはいい。だから非常にある意味で起業家としてはいいのですが、もう一つあまり言われたりするといわゆる鬱になったりする。要するにそういうトレーニングが少し足りない可能性があると思っているのです。文句を言われても耐える力というのですか、変える必要はないのですが、そういうのに上手く対応する力が無いと起業家にはなかなか育たない、それから新しい事ができないだろうと思います。他の大学あるいは大学院でかなり素晴らしい成績を取っている人も、余所の人に言ったり、余所の研究員に口を出さない代わりに口を出してほしくないという、それを少しずつ慣れるような教育をぜひ、他の大学の先生も含めてお願いをしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

⑥　㈱福井新聞社　　山 下 裕 己　論説副委員長

だいたい基本的な認識はみなさんと同じですが、先程も言いましたように、かなりいろいろなことを取り組んでおられて肩が痛くなるのではないかという気がするのですが、１、２点。

先程質問もしましたが、やはりこの「豊かな創造力とデザインマインド」というのは福井高専さんとしては特徴としていることだと思います。先程もご説明があったように丹南地域は伝統工芸のテクノバレーのような地域ですから、こういう素質が必要なのだと思います。けれどもそれをより他の全国の高専とは違うという特徴を主張する為にも具体的な目標の中に感性デザイン力というのと、工学的なデザイン力の両方を少し推進するというような目標があったら良いかという気がします。また、そういう所も中学生などそういうところにも訴えるし、当然地域での企業との話し合いの中でもそういう特徴を出していくのが高専の特徴的な一つになるのではないかと思います。

それと皆さんからもいろいろ話が出ていますが、５年間という期間の特徴ですね。それにはいろいろな意味でやることが多くて大変なのでしょうが、５年間の担任制などのいろいろな形で生徒さんを見るわけですから、人格、人間教育を当然基本に置いているのでしょうが、それも一つの高専５年間の特徴にしていただけるとありがたいと思います。

⑦　福井大学　　中 川 英 之　副学長

委員皆様から講評をいただきました。いくつかの視点で公平に指摘されたと思いますが、まず、高専機構の中で各高専の位置づけに関して福井高専としても、その特徴をもう少し表に出して、将来起こってくるであろう機能分化というものに十分対応していけるような工夫をしていっていただきたいということが一つ指摘できたと思います。

それからもう一つ、組織上の問題としまして、専攻科の現在の在籍者数と定員との関係を見ますと、だいたい定員の 1.5 倍ぐらいが在籍している状態に今なっていると思います。今後本科生から専攻科へ進学を希望する人はますます増えてくるのではないか。大学３年への編入学というルートもあるのですが、高専で専攻科を充実して、さらにその先の大学院の課程から大学へ移るとか、そういうことを基本的なものとして考えていった方が良いのではないかと思います。福井高専としましても、例えば 20 名の定員に対して今年度は 45 名の希望者があったという報告がありましたが、ある意味でのニーズ、学士レベルの教育に対するニーズを踏まえて定員問題はきちんと考えた方が良いのではないかと思います。それが一つ。

それと関連して、これは１高専の問題ではないのですが、学位認定問題が依然としてあると思います。学士課程という形での学位認定をやっていこうとすると、今度は高専の教員そのものの資格認定がそれに付いて関係してきますので、その辺の対応を考えて学位認定問題もぜひ取り組んでほしいと思います。

これから工学、工業技術者を育成していくにあたって、もう一つ皆さんのご意見の中で指摘された感性工学的な観点を工学の中に組み込んでいかなければいけないという点が出されました。この点は今高専だけではなくて大学の工学部においてもウィークポイントになっていて、デザイン、企画力を発揮するという創成教育が全国的に行われていますが、そのベースになる人間の感性を工学的に捉えるところが全体に弱くなっています。福井高専でも是非そのあたりを考えていっていただきたいということが指摘されたと思います。

もう一つはメンタルヘルスの問題ですが、昨年度もご指摘があって、いろいろ改善されているというところで、それでいいと思いますが、結局この問題は現在の社会情勢と関係しています。一つはいわゆる競争社会で競争にどう対応したらよいか分からなくなってしまい問題を起こしていると思います。これは生徒、学生だけの問題ではなく教員にも同じことが起こっていると。大学では教員にも同じことが起こっている。競争の概念、捉え方をもう少しきちんと考えておかないと、単に何かを比較して競争させているということだけを進めていると、メンタルヘルスの方で破たんするということがあると思います。生徒に対するメンタルヘルスケアの体制は出来上がってきているのですが、教員のメンタルヘルスも考えていく必要があるということです。

それから何よりも教員も学生も活き活きしている高専にしていくということが何よりも重要でしょう。そのためにも地域の産業や地域社会との連携を深めて、この地域でこの高専があるという存在感などをぜひ発揮していただきたいと思います。

メンタルヘルスの問題とも関連してきますが、後の方で指摘された言葉は、耐える力とか人格とか人間力とかその辺が指摘されていますが、教育の中でこういう耐える力を付けていくためには、教員と生徒学生の間での一種の信頼関係がないと耐える力を鍛え上げることは非常に難しいことだと思います。高専の卒業生は相対的に優秀ですので、そのへんは十分に心掛けておられるとは思いますが、今後ますます弱い学生、生徒が入ってくることを考えますと、その対応も十分やっていく必要があるのではないかと思います。

（ 総　　括 ）

全体として今日ご説明いただいたこと、それから自己点検評価に書かれていることを考えると、当高専としては委員からのご意見にもありましたように、非常に良く頑張っている高専であると思います。今後、新しい事を工夫してますます良い高専にしていっていただきたいと思います。最後に、こういう一種の外部評価をするにあたって観点として今国が求めているのは国際化、拠点化、連携という３つのキーワードを高等教育機関、高専・大学に国の方で求めています。これに十分対応できるような強い体質も、ぜひ作っていただきたいと思います。

４．ＪＡＢＥＥへの取り組み

２００６年１１月１２日、１３日に行われた中間実地審査の結果を受けて、福井高専「環境生産システム工学」教育プログラムは２００７年５月１４日付けで JABEE（日本技術者教育認定機構）より３年間の継続が認定された。認定分野は、工学（融合複合･新領域）である。この結果、２００６年度、２００７年度および２００８年度専攻科修了生が、JABEE 認定教育プログラム修了者として認められることとなった。技術者教育の質的同等性を、国境を越えて相互に承認し合う国際的な協定「ワシントンアコード」に、JABEE が正式加盟を果たしているため、JABEE 認定教育プログラムの修了生である本校専攻科の修了生は国際的にも認められることになる。また、国内では技術士一次試験が免除され修習技術者となり、最短で専攻科終了後４年で技術士二次試験を受験でき、合格すれば技術士となることができる。

JABEEの主旨は継続的な教育改善にある。このことは教育機関であれば当然のことであり、常にプログラムの改善という PDCA サイクルにしたがってスパイラルアップを図り、プログラム修了生の知識と能力のレベルアップを図っていかなければならない。これまで実施してき

た改善項目に対し、さらなる改善を提案して、さらに、社会のニーズおよび学生の要望からの学習・教育目標に関する項目の導入、成績資料の電子媒体化などが検討課題である。審査があるから考える、あるいは実施するということではなく、学生のアウトカムズの向上を常に検討・実施していかなければならない。

どんなに素晴らしい教育システムであっても継続できなければ意味を成さない。継続し、スパイラルアップすることを念頭に、今後も、継続できる教育改善システムの構築を目指していく所存である。

XV. 資　料　一　覧

科学研究費補助金採択一覧

【 上段：件数, 下段：金額(千円) 】

区　　分	１８年度	１９年度		２０年度		２１年度	
		直接費	間接費	直接費	間接費	直接費	間接費
特定領域研究	1						
	5,800						
特別研究促進費		1		0		0	
		5,200	0	0		0	
基盤研究（A）	0	0		0		0	
	0	0		0		0	
基盤研究（B）	3	1		1		1	
	5,100	1,700	510	6,300	1,890	2,700	810
基盤研究（C）	5	5		7		6	
	2,600	7,000	2,100	7,400	2,220	6,000	1,800
萌芽研究	3	2		0		0	
	3,100	1,200	0	0		0	
若手研究（A）	0	0		0		0	
	0	0		0		0	
若手研究（B）	6	6		1		1	
	8,600	4,600	0	500	150	1,200	360
計	18	15		9		8	
	25,200	19,700	2,610	14,200	4,260	9,900	2,970
		22,310		18,460		12,870	

科学研究費補助金採択一覧

	研究科目	所　属	職　名	氏　名	申請額	研　究　課　題
平成18年度	特定領域	一般科目教室	教授	荻野繁春	5,800	中世考古資料の電子化もよる分析とﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化に関する研究
	基盤研究(B)		校長	駒井謙治郎	1,100	環境質制御ﾄﾗｲﾎﾞﾃｽﾀｰの試作とﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰ加工硬質膜のﾄﾗｲﾎﾞ特性評価
		機械工学科	教授	加藤寛敬	800	ナノ超微粒子の摩擦焼結による創造的ﾄﾗｲﾎﾞ膜の創製
		機械工学科	教授	安丸尚樹	3,200	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究
	基盤研究(C)	一般科目教室	助教授	長水壽寛	500	新たな数学教育の実践を目指したｶﾘｷｭﾗﾑから評価方法までの総合的な研究
		一般科目教室	教授	山本裕之	500	ﾊﾞｸﾃﾘｱｾﾙﾛｰｽを用いた疎水性ｾﾙﾛｰｽ膜および無機複合材料の開発
		一般科目教室	教授	廣重準四郎	600	救貧法委員会・救貧法庁『年次報告書』付録統計資料のﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化とその分析
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	500	貝殻粉砕物の吸水性，中和促進性を活用した強酸性発生土の安定処理策
		一般科目教室	教授	太田泰雄	500	地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
	萌芽研究	物質工学科	教授	吉村忠與志	600	嗅覚ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄ性を生かした科学教材ｼｽﾃﾑの開発と科学教育への活用
			校長	駒井謙治郎	700	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のナノ構造制御とｾﾞﾛ磨耗面の実現
		電子情報工学科	教授	前川公男	1,800	月からのｴｺｰを聞く出前授業の実現による科学教育の新規展開
	若手研究(B)	一般科目教室	助教授	小林秀紹	900	慢性疲労と抑うつの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系ﾊﾟﾗﾒｰﾀの解析
		一般科目教室	助教授	北浦守	500	電子状態解析に基づいたﾗﾝｶﾞｻｲﾄ系新規圧電結晶の量子材料設定
		環境都市工学科	講師	辻野和彦	2,200	福井県丹南地域における土砂災害対策支援GSIの構築
		環境都市工学科	助教授	辻子裕二	2,600	災害による緑被・根系の時系列変化に対応可能な地盤の広域ﾊｻﾞｰﾄﾞ評価法の構築
		一般科目教室	助教授	瀬川直美	900	高専生の語彙学習における、学習方法の違いに起因する学習意欲とその効果の検証
		物質工学科	講師	松井栄樹	1,500	外部配位による新規π電子色素集積体の設計と機能制御
	合　計			18件	25,200	

	研究科目	所　属	職　名	氏　名	申請額(直接費/間接費)		研　究　課　題
平成19年度	基盤研究(B)	機械工学科	教授	安丸尚樹	1,700	510	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによる超低摩擦・局部導電性ナノ構造炭素薄膜の開発研究
	基盤研究(C)	一般科目	教授	太田泰雄	600	180	地すべり地の粘土層生成機構の解析と観察に関する研究
		一般科目	准教授	長水壽寛	500	150	新たな数学教育を推進するためのｶﾘｷｭﾗﾑおよび評価に関する実証的な研究
		機械工学科	教授	加藤寛敬	1,600	480	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー特性評価
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	2,200	660	浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
		環境都市工学科	准教授	吉田雅穂	2,100	630	カーボンストックを目的とした丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発
	萌芽研究		校長	駒井謙治郎	600		ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰによるﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ状炭素膜のナノ構造制御とｾﾞﾛ磨耗面の実現
		電子情報工学科	教授	前川公男	600		月からのｴｺｰを聞く出前授業の実現による科学教育の新規展開
	若手研究(B)	一般科目	准教授	小林秀紹	1,200		慢性疲労と抑うつの個人差を規定する遺伝子と神経・内分泌系ﾊﾟﾗﾒｰﾀの解析
		環境都市工学科	講師	辻野和彦	1,000		福井県丹南地域における土砂災害対策支援GSIの構築
		環境都市工学科	准教授	辻子裕二	600		災害による緑被・根系の時系列変化に対応可能な地盤の広域ﾊｻﾞｰﾄﾞ評価法の構築
		一般科目	准教授	瀬川直美	400		高専生の語彙学習における、学習方法の違いに起因する学習意欲とその効果の検証
		物質工学科	准教授	松井栄樹	800		外部配位による新規π電子色素集積体の設計と機能制御
		一般科目	講師	森　芳周	600		胚、胎児に関する倫理的議論の再構築－人格か否かという議論を超えて－
	特別研究促進費	一般科目	教授	荻野繁春	5,200		中世考古資料の電子化による分析とﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化に関する研究
	合　計			15件	19,700	2,610	
					22,310		

	研究科目	所　属	職　名	氏　名	申請額（直接費/間接費）		研　究　課　題
平成20年度	基盤研究(B)	機械工学科	教授	安丸尚樹	6,300	1,890	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰ援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究
	基盤研究(C)	一般科目	教授	長水壽寛	600	180	新たな数学教育を推進するためのｶﾘｷｭﾗﾑおよび評価に関する実証的な研究
		機械工学科	教授	加藤寛敬	900	270	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー特性評価
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	700	210	浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
		環境都市工学科	准教授	吉田雅穂	1,100	330	カーボンストックを目的とした丸太打設による地盤の液状化対策技術の開発
		一般科目	教授	坪川武弘	1,300	390	気候変動の数理モデルを題材とした数学教材の調査と開発
		環境都市工学科	准教授	辻子裕二	2,500	750	豊かな保水性のもとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策
		一般科目	准教授	北浦　守	300	90	二価マンガンイオンを用いた希土類蛍光体代替材料の量子材料設計
	若手研究(B)	一般科目	講師	森　芳周	500	150	胚、胎児に関する倫理的議論の再構築－人格か否かという議論を超えて－
	合　計			9件	14,200	4,260	
						18,460	

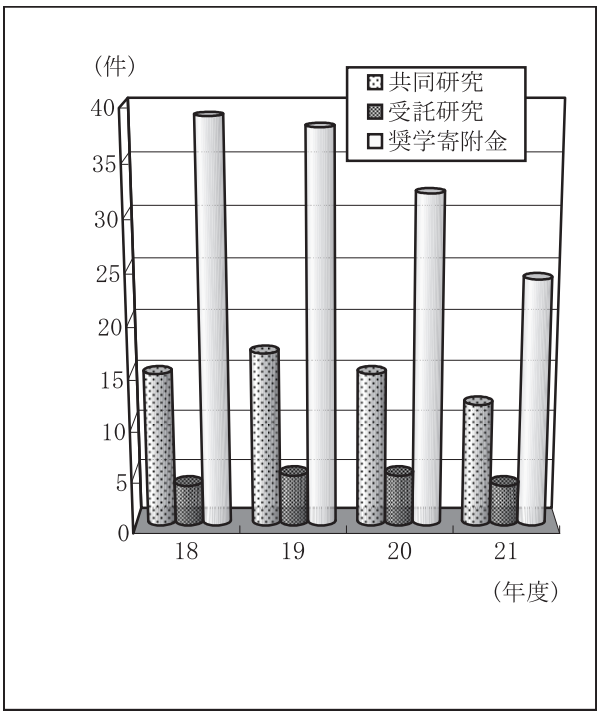
	研究科目	所　属	職　名	氏　名	申請額（直接費/間接費）		研　究　課　題
平成21年度	基盤研究(B)	機械工学科	教授	安丸尚樹	2,700	810	ﾌｪﾑﾄ秒ﾚｰｻﾞｰ援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究
	基盤研究(C)	一般科目	教授	長水壽寛	600	180	新たな数学教育を推進するためのｶﾘｷｭﾗﾑおよび評価に関する実証的な研究
		機械工学科	教授	加藤寛敬	800	240	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー特性評価
		環境都市工学科	教授	山田幹雄	500	150	浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
		一般科目	教授	坪川武弘	900	270	気候変動の数理モデルを題材とした数学教材の調査と開発
		環境都市工学科	准教授	辻子裕二	700	210	豊かな保水性のもとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策
		一般科目	准教授	北浦　守	2,500	750	二価マンガンイオンを用いた希土類蛍光体代替材料の量子材料設計
	若手研究(B)	電子情報工学科	助教	奥田篤士	1,200	360	学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究
	合　計			8件	9,900	2,970	
						12,870	

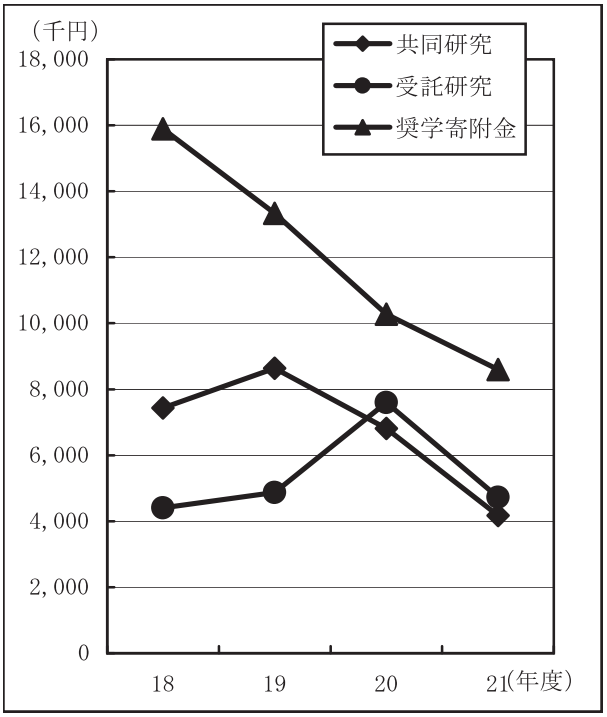
外部資金受入一覧

【単位：件, 千円】

区　　分	18年度		19年度		20年度		21年度	
	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額	件数	金　額
共同研究	15	7, 430	17	8, 635	15	6, 812	12	4, 170
受託研究	4	4, 405	5	4, 873	5	7, 602	4	4, 725
奨学寄附金	39	15, 890	38	13, 331	32	10, 276	24	8, 600
計	58	27, 725	60	26, 839	52	24, 690	40	17, 495

※平成21年12月31日現在





民間等との共同研究受入一覧

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教員	研究期間	受入金額
18年度	土と石の抗菌強化保存剤の開発と試作研究	㈱田中地質コンサルタント	物質工学科　助教授　高山勝己	平成18.4.18～平成19.3.31	200,000
	「安全ベルト」の実用化・商品化に向けた研究	有限会社　北陸プロフト	機械工学科　教　授　井上清一	平成18.5.24～平成19.3.31	100,000
	重心動揺計測制御ソフトの開発	インターリハ㈱	一般科目教室　助教授　小林秀紹	平成18.6.15～平成19.3.31	130,000
	脱地球温暖化社会へ向けた建設工事への木材利用に関する調査・研究	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科　助教授　吉田雅穂	平成18.5.23～平成19.3.31	1,000,000
	廃棄貝を利用した凝集剤開発へ向けた研究	大洋潜水工事株式会社	物質工学科　教　授　小泉貞之	平成18.6.15～平成19.3.31	500,000
	新規抗菌砂の開発	協和化学株式会社	物質工学科　助教授　高山勝己	平成18.6.17～平成19.3.31	100,000
	交流電圧検出回路の研究	株式会社カワチュウ	電気電子工学科　教　授　原田　望	平成18.6.1～平成19.3.31	400,000
	次世代光源の開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成18.8.18～平成19.3.31	1,000,000
	鉄系自動車用鍛造部品の高強度化の為の制御鍛造技術の開発	豊橋技術科学大学	機械工学科　教　授　加藤寛敬	平成18.9.1～平成19.3.31	500,000
	タッチパネルセンサの多機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気電子工学科　教　授　原田　望	平成18.10.21～平成19.3.31	600,000
	環境水および廃水中微量アンチモンの共沈法による吸着分濃縮　および簡易測定法の開発	株式会社ミツヤ	物質工学科　教　授　小泉貞之	平成18.10.6～平成19.3.31	200,000
	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー㈱	電気電子工学科　教　授　川本　昂	平成18.11.28～平成19.3.31	1,200,000
	GPS携帯を用いた消防団情報支援システムの構築	合資会社エムディエス	電気電子工学科　教　授　大久保茂	平成18.12.22～平成19.2.28	200,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	物質工学科　教　授　上島晃智	平成19.1.25～平成19.3.31	1,000,000
	高精度極薄膜研磨・研削技術による耐放射線性デバイスの開発	若狭技研工業株式会社	電子情報工学　助　手　西仁司	平成19.1.25～平成19.2.28	300,000
		15件			7,430,000

年度	研　究　題　目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
19年度	脱地球温暖化社会へ向けた建設工事への木材利用に関する調査・研究	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科　准教授　吉田雅穂	平成19.5.22～平成20.3.21	1,000,000
	次世代光源の開発	ハリソン東芝ライティング㈱	電子情報工学科　教　授　井上昭浩	平成19.6.30～平成20.3.31	1,000,000
	無電源動作交流電圧検知器の開発	株式会社　カワチュウ	電気電子工学科　教　授　原田　望	平成19.7.11～平成20.3.31	400,000
	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー株式会社	電気電子工学科　教　授　川本　昂	平成19.7.26～平成20.9.30	1,200,000
	シリコン端材を利用した低コスト太陽電池パネルの試作研究	川崎産業株式会社	電気電子工学科　准教授　山本幸男	平成19.8.30～平成20.3.31	300,000
	森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　准教授　辻子裕二	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	スマートマイクロチップデバイスを用いた微生物検査チップの研究	豊橋技術科学大学	物質工学科　准教授　高山勝己	平成19.8.1 ～平成20.3.31	450,000
	細胞損傷・細胞死の進行過程の多面的解析法の開発	豊橋技術科学大学	物質工学科　講　師　川村敏之	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　講　師　辻野和彦	平成19.8.1～平成20.3.31	300,000
	(Ba, Sr)Al2O4:Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発	長岡技術科学大学	一般科目教室　准教授　北浦　守	平成19.7.2～平成20.3.31	200,000
	信頼に裏付けられた高専との連携研究室構想の準備	長岡技術科学大学	物質工学科　准教授　西野純一	平成19.7.2～平成20.3.31	200,000
	技大・高専連携による地域自然災害危険度の調査と防災コンテンツの整備	長岡技術科学大学	環境都市工学科　准教授　吉田雅穂	平成19.7.2～平成20.3.31	175,000
	圧電トランスを電極に用いたオゾン発生装置において、発生効率の向上方法と加圧(1MPa)オゾン作製方法を探る	株式会社　エコ・プランナー	環境都市工学科　准教授　奥村充司	平成19.11.16～平成20.2.28	120,000
	有機リン加水分解酵素表層発現酵母を用いた有機リン農薬検査法の開発	(財)若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科　准教授　高山勝己	平成19.11.22～平成20.2.29	1,390,050
	タッチパネルセンサの高機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気電子工学科　教　授　原田　望	平成19.12.29～平成20.3.31	300,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長　加藤省三	平成20.1.23～平成20.3.1	700,000
	トロロアオイ保存剤の効率的使用方法並びに代替品の研究	福井県和紙工業組合	物質工学科　教授　上嶋晃智	平成20.3.1～平成20.3.31	300,000
		17件			8,635,050

年度	研　究　題　目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
20年度	ナノカーボンを用いた水素センサーの開発	日東シンコー株式会社	電気電子工学科　教授　川本　昂	平成19.7.26～平成.20.9.30	800,000
	木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科　教授　武井幸久 物質工学科　教授　小 泉 貞 之	平成20.4.17～平成21.3.19	1,000,000
	タッチパネルセンサの高機能化	東芝電子エンジニアリング㈱	電気電子工学科　教授　原田望	平成20.5.1～平成20.9.30	300,000
	交流電圧検出回路の研究	株式会社　カワチュウ	電気電子工学科　教授　原田望	平成20.6.3～平成21.3.31	250,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長　加藤省三	平成20.7.1～平成21.3.28	700,000
	有機リン加水分解酵素表層発現酵母を用いた有機リン農薬検査法の開発	(財)若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科　准教授　高山勝己	平成20.7.4～平成21.2.28	1,387,850
	(Ba, Sr)Al2O4:Eu,Dy系高輝度夜光塗料顔料の開発	長岡技術科学大学	一般科目教室　准教授　北浦守	平成20.7.25～平成21.3.31	250,000
	最先端ICT活用PBL型教育による高専・大学統合教育の質向上に関する研究	長岡技術科学大学	電子情報工学科　助教　奥田篤士	平成20.7.25～平成21.3.31	100,000
	加工を利用した構造用金属材料の組織と力学特性の制御	豊橋技術科学大学	機械工学科　教授　加藤寛敬	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製	豊橋技術科学大学	物質工学科　教授　小泉貞之	平成20.8.1～平成21.2.28	360,000
	スマートマイクロチップデバイスを用いた医療・生物・農業　検査チップの研究	豊橋技術科学大学	物質工学科　准教授　高山勝己	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	分子動力学計算による生体高分子の機能解析	豊橋技術科学大学	物質工学科　助教　佐々和洋	平成20.8.1～平成21.2.28	450,000
	森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　准教授　辻子裕二	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　講師　辻野和彦	平成20.8.1～平成21.2.28	270,000
	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と教育メソッドの開発	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　助教　江本晃美	平成20.8.1～平成21.2.28	135,000
	計	15件			6,812,850

年度	研　究　題　目	申　請　企　業	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
21年度	木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科　教授　武井幸久 物質工学科　　教授　　小泉貞之	平成21.5.20～平成22.3.26	1,000,000
	機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長　山田幹雄	平成21.7.1～平成22.2.28	700,000
	メタバースを利用した高専・大学統合型協調プロジェクベース学習手法の研究	長岡技術科学大学	電子情報工学科　助教　奥田篤士	平成21.7.24～平成22.3.31	100,000
	有害残留農薬分解除去システムの基盤構築	長岡技術科学大学	物質工学科　准教授　高山勝己	平成21.8.3～平成22.2.28	280,000
	超強加工した金属材料の力学特性・磨耗特性の解明	豊橋技術科学大学	機械工学科　教授　加藤寛敬	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	インテリジェント医療・生物・農薬検査センサデバイスとの応用研究	豊橋技術科学大学	物質工学科　准教授　高山勝己	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	セラミック蛍光体を添加したLED封止用樹脂の開発	豊橋技術科学大学	一般科目教室　准教授　北浦守	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	機能性バイオ・ナノ材料の分子シミュレーション解析	豊橋技術科学大学	物質工学科　助教　佐々和洋	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	豊橋技術科学大学	環境年工学科　助教　江本晃美	平成21.8.3～平成22.2.28	200,000
	衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境年工学科　講師　辻野和彦	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科　准教授　辻子裕	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製	豊橋技術科学大学	物質工学科　教授　小泉貞之	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
	計	12件			4,170,000

受 託 研 究 受 入 一 覧

年度	研　究　題　目	委　託　者	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
18年度	長残光蛍光体の基礎的物性研究	ＮＥＣライティング株式会社	一般科目教室 助教授　北浦　守	平成18.9.30　～ 平成19.3.31	300,000
	ナノカーボンを用いた水素センサの開発	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果活用プラザ石川	電気電子工学科 教　授　川本　昂	平成18.9.1　～ 平成19.2.28	2,000,000
	機能性色素によるオンサイト放射線検出技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構 研究成果活用プラザ石川	物質工学科 講　師　松井栄樹	平成18.9.1　～ 平成19.2.28	2,000,000
	ガードレールの機械的特性に関する研究	財団法人道路保全技術センター	機械工学科 教　授　加藤寛敬	平成18.10.2　～ 平成18.10.20	105,000
	合　計	４件			4,405,000
19年度	長残光蛍光体の基礎的物性研究	ＮＥＣライティング株式会社	一般科目教室 准教授　北浦　守	平成19.8.11　～ 平成20.3.31	300,000
	緑被の生長を阻害しない薬剤散布による表層地盤の安定化工法	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションサテライト滋賀	環境都市工学科 准教授　辻子裕二	平成19.7.20　～ 平成20.3.31	1,962,000
	獣害対策支援のための地理情報システムの開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションサテライト滋賀	環境都市工学科 講　師　辻野和彦	平成19.7.20　～ 平成20.3.31	1,944,800
	越前和紙の技法とセルロースゲル等を活用した低収縮性和紙の開発	財団法人若狭湾エネルギー研究センター	物質工学科 教　授　上島晃智	平成19.9.21　～ 平成20.2.29	506,656
	シリコンウェハーの高精度研磨・研削技術の開発	若狭技研工業株式会社	電子情報工学科 助　教　西　仁司	平成19.12.15　～ 平成20.2.28	160,000
	合　計	５件			4,873,456

年度	研　究　題　目	委　託　者	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
20年度	子供向けプログラミング教材の評価と検証	株式会社　Jig. j p	電子情報工学科 教　授　蘆田　昇	平成20.4.1　～ 平成21.3.31	260,000
	オンラインプログラミングコンテストの評価と検証	株式会社　Jig. j p	電子情報工学科 講　師　西　仁司	平成20.4.1　～ 平成21.3.31	260,000
	和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究	越前市	環境都市工学科 准教授　奥村充司	平成20.5.1　～ 平成21.3.31	200,000
	持続可能な地域総合防除のための鳥獣害対策支援GISの開発	独立行政法人科学技術振興機構 産学連携事業本部	環境都市工学科 講　師　辻野和彦	平成20.7.10　～ 平成21.3.31	4,882,000
	工場排水中の微量重金属検出－回収ハイブリッド技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾃﾗｲﾄ滋賀	物質工学科 准教授　松井栄樹	平成20.8.8　～ 平成21.3.31	2,000,000
	合　計	５件			7,602,000
21年度	和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究	越前市	環境都市工学科 准教授　奥村充司	平成21.4.15　～ 平成22.3.31	200,000
	カーボンナノチューブを用いた脳波電極の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾃﾗｲﾄ滋賀	電気電子工学科 教授　川本　昂	平成21.8.22　～ 平成22.3.31	2,000,000
	有機色素クラスター形成による高効率金属検出－凝集技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾃﾗｲﾄ滋賀	物質工学科 准教授　松井栄樹	平成21.8.22　～ 平成22.3.31	2,000,000
	越前岬水仙ランド再整備構想策定	越前町	環境都市工学科 教授　武井幸久 講師　辻野和彦 助教　江本晃美	平成21.9.17　～ 平成21.11.30	525,000
	合　計	４件			4,725,000

奨学寄附金受入一覧

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
18年度	教育研究奨励金	一般科目教室　北浦守助教授の教育研究奨励	100,000	福井工業高等専門学校　一般科目教室北浦守	福井県福井市江守中2-1903-6
	教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教授の教育研究奨励	800,000	前田工繊株式会社	福井県坂井市春江町沖布目38-3
	教育研究奨励金	電気電子工学科　原田望教授の教育研究奨励	100,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社大虫電工	福井県越前市上太田町45-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社　武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	株式会社ホリカワ	福井県鯖江市川去町6-8
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	環境都市工学科　廣部英一教授・田安正茂助手の教育研究奨励	300,000	株式会社日本海コンサルタント	石川県金沢市泉本町2丁目126番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	福井めがね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
	教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂2-15-1

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
18年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社ホクコン	福井県福井市今市町66-20-2
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	2,500,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究奨励	3,000,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	電子情報工学科　石川和彦助手の教育研究奨励	100,000	株式会社田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7
	教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教授の教育研究奨励	50,000	株式会社ブライテック	東京都千代田区三崎町2-1-7(岡武ﾋﾞﾙ3F)
	教育研究奨励金	環境都市工学科　奥村充司助教授の教育研究奨励	100,000	日野川流域交流会　事務局長田中保士 (武生商工会議所　総務科内)	福井県越前市塚町101番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アートテクノロジー	福井県鯖江市下河端町第6号1番地33
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸文通商株式会社　福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東工シャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	物質工学科　上島晃智教授の教育研究奨励	300,000	有限会社笠川鋼産	福井県福井市若栄町803番地
	教育研究奨励金	電気電子工学科　川本昂教授の教育研究奨励	600,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	物質工学科　常光幸美教授の教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社　磁性材料研究所	福井県武生市北府2-1-5
	教育研究奨励金	電機電子工学科　新谷邦弘教授の教育研究奨励	90,000	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 ﾌﾛﾝﾃｨｱ新栄2階
	教育研究奨励金	一般科目教室　山田孝禎講師の教育研究奨励	1,000,000	福井工業高等専門学校　一般科目教室山田孝禎	福井県福井市和田2-613

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
18年度	教育研究奨励金	環境都市工学科　辻野和彦講師の教育研究助成	450,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	環境都市工学科　辻野和彦講師の教育研究助成	400,000	鯖江市鳥獣害対策協議会	福井県鯖江市西山町13-1
	計	39件	15,890,000		
年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	物質工学科　西野純一准教授の研究助成(科学技術に関する研究)	546,784	財団法人内田エネルギー科学振興財団(長岡技術科学大学から移換)	新潟県三条市東新保7-7　株式会社コロナ内
	教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教授の教育研究助成	500,000	株式会社吉勝重建	福井県坂井市丸岡町城北6-48
	教育研究奨励金	物質工学科　上島晃智教授の教育研究助成	250,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	物質工学科　上島晃智教授の教育研究助成	150,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	物質工学科　吉村忠與志教授の教育研究助成	500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教授の教育研究助成	600,000	前田工繊株式会社	福井県坂井市春江町沖布目第38号3番地
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東工シャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地の9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町第20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社ホクコン	福井県越前市北府1-2-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	環境都市工学科　辻子裕二准教授の教育研究奨励	100,000	株式会社田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7
	教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教授の教育研究奨励	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32字2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社　武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	電気電子工学科　原田望教授の教育研究奨励	100,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
	教育研究奨励金	一般科目教室　山田孝禎講師の教育研究奨励	200,000	福井工業高等専門学校　一般科目教室山田孝禎	福井県福井市和田2-613
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1
	教育研究奨励金	電気電子工学科　川本昂教授の教育研究奨励	600,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110号1番地1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	300,000	笹原　敬雄	福井県あわら市温泉4-1033
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸文通商株式会社　福井支店	福井県福井市林町62号3番地
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	500,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	電気電子工学科　新谷邦弘教授の教育研究奨励	80,000	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階
	教育研究奨励金	一般科目教室　北浦守准教授の教育研究奨励	66,500	財団法人中部電力基礎技術研究所	愛知県名古屋市中区新栄1-2-31 フロンティア新栄2階
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	2,878,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
19年度	教育研究奨励金	電子情報工学科　井上昭浩教授の教育研究助成	400,000	ハリソン東芝ライティング株式会社	愛媛県今治市旭町5-2-1
	教育研究奨励金	電気電子工学科　川本昂教授の教育研究助成	400,000	日本システムバンク株式会社	福井県福井市中央3丁目5-21
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	600,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	環境都市工学科　奥村充司准教授の教育研究助成	300,000	株式会社エコ・プランナー	福井県福井市渕2丁目1811番地
	計	38件	13,331,284		
年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
20年度	教育研究奨励金	一般科目教室　北浦守准教授の教育研究助成	1,426,500	財団法人日本板硝子材料工学助成会	東京都港区三田3丁目5番27号
	教育研究奨励金	物質工学科　松井栄樹准教授の教育研究助成	100,000	株式会社田中地質コンサルタント	福井県越前市国高2-324-7
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社大虫電工	福井県越前市上太田町45-38
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東工シャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ミツヤ	福井県福井市山室町69-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	電気電子工学科　川本昂教授の教育研究助成	400,000	日東シンコー株式会社	福井県坂井市丸岡町舟寄110-1-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町第20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
20年度	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-3-3
	教育研究奨励金	電気電子工学科　原田望教授の教育研究助成	250,000	株式会社カワチュウ	福井県越前市矢船町第15号10番地9
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	サカイオーベックス株式会社	福井県福井市花堂中2-15-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32字2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	信越化学工業株式会社　武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	福井めがね工業株式会社	福井県鯖江市北野町2-2-11
	教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教授の教育研究助成	500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	丸文通商株式会社　福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	2,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	国立高等専門学校における制御技術に係る教育研	1,000,000	オムロン株式会社	京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801号
	教育研究奨励金	環境都市工学科　辻野和彦講師の教育研究助成	600,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	環境都市工学科　奥村充司准教授の教育研究助成	300,000	株式会社エコ・プランナー	福井県福井市渕2丁目1811番地
	教育研究奨励金	物質工学科　高山勝己准教授の教育研究助成	750,000	財団法人クリタ水・環境科学振興財団	東京都新宿区西新宿3丁目4番7号
	教育研究奨励金	環境都市工学科　辻子裕二准教授の教育研究助成	100,000	大日コンサルタント株式会社	岐阜県岐阜市藪田南3-1-21
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	300,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	機械工学科　田中嘉津彦教授の教育研究助成	500,000	株式会社不二越	富山県富山市不二越本町1-1-1
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	30,000	鯖江市めだかクラブ	福井県鯖江市本町3-2-12

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
20年度	計	32件	10,276,500		
年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
21年度	教育研究奨励金	物質工学科　上島晃智教授の教育研究奨励	300,000	福井県和紙工業協同組合	福井県越前市大滝町11-11
	教育研究奨励金	環境都市工学科　山田幹雄教授の教育研究奨励	500,000	轟産業株式会社	福井県福井市毛矢3-2-4
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社ホクシン	福井県福井市経田1-104
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	武生特殊鋼材株式会社	福井県越前市四郎丸町21-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	東工シャッター株式会社	福井県鯖江市熊田町1-100
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	酒井化学工業株式会社	福井県鯖江市川去町32-2-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社アタゴ	福井県福井市みのり4-13-1
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	丸一調査設計株式会社	福井県福井市開発町20-6
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	株式会社ホクコン	福井県福井市今市町66-20-2
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	大和建設株式会社	福井県越前市村国2-13-12
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社カズマ	福井県福井市八重巻町105
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	丸文通商株式会社福井支店	福井県福井市林町62-3
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	2,000,000	福井工業高等専門学校　機械工学科岡田将人	福井県鯖江市桜町3丁目1-20
	教育研究奨励金	国立高等専門学校における制御技術に係る教育研究支援のため	1,000,000	オムロン株式会社	京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町801号
	教育研究奨励金	図書・雑誌の購入	200,000	ナカヤ化学産業株式会社	大阪府大阪市新池島町1丁目17-23
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校の教育研究助成	20,000	北陸テレコム懇談会	東京都豊島区駒込2-3-10

年度	寄附金の名称	寄附の目的	受入額(円)	寄附者名	寄附者住所
21年度	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	300,000	信越化学工業株式会社　武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	株式会社 サンルックス	福井県鯖江市丸山町3-5-25
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	500,000	信越化学工業株式会社　武生工場	福井県越前市北府2-1-5
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	吉 岡 幸 株式会社	福井県鯖江市御幸町1-2-10
	教育研究奨励金	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校　教育後援会	福井県鯖江市下司町
	教育研究奨励金	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	スガイ化学工業 株式会社	和歌山県和歌山市宇須町4-6
	計	24件	8,600,000		

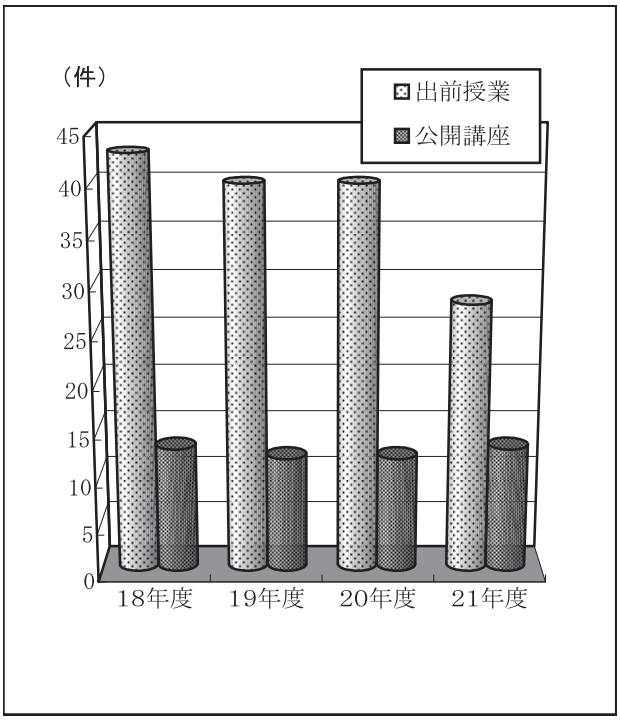
※平成21年12月31日現在

出前授業・公開講座実施一覧

（件数）

年　度	出前授業	公開講座	合　　計
１８年度	43	13	56
１９年度	40	12	52
２０年度	40	12	52
２１年度	28	13	41
合　計	151	50	201

※平成21年12月31日現在



出前授業実施一覧

年度	■ 機 械 工 学 科				
18年度	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	8月9日	武生第一中学校	越前市中学技術家庭科主任会での講義(越前市ロボットコンテストについて)	井上清一	技術家庭科の主任の先生方(6名)
	9月16日	大虫小学校	親子でものづくり体験学習	田中嘉津彦, 藤田克志, 村中貴幸, 学生9名	5年生及びその保護者(約140名)
	10月1日	越前市たけふ菊人形野外ステージ	第1回越前市中学生ロボットコンテスト2006 (ロボットコンテストの審査)	井上清一	越前市の中学生(40名)
	10月8日	ユーアイふくい	アイデアロボットの実演展示・操縦体験	安丸尚樹,藤沢秀雄,北川浩和,学生12名	幼小中学生親子(400名)
	1月24日	味真野小学校	ポンポン蒸気船とコアンダカーの製作	田中嘉津彦, 吉田敏実, 水島宏和, 学生3名	小学4～6年生(14名)
	1月28日	大安寺小学校	流れを利用したおもちゃづくり	藤田克志, 卒業生1名	小学3・5・6年生とその保護者　(55名)
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	5月30日	立待小学校	燃料電池の実験	川本昂	5年生(28名)
	6月27日	河和田小学校	ソーラーカーの試乗会, ソーラーボートの製作	川本昂	4年生(53名)
	7月3日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(30名)
	7月6日	武生第三中学校	電磁気実験	新谷邦弘, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(30名)
	7月10日	武生第三中学校	電磁気実験	新谷邦弘, 丸山晃生	2年生理科選択生徒(30名)
	7月13日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 佐藤匡	2年生理科選択生徒(27名)
	8月3日	鯖江市環境教育支援センター	燃料電池の実験	川本昂	小中学生(15名)
	9月21日	東陽中学校	超低温の世界へ	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)
	10月23日	東陽中学校	燃料電池の実験	川本昂, 新谷邦弘	3年生理科選択生徒(30名)
	10月30日	東陽中学校	色素増感太陽電池	川本昂, 新谷邦弘	3年生理科選択生徒(30名)
	11月8日	東陽中学校	人工の虹作り	川本昂	3年生理科選択生徒(30名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
18年度	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者（参加者数）
	12月4日	東陽中学校	静電気モータの製作	川本昂	3年生理科選択生徒（30名）
	12月11日	東陽中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘，学生1名	3年生理科選択生徒（30名）
	12月20日	東陽中学校	人工の雷	川本昂	3年生理科選択生徒（30名）
	2月26日	東陽中学校	ホバークラフトの製作	川本昂，学生1名	3年生理科選択生徒（30名）
	3月7日	鳥羽小学校	クリップモーターの製作	川本昂，学生3名	3年生（80名）
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者（参加者数）
	5月31日	味真野小学校	南極教室	前川公男，学生4名	5・6年生(97名)
	6月28日	南条小学校	AIBOで遊ぼう	西仁司，学生4名	4～6年生科学クラブ(16名)
	7月18日	北新庄小学校	南極教室	前川公男，学生2名	5・6年生(85名)
	8月7日	能楽の里文化交流会館	池田町公民館講座（南極教室）	前川公男，学生2名	地域小学生(約50名)
	9月6日	大虫小学校	南極教室	前川公男，西仁司，学生4名	5・6年生（約140名）
	9月19日	武生西小学校	南極教室	前川公男，上島晃智，内藤岳志，学生4名	5・6年生（約140名），保護者，教員（30名）
	■ 物 質 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者（参加者数）
	6月14日	味真野小学校	科学クラブでものづくり	小泉貞之，野村栄市	理科クラブ，クラブ指導教員，校長　(23名)
	6月28日	味真野小学校	液体窒素を用いた実演，実験	大嶋俊一，野村栄市	4～6年生（16名）
	8月5日	豊小学校	「納涼祭」	吉村忠與志，松井栄一，大嶋俊一，川村敏之，野村栄市，片岡裕一	5年生（44名),6年生（33名)とその保護者
	9月10日	進徳小学校	進徳小学校PTAによる親子の集い「おもしろ理科実験」	吉村忠與志，上島晃智，川村敏之，片岡裕一，山本裕之，学生2名	1～3年生（30名），4～6年生（30名）とその保護者　（約100名）
	10月24日	王子保小学校	理科クラブで化学実験1	吉村忠與志，学生2名	理科クラブ，クラブ指導教員（25名）

年度	■ 物 質 工 学 科				
18年度	11月17日	王子保小学校	理科クラブで化学実験2	小泉貞之，野村栄市，学生1名	理科クラブ，クラブ指導教員（25名）
	11月22日	中央中学校	電池の仕組み	吉村忠與志，高山勝己，加藤敏 野村栄市，片岡裕一	理科クラブ，クラブ指導教員，校長（25名）
	11月24日	王子保小学校	理科クラブで化学実験3	吉村忠與志，上島晃智，学生4名	理科クラブ，クラブ指導教員（25名）
	12月8日	王子保小学校	理科クラブで化学実験4	吉村忠與志，上島晃智，学生5名	理科クラブ，クラブ指導教員（25名）
	12月13日	中央中学校	燃料電池	小泉貞之，松井栄樹，大嶋俊一， 学生3名	理科クラブ，クラブ指導教員，校長（25名）
	■ 環 境 都 市 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者（参加者数）
	5月19日	河和田公民館	ワークショップ成果報告会 見つめてみよう身近な環境	武井幸久，学生8名	河和田地区の小学生と一般（80名）
	7月29日	第2会場　家久浄化センター	あそぼう！まなぼう！浄化センター版 ☆橋ってこんなに強いんだ	前島正彦，荒木俊幸，吉田雅穂， 学生3名	越前市内の幼小中学生と保護者（200名）
	12月13日	武生第三中学校	自分で確かめよう！自然災害のぼうさいエンス	吉田雅穂，辻子裕二	2年生（30名）
	2月14日	味真野小学校	プロジェクトWET（水の環境）	奥村充司,学生5名	味真野小学校科学ｸﾗﾌﾞ4～6年生　（14名）
	2月21日	味真野小学校	形が変わると強さが変わる	辻野和彦，阿部孝弘，学生1名	味真野小学校理科クラブ（14名）
	計　　43　　件				

年度	■ 一 般 科 目 教 室				
19年度	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	11月2日	河和田小学校	断層があるのに地震がない	岡本拓夫	６年生児童
	■ 機 械 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	9月15日	大虫小学校	親子でのものづくり体験教室	田中嘉津彦, 藤田克志, 芳賀正和, 吉田敏實, 学生9名	5年生およびその保護者(約110名)
	9月28日	進明中学校	進明小学校へロボット達がやってくる	井上清一, 藤沢秀雄, 学生6名	進明中学校全校生(約450名)
	10月20日	岡本小学校	岡本小学校　ゴーゴー学校	上嶋晃智, 加藤敏, 松井栄樹, 片岡裕一, 田中嘉津彦	
	11月30日	小浜市西津小学校	流れを利用したおもちゃ作りを通して学ぶサイエンス	藤田克志,　村中貴幸, 学生１名	小学校３年生　（３１名）
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月19日	武生第三中学校	燃料電池を作ろう	新谷邦弘, 佐藤匡, 丸山晃生	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月21日	武生第三中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘, 三好正行	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月26日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 山本幸男, 大久保茂	第2学年理科選択生徒(30名)
	6月27日	東陽中学校	超低温の世界へ	川本昂, 河原林友美, 学生1名	第2学年理科選択生徒(25名)
	7月3日	武生第三中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘, 佐藤匡	第2学年理科選択生徒(30名)
	7月4日	東陽中学校	ソーラーカーの試乗会, ソーラーボートの製作	川本昂, 原田望	第2学年理科選択生徒(25名)
	7月5日	武生第三中学校	超低温の世界へ	川本昂, 荒川正和	第2学年理科選択生徒(30名)
	7月10日	進徳小学校	ホバークラフトの製作	川本昂	理科クラブ児童(12名)
	8月8日	進徳小学校	紙ヘリコプターの製作(1～3年), 液体窒素を使った実験(4～6年)	川本昂, 学生2名	小学生1～3年(66名), 4～6年(101名) ※希望者のみ
	10月29日	豊小学校	太陽電池のしくみ・新エネルギーの解説, ソーラーカーの試乗会, おもちゃのソーラーボートコンテスト	川本昂	第5学年生徒(43名)

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
19年度	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	12月1日	きらめきみなと館	発光ダイオードを用いた工作教室	荒川正和，丸山晃生	主に幼児・小学生とその保護者，他，中学生～大学生・一般など（６０名）
	12月4日	東陽中学校	雷とプラズマ発光「人工の雷」	川本昂	第２学年理科選択生徒（２５名）
	1月23日	東陽中学校	手作りモーターと手作り発電機	川本昂	
	3月17日	和田小学校	わくわく授業	川本昂	第５学年　　（１１４名）
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月29日	勝山市地場産センター	夏休み工作(歯磨きロボット製作)教室	斉藤徹，前川公男，清水幹郎，学生5名	小中学生と保護者(20組40名)
	7月24,25日	越前市生涯学習センター	アイボくんと遊ぼう！	西仁司，学生7名	越前市内小学生5～6年生(25名程度)
	8月18,19日	福井県越前市サンドーム	歯磨きロボット工作教室	斉藤徹，青山義弘，西仁司，堀井直弘，　学生7名	小中学生と保護者(20組40名)
	11月27日，28日	福井市中藤小学校体育館	南極教室	前川公男	４～６年生，教職員，保護者（約４００名）
	12月7日	小浜市田烏小学校	ＡＩＢＯと遊ぼう	西仁司，奥田篤志，学生４名	小学３年～６年生（１９名）
	12月15日	大野市森目小学校	ＡＩＢＯと遊ぼう	西仁司，前川公男，学生５名	全校生徒　保護者（３０名）
	12月16日	越前町萩野小学校	ＡＩＢＯと遊ぼう	西仁司，奥田篤志，学生５名	小学４，５年生　保護者（３０名）
	■ 物 質 工 学 科				
	期　日	出前授業先	概　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月10日	武生西小学校	武生西小学校4年生親子の集い	小泉貞之，上嶋晃智，西野純一，野村栄市，片岡裕一，学生2名	小学校4年生約60名,その保護者約60名，小学校教員4名　　(130名)
	7月11日	武生味真野小学校	武生味真野小学校　科学クラブ	小泉貞之，野村栄市，	小学生約30名＋教員1名
	8月22-23日	福井高専	サイエンスパートナーシップ教育連携講座	高山勝己，吉村忠与志，野村栄市，片岡裕一，小泉貞之	武生2中10名,鯖江東陽中10名,教員2名
	9月7日	清水中学校	体験ワークショップコーナー　電池と光	小泉貞之，上嶋晃智，野村栄市，学生2名	中学生約60名,教員3名

年度	■ 物 質 工 学 科				
19年度	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	10月20日	岡本小学校	岡本小学校 ゴーゴー学校	上嶋晃智，加藤敏，松井栄樹，片岡裕一，田中嘉津彦	
	11月11日	東安居小学校	おもしろ理科実験	吉村忠与志、野村栄市、片岡裕一、加藤敏	
	■ 環 境 都 市 工 学 科				
	期 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月5日	池田第三小学校	「角間郷の自慢を見つけよう」－きれいな水ってなんだろう？－	奥村充司，学生5名	池田第三小学校3・4年生 （7名）
	7月28日	越前市家久浄化センター	「あそぼう！、まなぼう！ エコバックつくり」	奥村充司，学生6名	越前市内の小学生(50名)
	8月1日	北川・若狭歴史民族資料館	夏休み水生生物による簡易水質調査	奥村充司，学生6名	小浜第二中学校，上中中学校(30名)
	8月6日	九頭竜川・鳴鹿大堰・鳴鹿館	夏休み水生生物による簡易水質調査	奥村充司，学生6名	松岡小学校・松岡中学紘，志比小学校，永平寺中学校(60名)
	11月28日	味真野小学校	煉瓦アーチをつくろう!!	田安正茂，学生１名	科学クラブ（１６名）
	計 40 件				
20年度	■ 機 械 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	9月20日	越前市大虫小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦、藤田克志、芳賀正和、村中貴幸、吉田敏實、学生9名	小学校5年生とその保護者 140名
	10月15日	越前市神山公民館	おもちゃ(紙トンボ、バルーンカー)づくりの体験	藤田克志、学生5名	小学校1～3年生ほか 19名
	11月8日	福井市六条小学校	めざせ国技館！	安丸尚樹、学生3名	小学生、保護者、教員 200名
	2月14日	神山小学校	親子でおもちゃづくり体験	藤田克志、芳賀正和、学生9名	小学校1年～6年とその保護者90名
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月11日	東陽中学校	ホバークラフトの製作	川本昂	第2学年理科選択生徒（18名）
	6月25日	東陽中学校	明るさの値段-電気エネルギーってどういうもの？-（Ｉ）	山本幸男、荒川正和	第2学年理科選択生徒（18名）

年度	■ 電 気 電 子 工 学 科				
20年度	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月2日	東陽中学校	明るさの値段-電気エネルギーってどういうもの？-(Ⅱ)	山本幸男、荒川正和、河原林友美	第2学年理科選択生徒 (18名)
	9月25日	福井市 東安居小学校	科学不思議体験	川本昂、学生1名	小学校4年生72名
	11月12日	東陽中学校	燃料電池の製作	新谷邦弘、斉藤弘一	第2学年理科選択生徒 (18名)
	11月19日	東陽中学校	発電機を作ろう	新谷邦弘	第2学年理科選択生徒 (18名)
	11月26日	東陽中学校	科学不思議体験	川本　昂	第2学年理科選択生徒 (18名)
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	8月6日	越前市生涯学習センター	LEGOブロックでロボット作り	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生 (15名)
	8月7日	越前市生涯学習センター	LEGOブロックでロボット作り	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生 (14名)
	9月24日	鯖江東小学校	南極教室	前川公男	小学校3～6年児童 (236名)
	10月26日	鯖江市学生活動拠点施設「らてんぼ」	初心者向けゲームプログラミング講座	蘆田昇	中学生　7名
	1月21日	国高小学校	簡単なアニメーションを作成するプログラミング講座	蘆田昇、学生3名	理科クラブの4年生～6年生32名
	1月28日	国高小学校	簡単なアニメーションを作成するプログラミング講座	蘆田昇、学生3名	理科クラブの4年生～6年生32名
	■ 物 質 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月4日	オオタキ神社	和紙の里の歴史について	上島晃智	武生2中　1年生6名、教諭1名
	7月9日	東陽中学校　理科教室	環境にやさしいものづくり「酸化と還元を利用したものづくり化学	小泉貞之、佐々和洋	中学生20名、教諭1名
	7月9日	越前市味真野小学校 理科教室	液体窒素を用いた低温実験とものづくり科学	小泉貞之、佐々和洋、野村栄市	小学生(科学クラブ)20名
	7月16日	東陽中学校　理科教室	光とエネルギー、回折と分光のものづくり	小泉貞之	中学生20名、教諭1名
	7月24日	越前市南児童センター	液体窒素を用いた化学実験など	川村敏之、高山勝己、加藤敏、上島晃智、吉村忠与志、野村栄市、片岡裕一	小学生40人

年度	■ 物 質 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月29日	越前市国高児童センター	液体窒素を用いた化学実験など	川村敏之、高山勝己、津田良弘、上島晃智、吉村忠与志、西野潤一、野村栄市、片岡裕一	小学生20人
	7月30日	越前市味真野児童センター	液体窒素を用いた低温実験とものづくり科学	川村敏之、松井栄樹、小泉貞之、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一	小学生15名、職員2名
	8月1日	越前市中央図書館学習支援室	極低温の世界探検	吉村忠與志、上嶋晃智、野村栄市、片岡裕一	小学生40名、保護者15名
	8月9－10日	サンドーム	愉遊誘おもしろフェスタ	物質工学科全教職員、5年学生30名	小中学生、保護者 2、000名程度
	8月28日	福井高専	SPP 遺伝子技術に触れ生命の神秘について考えよう	川村敏之、高山勝己、片岡裕一、野村栄市	中学生20名、教員2名
	8月20日	あすなろ保育園	「あっと驚く実験」講義	吉村忠與志	保育士35名
	11月8日	越前市中央図書館学習支援室	ふれてみよう楽しい化学教室	津田良弘、小泉貞之	小学生30名、中学生5名、保護者10名
	11月9日	福井市東安居小学校	ふれあいフェスティバル「空気銃とアイスクリーム作製」	吉村忠與志、小泉貞之、松井栄樹、佐々和洋、野村栄市、片岡裕一	小学生100名、保護者80名、教諭10名
	11月21日	福井高専	福井県消防学校専科教育「燃焼分析実験」	吉村忠與志、片岡裕一、野村栄市	福井県消防士24名
20年度	11月22日	福井市酒生小学校	福井サイエンス寺子屋「低温実験」	吉村忠與志、津田良弘、片岡裕一、野村栄市	小学生60名、保護者15名
	■ 環 境 都 市 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月18日	東陽中学校	「安全な飲み水とは？」	奥村充司、辻子裕二	第3学年理科選択生徒
	7月30日	小浜市北川・天徳寺橋、高塚橋	平成20年度北川水生生物等による水質調査	奥村充司, 学生5名	雲浜まちづくり委員会(大人6名、小学6年生14名)
	9月6日	鯖江市環境教育支援センター	環境マップづくり	辻子裕二、学生2名	4年～6年の児童20名
	10月22日	東陽中学校	地震が引き起こす液状化現象−エッキーを作ろう！−	吉田雅穂、阿部孝弘	中学校2年生(理科選択生徒) 18名
	10月29日	東陽中学校	川の水質を調べよう	奥村充司、田安正茂	中学校2年生(理科選択生徒) 18名
	11月26日	国高小学校	環境計測と環境マップづくり	辻子裕二、学生2名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名＋教諭2名
	12月10日	国高小学校	水の旅	奥村充司、学生5名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名＋教諭2名
	12月17日	国高小学校	形が変わると強さが変わる	辻野和彦、学生2名	小学校4～6年の児童(科学クラブ)30名＋教諭2名
	計 40 件				

年度	■ 機 械 工 学 科				
21年度	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月11日	大虫小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦，藤田克志，芳賀正和，村中貴幸，吉田敏實，学生11	小学校５年生とその保護者（120名）
	8月12日	越前市社会福祉センター	バルーンカーとホバークラフトの作製	藤田克志，亀山建太郎，金田直人，ほか学生６名	小学１～３年生（40名）
	10月3日	日野小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦，村中貴幸，吉田敏實	小学校５年生とその保護者
	10月25日	中河小学校	親子でおもちゃづくり体験	芳賀正和，学生4名	小学生および保護者（40名）
	■ 電 気 電 子 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	6月17日	**東陽中学校**	**カラフル燃料電池の実験**	**川本　昂**	**第2学年理科選択生徒(17名)**
	9月5日	越廼中学校	プラズマ発光と他の発光	**川本　昂，学生１名**	全学年生徒（33名）
	9月28日	東安居小学校	科学不思議体験	川本昂，学生1名	小学４年生（69名）
	11月18日	東陽中学校	太陽熱発電について	川本昂	第２学年理科選択生徒（17名）
	■ 電 子 情 報 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	8月6日	越前市生涯学習センター	ＬＥＧＯでロボットを作ろう	西仁司，奥田篤士	越前市内の小学生(15名)
	8月7日	越前市生涯学習センター	ＬＥＧＯでロボットを作ろう	西仁司，奥田篤士	越前市内の小学生(16名)
	8月29日	夢みらい館・さばえ	レゴブロックでロボットを作ろう	西仁司，奥田篤士	鯖江市内の小中学生(23名)
	10月29日	文殊小学校	南極教室	前川公男	３～６年生児童，保護者　４年生新型インフルエンザのため閉鎖　（100
	11月8日	福井県生活学習館	アイボくん操作体験	西仁司，学生4名	女性団体会員（11名）
	11月25日	服間小学校	南極教室	前川公男	４・６年生，教職員，保護者（45名）※５年生は新型インフルエンザのため学年閉鎖

年度	■ 物 質 工 学 科				
21年度	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	7月1日	神山公民館	身の回りのおもしろ科学（化学）	津田良弘，小泉貞之，松井栄樹，佐々和洋，野村栄一，片岡裕一	神山小学校４年生（27名）
	7月5日	和田小学校	超低温の世界を体験	吉村忠與志，小泉貞之，津田良弘，西野純一，佐々和洋，野村栄	小学２年生とその保護者
	7月22日	南中山公民館	超低温の世界を体験	吉村忠與志，加藤敏，野村栄一，片岡裕一	小学１～３年生（18名）
	8月4日	今立南部児童館	超低温の世界の体験とアルコールロケット	上島晃智，西野純一，佐々和洋，野村栄一，片岡裕一	小学１～３年生（35名）
	8月5日	国高公民館	超低温の世界を体験	吉村忠與志，野村栄一，片岡裕一	小学１～６年生（18名）
	8月12日	越前市社会福祉センター	身の回りのおもしろ科学（化学）	上島晃智，小泉貞之，津田良弘，野村栄一，片岡裕一	小学１～４年生（45名）
	8月18日	味真野児童センター	身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界を体験	津田良弘，上島晃智，加藤敏，佐々和洋，野村栄一，片岡裕一	小学１～６年生（20名）
	8月22日	北日野公民館	身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界を体験	津田良弘，野村栄一，片岡裕一	小学１～２年生と保護者（20名）
	8月25日	大虫公民館	身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界を体験	加藤敏，高山勝己，西野純一，松井栄樹	小学１～３年生（54名）
	9月4日	清水中学校（学園祭）	超低温の世界を体験	吉村忠與志，上島晃智，津田良弘，片岡裕一	学園祭での希望者の中学１～３年生（60名）
	9月16日	味真野小学校	超低温の世界を体験	小泉貞之，上島晃智，川村敏之，野村栄一	理科クラブ（20名）
	10月28日	東陽中学校	酸化還元反応を用いた身近な化学反応	小泉貞之，佐々和洋	第２学年理科選択生徒（17名）
	11月4日	東陽中学校	バイオマスエネルギーとしてのバイオエタノール	吉村忠與志，片岡裕一，学生２名	第２学年理科選択生徒（16名）
	■ 環 境 都 市 工 学 科				
	実 施 日	出前授業先	概　　要	担当教職員	対象者(参加者数)
	12月2日	東陽中学校（理科室）	生き物のかたちの不思議から構造を学ぶ	阿部孝弘，奥村充司	２年生理科選択生徒（14名）
	計　　28　　件				

※平成21年12月31日現在

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
１８年度	6月3，4日	英検合格をめざして(３級)「春季コース」	中学生 ２０名	
	6月3，4日	英検合格をめざして(準２級)「春季コース」	中学生 ２０名	
	7月22日	やってみよう　ソーラーカー手作り教室	小学生５年生～中学生３年生 １５名	１１名
	7月22，23日	おうちで簡単ＬＡＮ活用	中学生 １０名	
	7月28，29，30日	『楽しい電子回路入門』―マイコンでロボットを動かしてみよう！―	中学生 １５名	１名
	8月5，6日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 ２０名	２名
	8月10，11日	『ブリッジコンテスト　２００６』　～橋をつくってみよう～	中学生 １５名	３名
	9月30日，10月1，7，8日	基本情報技術者試験に向けて	高校生以上(秋期試験申込者) １５名	４名
	9月30日，10月1日	「身の回りの“もの”を作ってみよう」―材料・素材いろいろ―	中学生 １０名	１名
	10月2，3，4日	問題解決のためのＥｘｃｅｌで解く科学計算入門	一般および学生 ２０名	
	10月7，8日	英検合格をめざして(３級)「秋季コース」	中学生 ２０名	
	10月7，8日	英検合格をめざして(準２級)「秋季コース」	中学生 ２０名	２名
	12月16，17日	英文法基礎講座	中学校３年生 ２０名	１名
	計	１３件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
１９年度	7月29日	やってみよう　ソーラーカー手作り教室	小学校高学年～中学校３年生 ２０名	３５名
	7月28, 29日	楽しい電子回路入門　―マイコンでロボットを動かしてみよう！―	中学生 １５名	１５名
	8月4, 5日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 ２０名	２名
	8月6, 7日	『ブリッジコンテスト　２００７』　～橋をつくってみよう～	中学生 １５名	２名
	8月19日	電子工作教室　「FMワイヤレスマイクの製作」	中学生 １０名	１０名
	8月25日	化学を楽しむ講座	一般および学生(化学知識に興味のある方) ２０名	１名
	9月8日	身の周りの電池のサイエンスを学ぼう	中学生 １０名	２名
	9月30日, 10月6, 7, 13日	基本情報技術者試験に向けて	高校生以上(秋季試験申込者) １０名	
	10月1, 2, 3日	品質管理検定に向けたＥｘｃｅｌによる品質管理入門	一般および学生 (Excelで品質管理を上達したい方)20名	１０名
	10月6, 7日	英検合格をめざして（３級）	中学生 ２０名	６名
	10月6, 7日	英検合格をめざして（準２級）	中学生（英検３級取得者） 社会人(英語学習を再開したい方)20名	１名
	12月15, 16日	英文法基礎講座	中学３年生 ２０名	６名
		１２件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
２０年度	6月28日(土)　8月2日(土)	「化学」はじめの一歩	化学に興味がある中学3年生以上の初学者 ２０名	３名
	7月26日（土）7月27日（日）	『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－	中学生 １２名	９名
	7月27日（日）	夏休みの自由研究講座「ちからとかたち」	小学生高学年 １０名	６名
	7月27日（日）	やってみよう　ソーラーカー手作り教室	小学生高学年・中学生 ２０名	２０名
	8月1日(金)　　8月8日(金) 8月22日(金)　　8月29日（金） 9月5日（金）　9月12日（金）	技術士第一次試験を突破しよう！！	技術士第一次試験の受験を考えている人 １５名	
	８月２日（土） ８月３日（日）	小学生のための初めてのプログラミング	小学生高学年 １０名	２名
	８月７日（木）	遊びは学び－You・遊・ものづくり教室－	中学生 １５名	１３名
	８月１１日（月）	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生 １０名	５名
	８月１６日（土）	忠先生の化学教室	中学生 １０名	６名
	８月１７日（日）	電子工作教室「ＦＭラジオを組み立てよう」	小学生・中学生 １０名	１０名
	１０月４日（土） １０月５日（日）	英検準2級合格をめざして	中学生（英検3級取得者が望ましい） 社会人（英語学習を再開した方） ２０名	４名
	１２月１３日（土） １２月１４日（日）	英文法基礎講座	中学３年生 ２０名	２名
		１２件		

公開講座実施内訳

年度	実施日	講座名	受講対象者／募集定員	受講者数
２１年度	7月25日	小さな大工さん講座　「木造住宅模型をつくろう！！」	小学生高学年，中学生 ８名	６名
	7月26日	やってみよう　ソーラーカー手作り教室	小学生高学年，中学生 ２０名	２０名
	7月26日	夏休みの自由研究講座　「ちからとかたち」	小学生高学年 １０名	１０名
	7月31日	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生 １２名	１２名
	8月1日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生 ２０名	１２名
	８月１日，２日	『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－	中学生 ６名	８名
	8月16日	電子工作教室「ＦＭラジオを組み立てよう」	小学生高学年，中学生 １０名	９名
	8月21日	化学を楽しむ講座	一般及び学生（高校生以上） ２０名	
	8月22日	蛍光体の科学―電磁波と材料の不思議な関係－	小学生高学年以上 ６名	４名
	8月29日			２名
	9月19日	ふるさと福井のかんきょうを測る	小学生高学年，中学生 ２０名	１６名
	１０月３日，４日	英検準２級合格をめざして	中学生（英検3級取得者が望ましい）， 社会人（英語学習を再開した方） ２０名	５名
	10月10日	初めての簡単プログラミング	小学４年生～中学２年生 １０名	７名
	１２月１２日，１３日，１９日， ２０日	英文法基礎講座	中学３年生 ２０名	１１名
		１３件		

公開授業実施一覧

年度	実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
18年度	加藤 寛敬	機械工作法Ⅱ	平成18年6月1日	村中 貴幸，芳賀 正和，前川 公男，青山 義弘，藤田 克志
	小泉 貞之	放射線概論	平成18年8月29日	上嶋 晃智，大嶋 俊一，田中 嘉津彦，山本 幸男
	川本 昂	ものづくり科学	平成18年12月14日	新谷 邦弘，大久保 茂，村中 貴幸，辻野 和彦，山本 幸男
	安丸 尚樹	材料学Ⅱ	平成18年12月18日	加藤 寛敬，吉崎 保夫，平井 惠子，辻野 和彦，藤田 克志
	吉村 忠與志	情報化学	平成18年12月21日	平井 惠子，小泉 貞之，藤田 克志，中谷 実伸，常光 幸美
	武井 幸久	都市交通工学	平成19年1月10日	山田 幹雄，奥村 充司，中谷 実伸，亀山 建太郎，辻野 和彦
	森　芳周	倫理社会	平成19年1月17日	前田 安信，瀬川 直美，奥村 充司，亀山 建太郎，中村吉秀
	大久保　茂	電気回路Ⅳ	平成19年1月18日	川本 昴，山本 幸男，前川 公男，辻子 裕二
	野村　保之	情報理論Ⅰ	平成19年1月22日	下條 雅史，高久 有一，坪川 武弘，芳賀 正和
	柳原　祐治	解析Ⅱ	平成19年1月24日	小林 秀紹，荻野 繁春，新谷 邦弘，坪川 武弘，中谷 実伸
	原口　治	英語Ⅲ	平成19年1月25日	中村 吉秀，森　貞，荻野 繁春，西　仁司，藤田 克志
19年度	北浦　守	工学基礎物理Ⅱ	平成19年5月2日	坪川 武弘，原田 望，武井 幸久，山本 裕之
	山田　幹雄	建設複合材料	平成19年7月3日	吉崎 保夫，阿部 孝弘，辻子 裕二，辻野 和彦，岡田 将人
	藤田　克志	流れ学Ⅱ	平成19年7月6日	芳賀 正和，亀山 建太郎，長水 壽寛，廣部 英一，安丸 尚樹
	山本　幸男	電気回路Ⅲ	平成19年10月25日	新谷 邦弘，米田 知晃，河原林 友美，村中 貴幸，井之上 和代
	荒川　正和	ディジタル技術	平成19年11月21日	米田 知晃，佐藤　匡，河原林 友美，亀山 建太郎，平井 惠子
	西野　純一	無機化学Ⅰ	平成19年12月20日	小泉 貞之，津田 良弘，松井 栄樹，米田 知晃，辻子 裕二
	下條　雅史	情報理論Ⅰ	平成20年1月24日	前川 公男，斉藤 徹，米田 知晃，中谷 実伸
20年度	村中　貴幸	材料力学Ⅱ	平成20年6月18日	田中 嘉津彦，芳賀 正和，阿部 孝弘，前島 正彦，中谷 実伸
	佐藤　匠	制御工学	平成21年1月13日	米田 知晃，山本　幸男，河原林　友美，平井　惠子，辻子　裕二
	吉田　三郎	英語Ⅰ	平成21年1月20日	森　貞，原口　治，宮田　一郎，中村 吉秀，小寺　光雄
21年度	中谷 実伸	基礎解析B	平成21年12月14日	坪川 武弘，山本 裕之，荒川　正和，西 仁司，長水 壽寛，宮田 一郎
	米田 知晃	情報処理Ⅰ	平成21年12月15日	石栗　慎一，新谷 邦弘，西 仁司，中谷 実伸，丸山 晃生
	吉田　雅穂	構造力学Ⅰ	平成21年12月18日	村中 貴幸，奥村 充司，辻子 裕二，長水 壽寛，辻野 和彦

※平成２１年１２月３１日現在

教員の派遣一覧 ― 平成16年度以降 ―

■海外先進教育実践支援プログラム

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究題目
平成16（2004）	常光　幸美	物質工学科	H17.3. 30 ～H18. 3. 29	連合王国	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料創製
	吉田　雅穂	環境都市工学科	H17.3. 25 ～H18. 3. 24	アメリカ合衆国	安全なものづくりのための力学教育法の構築

■国際研究集会派遣研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究集会名
平成17（2005）	吉村　忠與志	物質工学科	H17.12. 15 ～H17. 12. 20	アメリカ合衆国	2005環太平洋国際化学会議

■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	派遣先大学名	研究題目
平成18（2006）	岡田　将人	機械工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	金沢大学大学院	CBN（立方晶窒化ホウ素）工具を用いたハードミリングに関する研究
	田安　正茂	環境都市工学科	H18.5. 1 ～H19. 2. 28	長岡技術科学大学大学院	人工構造物に作用する流体力の数値計算法の開発およびその現地検証

■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	取組名称
平成19（2007）	丸山　晃生	電気電子工学科	H20.3. 30 ～H21. 3. 1	オーストラリア国立大学（ANU）	非古典論理に対する自動推論システムの構築とその高専教育への展開

※平成21年12月31日現在

自己点検・評価委員会委員名簿

委員長	池田大祐	校　長
委　員	太田泰雄	副校長（企画室長）
委　員	安丸尚樹	副校長（教務主事）
委　員	上島晃智	校長補佐（学生主事）
委　員	朝倉相一	校長補佐（寮務主事）
委　員	田中嘉津彦	校長補佐（専攻科長）
委　員	藤田克志	機械工学科長
委　員	前多信博	電気電子工学科長
委　員	蘆田　昇	電子情報工学科長
委　員	津田良弘	物質工学科長
委　員	阿部孝弘	環境都市工学科長 教育システム評価委員長
委　員	島田　茂	一般科目教室（自然科学系）主任
委　員	前田安信	一般科目教室（人文社会科学系）主任
委　員	小寺光雄	図書館長
委　員	加藤省三	総合情報処理センター長
委　員	山田幹雄	地域連携テクノセンター長
委　員	前川公男	教育研究支援センター長
委　員	吉村忠與志	JABEE 委員会委員長
委　員	武田良正	事務部長

平成２２年２月発行

編　集　福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発行者　独立行政法人　国立高等専門学校機構
福井工業高等専門学校
〒916－8507　福井県鯖江市下司町
TEL 0778－62－1111（代）
FAX 0778－62－2597（総務課）
URL http://www.fukui-nct.ac.jp